

二 中國改革借款一件 二六四

三一八

ヲ示シ礪山ノ如キニ就テ見ルモ現時有名ナル諸礪山ハ全部外資ト外国人ノ技術トニヨリテ經營セラレツアレバナリ今ヤ經濟借款除外ニ對スル英國ノ声明ハ利權獲得競爭ノ益々激甚ノ度ヲ加ヘ来リシヲ證明シ而シテ其放資目的物ノ礪山鐵道事業ヲ主トスルハ近ク支那ガ原料國トシテ世界市場

ニ雄飛スル時機米蘭トスルヲ暗示スルモノナリ
支那ト最モ距離近接シ而カモ未ダ工業ノ發達歐米ニ如カズ農產物礪產品ノ比較的潤沢ナラサル帝國ハ遠カラズ產業上ニ一大革命ノ襲来スルヲ辭スル能ハサラン

事項三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件

二六五 二月一日 在上海有吉總領事ヨリ

加藤外務大臣宛

中國大總統選舉ニ対スル孫文ノ意向ニ關スル
情報送付ノ件

附屬書 一月三十日駐在員宗方小太郎提出文書

孫文問答

機密第一〇号

(二月十日接受)

大正二年二月一日

在上海

總領事 有 吉 明(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ關シ昨日駐在員宗方小太郎ヨリ別紙提出有之候間御
查閱相成度尙別紙ハ同時ニ北京公使ヘモ及送付候右申進候
敬具

(附屬書)

大正二年一月三十日

宗 方 小太郎

孫逸仙問答

余曰 足下ト黄君ト之ヲ願ハザレバ國民黨中別ニ適才無シ

余問 足下若シ之ヲ欲セザレバ勢黃興君ヲ推スニ至ラン知
ラズ黄君此ニ意有ルヤ否

実ニ難事タリ

本月二十九日午後孫逸仙ヲ英租界五馬路ノ鐵道局ニ訪ヒ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二六五

三一九

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二六六

已ムコトヲ得ザレバ再ビ袁世凱ヲ挙グルニ至ランカ

孫曰 余ハ個人トシテ袁ハ最モ穩當ノ人物タルヲ信ズ故ニ

第一期總統ニハ彼ヲ挙グルヲ以テ得策ト為ス若シ袁ニシテ落選スルガ如キ有ラバ軍隊ノ統馭困難トナリ延テ大乱ノ始ラ造ルニ至ランコトヲ恐ル目下袁世凱ヲ排斥スルハ

我国ノ事態ニ通ゼザル者ノ為ス所ナリ

余曰 国会ノ開設地点ヲ南京ニ移サント運動スル者有リ之

ニ対スル貴見如何

孫曰 現下ノ情勢ハ此ノ如クナルヲ許サズ依然北京ニ於テスルヲ穩當ト為ス

孫逸仙トノ問答概略如此孫ノ意中ヲ忖度スルニ内治、外

交艱難ノ時ニ際シ總統タルノ難キヲ自覺シ第一期ヲ袁世

凱ニ譲リテ難局ヲ料理セシメ己レハ民間ニ在テ此期間ニ

於テ専ラ自党ヲ訓練シ人材ヲ培シ勢力ヲ養ヒ以テ第二期ニ

ニ活動ヲ試ミント欲スルニ非ザルカ現下ノ時局ニ処シテ

總統タルノ至難タルコトハ常識有ル者ノ皆了会スル所ナ

リ万一孫黃ニシテ之ニ当ラバ覆敗実ニ眼前ニ在リ孫黃ノ

之ヲ願ハザル亦タ自知ノ明有リト謂ハザル可カラズ然レ

ド国民党ニシテ第一期ヲ袁ニ譲リ第二期ニ於テ活動セ

公第一五号

大正二年二月七日

在福州

(二月十九日接受)

二六六 二月七日 在福州土谷領事代理ヨリ

及新任福建民政長張元奇遭難ニ關シ報告ノ件

福州ニ於ケル第二次革命ノ陰謀ニ対スル弾圧

署名

外務大臣男爵 加藤高明殿

副領事 土 谷 久米蔵(印)

新任福建民政長張元奇ニ対スル一部ノ反対ト相俟テ第二次革命ヲ企謀セル護閩社等アリテ種々ナル暗潮紛争伝ヘラレ官憲ハ犯罪嫌疑者ノ捕縛ヲ行ヒタル次第ハ既ニ及報告候處

民政長張ハ一月九日軍艦海容、海籌両号護衛ノ下ニ当地馬尾ニ入港同夜直チニ海兵ノ警護ニヨリテ入城致候爾來張ハ軍民分治制ニヨル行政組織ノ改革其他各界ノ歓迎來訪等ニ忙殺セラレ特ニ本邦官民ニ対シ好意ヲ有スルモノ、如ク來往席温マルナキノ状態ナリシガ一方ニ於テ第二次革命護閩社等ノ陰謀ハ一旦露見シタルモ依然潛カニ企画シツヽアルヲ以テ官憲ハ多方探偵ヲ放チ犯人ノ検挙ニ努メ一月二十八日嫌疑者張漢英ノ逮捕ヲ発端トシ同三十一日護閩社々長陳瑞燦同決死隊々長錢大聖及ヒ陳金堯(瑞燦ノ父)ノ三名ヲ捕縛シ陳瑞燦、錢大聖ノ二名ハ軍法ニ照シテ直チニ死刑ヲ執行シタリ

右ニ関スル二月二日付都督及ヒ民政長連名ノ告示ヲ見ルニ近頃不法ノ匪徒アリ護閩社ノ名目ヲ仮リテ不軌ヲ図謀セルニヨリ本都督ハ出示厳禁シ且ツ軍警ニ飭シテ一律ニ查掌セシメタリ其後屢々偵探ノ報告スル所ニ拠レバ該党ハ血書ヲ分布シ參議參謀ノ各部ヲ設ケテ決死隊ヲ編成シ竟ニ政府ヲ顛覆センコトヲ圖レリ當時大總統ニ電請シタルニ省城廈門一帯ニ於テ如シ謠言ヲ造リテ人心ヲ煽惑シ以テ政府ヲ顛覆セントスルモノアラバ鄂案ヲ援照シ軍法ニヨリテ懲弁スヘ

シトノ電命アリ爾來警務厅ハ倉前山対湖衝ニ於テ危険物其他帳簿証書等ヲ発見セリ次テ又張漢英ナル者ヲ捕ヘテ取調ヘタルニ護閩社ハ均シク陳瑞燦ナル者ノ主謀セル所ニシテ其依托ヲ受ケテ炸弹ヲ製造セル旨口供セリ於是本都督及警務厅ハ昨日夏醴泉地方ニ於テ陳瑞燦並ニ陳金堯、錢大聖等三名ヲ逮捕セシメタルニ各犯身中ヨリ護閩社章程及ヒ決死隊憑証誓詞介紹書等ノ各物件ヲ搜出セリ查スルニ此事件ヲ探知スルニ先ダチ旧年末ニ際シ匪徒機ニ乗シテ煽動センコトヲ慮カリテ予メ本都督ヨリ戒厳令ヲ下セリ今該犯人ハ証拠確鑿ニシテ本ト一律ニ懲弁スヘキモ主謀者陳瑞燦ハ張漢英ノ立証ニヨリテ罪状明確ナリ決死隊々長錢大聖ハ憑証アルニヨリ自ラ大總統ノ電命ニ遵照シ先ツ右両名ヲ軍法ニ照シテ懲弁シ陳金堯張漢英ノ二名ハ審判厅ニ移送シ情罪ノ輕重ニヨリテ处分セシム此外尚ホ護閩社副社長、參議長、參謀長、暗殺隊々長等アリ均シク陳瑞燦ノ同類ニシテ罪容スヘカラザレバ業ニ軍警ニ通飭シテ極力嚴拿ヲ命シタリ云々トアリ而シテ伝フル所ニヨレバ右護閩社々長陳瑞燦ハ又陳宗漢トモ称シ年齢三十五六歳ニシテ原ト福州ニ於テ茶商ヲ営ミシガ頗ル爆裂物製造ノ技ニ長シ一昨年革命ノ當時広東

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二六七

三一一一

軍政府ニ重用セラレタルコトアリ其ノ後廣東人ノ為メ排斥セラレテ当地ニ帰レリト云フ尚ホ護閩社ハ福州ノミナラズ興化泉州地方ノ土匪ト氣脈ヲ通シ福建出身ノ兵士最モ多数ヲ占メ入会金トシテ十元ヲ徵セリト云ヒ目下其党員ハ七八万人ニ達セリト称スレトモ未ダ俄カニ信スヘカラズ本月四日午後四時民政長張元奇ハ偶々当地ニ滯在中ノ三井物産会社香港支店長ニ対シ答礼ノ為メ往訪シタル帰途南台ヨリ之城内ニ通スル万寿橋上ニ於テ爆発物ノ破裂ニ遭遇セルノ椿事起レリ幸ニ張元奇ハ護衛兵一名ヲ負傷セシメタルノミニテ危害ヲ免レタルモ轟然タル爆発ノ下ニ通行人十四五名ノ即死者及重軽負傷者二十余名ヲ出シタルノミナラズ石造ノ橋欄ヲ吹キ飛ハシテ河中ニ溺死シタルモノモ尠ナカラズ幸ニ外国人ニハ何等被害ナカリシト雖モ当日ハ旧年末ニ際シ加フルニ兎行地万寿橋附近ハ雜沓ノ要衝ナリシカバ一時市民ハ大ニ恐慌ヲ極メタリ之力為メ官憲ハ軍艦江貞ヨリ水兵ヲ致スル等益々警戒ヲ嚴ニスルト共ニ一方兎犯ノ捕拿ニ努メ懸賞ヲシテ之カ捜索ヲ為シツ、アリ蓋シ本事件ノ發生ハ前述セル第二革命者輩ノ所為ニ出テタルハ疑ナキモノ、如ク

ナルモ或ハ今回公布ノ各省地方行政官厅組織ニヨル軍民分治ノ制ガ益々孫都督ノ地位ヲ薄弱ナラシムルモノナルヲ以テ此ノ形勢ニ憤慨セル湖南派一部ノ陰謀ニ出テタルモノナルヘシト揣摩スルモノアリト雖モ当ラザルガ如ク又近時当地官憲ガ本邦官民ニ接近シツ、アルヲ以テ之ヲ嫉視シ若シクハ自己ノ非望ヲ掩ハントスルノ徒ハ今回ノ出来事ヲ本邦人ノ劃策ニ出テタルモノト誣フルモノアリ之ヲ要スルニ当地政府界ハ依然党争政敵排外等紛乱ノ状態ニアリテ今後トモ椿事ノ再発ナキヲ保スヘカラズ之ニ対スル張民政長ノ措置頗ル注目ニ值スルモノアリト存候

右報告申進候 敬具

追テ本信ハ北京公使、台灣總督府民政長官及ヒ上海廣東廈門ノ各領事ニ送付致置候也

二六七 三月二十五日 在中国伊集院公使ヨリ
前農林總長宋教仁暗殺ニ関シ臨時大總統令公

布ノ件

公第一〇六号 附屬書 三月二十二日付右臨時大總統令訖文
(四月五日接受)

大正二年三月二十五日

在清國

特命全權公使 伊集院 彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸頭殿

宋教仁暗殺ニ閔スル臨時大總統令三月二十二日附ヲ以テ公布相成候ニ付別紙訖文及送付候 敬具

(附屬書)

(別紙)

臨時大總統令訖文

昨日前農林總長宋教仁ヨリノ來電ニ拋レハ二十日晚上海停

車場ニ於テ奸人ニ狙撃セラレ重傷ヲ負ヒタリト因テ江蘇都

督程德全民政長應德閔及上海地方官滬寧鐵路總弁ニ電令シ

テ重賞ヲ懸ケ期限ヲ定メテ犯人捕縛ニ努力セシメ並ニ交渉

使陳貽範ヲ遣シテ慰問セシメタリ嗣テ該交渉使ヨリノ來電

ニヨレハ宋前總長ハ二十二日午前四時遂ニ創傷ノ為メニ逝

去セリト民國ニ建設サレ人才得難キノ時該犯人大胆ニモ

敢テ衆目昭彰ノ地ニ於テ勳良ノ士ヲ狙撃セルニ所轄巡警ハ

現場ニテ捕縛スルヲ得ス遂ニ逃逸セシメタリ報ニ接シテ

殊ニ痛憤ニ堪ヘス前農林總長宋教仁國事ニ奔走シ共和ヲ議

二六八 三月二十六日

在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

宋教仁暗殺ハ袁世凱ノ使嗾ニ出ツルコト及議

会ニ於テ袁ヲ彈劾ノ意向ナル旨孫文内話ノ件

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二六八

三二三

第三〇号

今二十六日孫逸仙ニ面談シタル処宋教仁暗殺事件ハ事頗ル重大ナリトシ昨朝帰還以来受取リタル報道ニ依レハ其尠クトモ袁世凱ノ使嗾ニ出テタルハ証拠歴然タルモノアリ然モ其一派ハ之ヲ国民党員中ノ所為ニ帰セシメントスルノ目算ナルハ數日来一部新聞紙ノ報道ニ依リテ認メラルヘキモ幸ニシテ關係者ノ捕縛セラレ証拠書類モ押収セラレタル以上其真相明白トナルノ日遠キニアラサルヘシト為シ從来自分ハ他ノ批難ヲ排シテ袁ニ対シ十分ノ同情ト援助ヲ与ヘ来リタルハ御承知ノ通リナルモ袁ニシテ大統領ノ榮職ニ在リテ尚此種卑劣ナル手段ヲ執ルニ於テハ到底他ノ看過スル所トナラサルヘク將自分ニ於テモ最早一步モ仮借シ能ハサル所ニ付昨日來党ノ有力者ト協議シテ飽迄正当ノ手段ニ依リ世界ノ公議ニ訴ヘ袁ヲ排斥ゼンコトニ決意セリ即チ議会ハ予定ノ通り之ヲ招集セシメ此劈頭袁ヲ彈劾シテ之カ立場ヲ失ハシメン考ナリ而シテ若シ自党ノ主張スル政党内閣主義ニシテ貫徹セハ大總統ハ一ノ「フィギュア、ヘッド」ニ付何人ニテモ可ナルヘク場合ニ依リテハ國家ノ為自ラ之ニ当ルヘシト述ヘ国民党ノ勢力ハ北方ニ於テ甚タ侮リ難キモノア

ナラサルヘク將自分ニ於テモ最早一步モ仮借シ能ハサル所ニ付昨日來党ノ有力者ト協議シテ飽迄正当ノ手段ニ依リ世界ノ公議ニ訴ヘ袁ヲ排斥ゼンコトニ決意セリ即チ議会ハ予定ノ通り之ヲ招集セシメ此劈頭袁ヲ彈劾シテ之カ立場ヲ失ハシメン考ナリ而シテ若シ自党ノ主張スル政党内閣主義ニシテ貫徹セハ大總統ハ一ノ「フィギュア、ヘッド」ニ付何人ニテモ可ナルヘク場合ニ依リテハ國家ノ為自ラ之ニ当ルヘシト述ヘ国民党ノ勢力ハ北方ニ於テ甚タ侮リ難キモノア

二六九 三月二十六日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

袁世凱ノ使嗾ニ依ル宋教仁暗殺ニ對スル國民

黨ノ方策ニ關シ孫文内話詳報ノ件

附屬書 右孫文内話

機密第四二号

大正二年三月二十六日

在上海

総領事 有 吉 明(印)

(四月四日接受)

外務大臣男爵 牧野伸頤殿
宋教仁暗殺事件ニ關シ孫逸仙ノ内話要領ハ以電報及報告置候處尙ホ別紙何等カノ御参考迄及提出候 敬具
追テ本信写ハ北京公使ニ及送付置候

(別紙)

宋教仁暗殺事件ニ關スル孫文内話

宋教仁ノ暗殺ハ實ニ重大ナル事件ニシテ時局ノ為メ痛心ニ堪ヘス昨二十五日帰滬ノ後各方面ヨリ得タル情報ヲ綜合シテ其少クトモ袁世凱ノ使嗾若クハ暗示ニ出テタルハ殆ント明白ニシテ之等ノ内情ノ曝露スルノ日ハ局面ニ頗ル憂慮スヘキ現象ヲ呈スヘシ袁ノ心事ノ陋劣ニシテ有ラユル奸策ヲ弄スルハ余ノ元ヨリ熟知スル所ナルモ今次ノ卑劣ナル暗殺手段ニ至リテハ実ニ言語ニ絶スベレ一身ヲ大總統ノ榮位ニ置キ然モ之ヲ主義主張ノ上ニ争ハス小人ヲ使嗾シテ暗殺ヲ敢テスルカ如キ寸毫モ仮借ノ余地ナシ袁ハ梁士詒其他ヲ放チ之ヲ揚子江一帯ノ「デテクチーブ」トナシ一定ノ電信暗号ヲ備ヘ事務所ヲ設ケ機關ヲ備ヘテ隠密ノ間各種ノ計画ヲ為シツツアリ或ハ暗殺等ノ風説ナキニアラサリシハ我党モ

ルニ付本件ハ独リ南北乖離ノ原因タルノミナラス北方ノ事態ニ於テモ紛擾ヲ免レサルヘク何レニシテモ議会招集大總統選舉ニ際シテハ更ニ憂フヘキ現象ヲ示スヘク日本政府ニ於テモ此際十分注意ヲ払ハレ警戒ヲ加ヘラレタキ旨懇談シ頻リニ時局ヲ憂慮セルモノノ如シ尚同人ハ我邦ノ歓迎ニ對シ多大ノ謝意ヲ表シ居タリ因ミニ宋教仁暗殺ノ嫌疑者武士英ハ一昨二十四日仏國居留地警察署ニ之カ教唆者ト目セラル共進会々長応慶亟ハ同日各国居留地警察署ニ各逮捕セラレ今日迄訊問ノ結果ハ疑ナキ犯人ト認メラル御参考迄右公使ヘ転電済

亦之ヲ知ラサリシニアラス然モ彼レ一派陋劣ナル宋ノ暗殺ヲ以テ国民党内部ノ所為ニ帰セシメ却テ党ノ内訌ヲ謀ラントノ企テナルカ如ク多数ノ新聞紙ヲシテ此種ノ報道ヲ掲ケシメ延テ外字新聞ニモ類似ノ記事ヲ載スルニ至ラシメタリト雖モ国民党内部ノ毫モ之ニ逃ハサルル事ナキハ勿論暗殺ノ當時直ニ下手人ノ捕縛セラレタランニハ或ハ却テ証拠ノ煙滅ヲ見シヤモ未タ知ル可ラサルモ幸ニ下手人及ヒ直接ノ教唆者逮捕ト同時ニ之カ家宅ヲ搜索シ証拠書類ヲモ合セテ押収セル趣ニ付事實真相ノ判明スルノ日遠キニアラサルヘク其袁ニ關係ヲ有セリトノ想像若クハ断案ハ殆ント誤リナカラシ事ヲ恐ル

元來宋教仁ハ生氣澆刺敢為ノ氣性ヲ有シ党内ニ於テハ却テ差シタル声望アラサリシモ党外各方面ニ涉リテ知己ヲ有シ之ヲ黃興ノ自党ニノミ勢力アリテ自重動力サルニ比シ宋ノ存在ハ袁ニ取リテハ一層危險視サレシモ無理ナラス之レ其劈頭第一ノ犠牲タリシ所以ニ外ナラス然モ袁ニシテ此種陋劣ナル手段ニ出テス主義主張ヲ以テ争フニ於テハ独リ宋ノミナラス何人ト雖モ其間大局ヨリ打算シテ妥協互讓ノ余地アラサルナカラシヤ余ハ支那ノ現状ヨリシテ時局收拾ノ必

要ヲ認メ他ノ多数ノ批難攻撃ヲ顧ミス從來極力袁ヲ援助シ一部ノ党員ニ於テ袁暗殺ノ計画ナキニアラサリシモ之ヲ切止スルノミナラス却テ之ヲ第一次ノ大總統タラシメン事ニ努力シツツアリタルハ一般ノ認ムル所ノ如シ然ルニ今ヤ彼ハ尚ホ此種惡辣ナル手段ヲ弄スルヲ已メス余ト雖モ黙止スル能ハサルヲ如何セン即チ彼ハ世界ニ向テ大總統タル資格ナキ一ノ卑劣漢タルヲ證明セルモノニシテ余ノ從来ノ計画ハ茲ニ水泡ニ帰セリ依テ昨日來党ノ領袖ト共ニ今後ノ手段方法ヲ合議シ飽ク迄平和公明ナル方針ヲ以テ袁ニ対スヘク即チ議会ハ元ヨリ予定ノ如ク之ヲ招集セシメ議会ニ於テ袁ヲ弾劾シ人道ト正義ニ基キ世界ニ對シ公人タル袁ノ存在ヲ失セシメン決心ナリ袁ハ北方ニアリテ親軍ヲ有ン其勢力侮ル可ラサルハ元ヨリ熟知スル所ニシテ之等ヲ利用シテ其慣用手段タル有ラユル強圧ヲ加フ可キモ国民党ノ北方ニ於ケル勢力ハ予想ノ外ニアルカ故ニ延テ北方ノ紛擾ヲ來シ袁ノ成功期シテ望ム可ラサルヘク若シ彼レニシテ非常手段ヲ講スルニ於テハ我レニ於テモ亦自ラ之レカ方案ナキニアラス若シ如此クハ時局益々紛糾スヘク何レニシテモ宋ノ暗殺ヨリ

シテ国会召集大總統選舉問題ニハ憂ブヘキ現象ヲ呈スヘシ若シ夫レ国民党ニシテ袁ヲ排斥シタル後ニ於テハ大總統ハ果シテ何人ヲ推スヘキヤハ明言シ得サルモ既ニ党ノ主義タル政党内閣制ノ方針ヲ貫徹シ得ル以上大總統ハ一ノ榮位ニ止マリ敢テ必スシモ才幹力量アル人士ヲ待ツノ要アラサル可ク國家ニシテ余ヲ必要トセハ余ト雖モ元ヨリ辞セサル所ナリ何レニシテモ宋暗殺ニ伴フ政局ノ影響ハ極メテ重大ト認ムルニ付日本政府ニ於テモ十分ニ注意ヲ払ハレ相当戒意アランコトヲ希望ス云々

二七〇 三月二十八日 (在上海有吉總領事ヨリ
收野外務大臣宛(電報))

宋教仁暗殺關係嫌疑者審理問題ニ付英國總領事等ノ意見報告ノ件

第三四号 在北京伊集院公使宛第一五号

宋教仁暗殺關係嫌疑者審理問題ハ多少重要ナル關係ヲ惹起スペクト存シタルニ付最モ本件ニ關係深キ英國總領事ノ意見ヲ質シタル處同總領事ハ来ル月曜日英國會審官立会ノ下ニ開カルル会審衙門ノ法廷ハ之ヲ公開トシ一応ノ審理ヲ終リタル後之ヲ支那側審判庁へ一切ノ証拠物件ト共ニ引渡ス

在上海

總領事 有 吉 明(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

国民党重要人物タリン前農林部總長宋教仁ノ暗殺事件及國民党ノ態度ニ關シテハ本件發生以來屢々電報ノ通リニシテ本件ノ成行如何ハ支那政界ニ重大ナル紛擾ヲ惹起スルノ恐レアリト認メラルニ付今日迄ノ孫黃ノ内話及當館調査ヲ綜合シ別紙及報告候間御查閱相成度尚ホ本件ニ關シテハ今后隨時電報スルト同時ニ号ヲ追フテ本件題目ノ統報ヲ提出可致ニ付左様御承了相成度此段報告申進候 敬具
追テ本件報告写ハ北京公使、漢口、天津、奉天、廣東、哈爾賓各總領事、南京、長沙、福州、重慶、杭州、蘇州各領事及第三艦隊司令官ニ及送付候間左様御念置相成度右申添候也

二七一 三月二十八日

(在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛)

宋教仁暗殺事件ニ關シ報告ノ件

附屬書 右報告

機密第四三号

大正二年三月二十八日

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七一

(附屬書)

宋教仁暗殺事件ニ關スル報告

一、宋ノ暗殺重傷及死去后ノ状況

二、兇行及教唆犯人ノ捕縛及法廷審問

(イ)発覚ノ端緒

三一七

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七一

三二八

(1) 王阿発ノ陳述

(ア) 加害者武士英及教唆人応夔亟ノ就縛

(イ) 会審衙門ノ第一回審理

三、被告犯人ノ素性及袁世凱一派トノ関係

(イ) 武士英ノ素性

(ロ) 応夔亟ノ素性

(ハ) 応夔亟ト洪述祖並ニ袁趙一派トノ関係

(ニ) 宋暗殺ニ関シ北京ト聯絡ノ証拠發覚

四、宋暗殺ト袁趙一派ノ態度

一、宋ノ暗殺重傷及死去后ノ状況

当地滯在中ノ宋教仁ハ既報正式国会開会ニ際シ国民党ノ方針及行動等ニ關シ黄興其他同志トノ協議略ホ終リタル為メ

本月二十日ノ夜行列車ニテ北上セントシテ黄興及国民党員

ニ見送ラレ午后十時半滬寧停車場ニ至リ将ニ「プラットホーム」ニ出ル刹那一刺客ノ為メ短銃ニテ腰部ヲ擊タレ重傷ヲ蒙ムリ直ニ滬寧病院ニ送ラレ応急手術ヲ請ケ翌日彈丸ヲ取出シタルモ負傷意外ニ重ク遂ニ二十二日午前四時四十八分逝去シ遺骸ハ荘嚴ナル葬儀ニヨリ二十三日午后病院ヨリ高昌廟ナル湖南会館ニ送ラレ本月二十九日同会館ニ於テ追

悼会ヲ挙行スル筈ナリ

而シテ右暗殺者ハ當時二三ノ同類ト共ニ巧ミニ現場ヲ逃走セリ依テ犯人逮捕ノ為メ黄興、陳其美ハ一万元ヲ閩北巡警局ハ一万元ヲ滬寧鐵路局ハ五千元ヲ懸賞シ各警察署及国民党員等ハ上海租界及華界ハ勿論蘇州其他各方面ニ亘リ犯人

捜査ニ從事セシモ当初二十二日宋ノ死去以前ニ「救國協會代表鉄民」ナル匿名ニテ宋ニ対シ予ハ長沙ヨリ漢口ヲ經テ上海ニ某君（暗ニ黄興ヲ指ス）ヲ送リ來リ機会アラバ暗殺セント企テシニ昨夜誤ツテ足下（宋）ヲ狙撃セシハ申訳ナシトノ奇怪文意ノ書面ヲ病院ニ送ルト同時ニ同様ノ投書ヲ民立報ニ送リシト云フノ外犯人逮捕ハ俄カニ端緒ヲ得サリシ為メ兇行關係ニツキ各種ノ謠言粉起セリ

二、兇行及教唆犯人ノ捕縛及法廷審問

(イ) 発覚ノ端緒 国民党員張秀泉ノ僕鄧文斌ナルモノ右張ニ對シ過日友人ノ家ニテ知合トナレル河南鄧州人王阿発ヨリ前ニ新聞記者ヲナシ革命當時ノ首領ニシテ近時迄官吏タリシモノアリ同人ハ近々北上ノ筈ナルガ上海又ハ其途中ニテ同人ヲ暗殺セバ一千元ノ賞金ヲ与フベシトテ右暗殺ノ相談ヲ受ケタルモ鄧ハ之レヲ拒絶シタルモ去ル二十日宋教仁ノ

狙撃事件ハ右ニ闇聯セルモノニ非スヤト打明ケタリ依テ張秀泉ハ国民党同志等ト種々協議ノ上鄧ヲシテ王阿発ノ所在ヲ探ラシメ仮租界馬徳里ニテ王ヲ発見シタルニ付種々好言ヲ構ヘテ二十三日午后五時ヨリ王ヲ其旅館ニ招キ大事ナケレバ今日迄ノ様子ヲ詳細話ス可シト迫リタルニ王ハ隠謀者ノ勢力大ナレバ人ニ氣付カレザル様別所ニテ語リタシトテ席ヲ換ヘタリ

(ロ) 王阿発ノ陳述 王阿発ハ張秀泉等ノ質問ニ對シ語ル処ニヨレハ王ハ書画商人ナルガ一週間計リ以前仮租界文元房ナル応夔亟ノ宅ニ商売ノ為メ赴キタル際応ハ王ニ對シ此者ヲ暗殺スルノ胆力アル人アラバ周旋セザルヤ若シ其目的ヲ達セハ一千元ノ賞金ヲ与フベシトテ周囲ヲ切取リテ何等ノ文字ナク裏面ニ商務印書館明信片トノ文字アリタル絵葉書ノ写真ヲ示シタルガ王ハ鄧文斌コソ適當ノ人物ナリト思ヒ其后此事ヲ鄧ニ語リタルニ鄧ハ之レヲ拒絶シタル次第ナリ其後數日王ハ道ニテ馬車ニ乗レル応ニ遇ヒタルカ其時応ハ馬車ヲ止メ王ニ對シ過日依頼ノ件出来サレバ夫レニテ宜敷ニ付他言スル勿レ若シ他言ノ場合ハ殺ス可シト威嚇セリ云々ト語レリ依テ張秀泉ハ王阿発ト共ニ二十三日夜共同居留地

ヲ狙撃シ同夜ハ五馬路ノ鹿野旅館ニ宿シ翌朝応宅ニ至リ暗殺主謀者ハ全ク応夔亟ナリト白状セリ

(2)会審衙門ノ審理 教唆嫌疑人タル応夔亟ハ二十四日午后共同居留地会審衙門ニ於テ英國会審官「ハンドリー、デリ」及聶会審官ニヨリ第一回ノ審理ヲ受ケ加害者武士英ハ二十五日午后仏國居留地会審衙門ニ於テ仏国会審官「レビシナー」及聶会審官ヨリ第一回審理ヲ受ケタルガ本件關係者ニシテ未タ逮捕セサル者アリ又証拠物調査ノ都合ニヨリ

応夔亟ハ本月三十一日共同居留地会審衙門ニテ第二回会審ヲ開カルコトトナリ武士英モ同法廷ニテ証拠人トシテ同時ニ審理セラルル筈ニテ被告応ハ已ニ二三ノ外国弁護士ヲ聘シテ弁護ニ当ラシメントシ国民党側ニ於テモ警察署弁護士ノ外更ニ二人ノ外国弁護士ヲ聘スルコトトナリ

三、被告犯人ノ素性及袁世凱一派トノ關係

(1)武士英素性

武士英ハ玉生ト号シ山西省平陽龍門人ト称シ名刺ニハ雲南七十四標二營管帶ニシテ標統代理ト記シ革命事変后青島、南京、蘇州、上海ノ間ニ往来シ上海ニハ約二ヶ月前ニ来リ生活困難ノ為メ共進会ニ入会シ何事カヲ為シテ金ヲ得ント欲

セシ際応夔亟ヨリ一千元ノ懸賞ニヨリ宋教仁暗殺ヲ依頼セラレ遂ニ本件ヲ惹起セシ人物ニシテ武ノ宋狙撃ハ單ニ賞金ヲ得タサニ機械的ニ為シタルモノノ如ク年僅ニ二十二ナリ

而シテ武士英ノ申立ニヨレバ同人ト応トノ間ニハ武ヲ応ニ紹介シタル陳玉生ナル者アリ現ニ同人兎行ノ際ニハ陳モ滬寧停車場ニ同行シ居リタリト云ヒシガ陳玉生モ遂ニ二十七日鎮江ニテ逮捕セラレ当地ニ護送スルコトトナリ

(2)応夔亟ノ素性(応ノ別名ヲ桂馨トモ称ス)

応夔亟(昨年末当館報告ノ政党結社調査ニ詳記セシ秘密結社ノ変身タル共進会々長ナリ)ハ浙江省寧波人ニシテ數年前上海ニ於テ有名ナル無賴漢范高頭ノ參謀ナリシモ范カ官憲ニ捕ヘラレテ死刑ニ處セラレタル後租界驅逐ノ身分トナリシガ當時袁世凱ノ胞弟袁世輔カ当地ニ於テ行ヒタル姦通事件ニ関シ人ヨリ訴ヘラレ支那官憲ニ拘留セラレタル際応ノ尽力運動ニヨリ和解トナリ次テ袁世輔カ候補道ノ官ヲ買フテ蘇州督弁署總弁トナルヤ前ノ關係ニヨリ袁ハ當時ノ蘇州巡撫ニ応ヲ保举シテ江蘇候補知県トナシ或ル官職ヲ与ヘシモ暫クニシテ不正行為ノ為メ革職セラレ応ハ更ニ河南ニ赴キ再ヒ河南候補知縣ノ官ヲ買ヒ或官職ヲ得タリシモ又々

不正事件ニヨリ直ニ革職トナリ当地附近ニ無賴漢トシテ横行セシカ其后革命軍ノ上海占領當時都督陳其美ハ彼レヲ滬軍都督府ノ諜報科々長ニ命セシモ時々不正ヲ働キ陳都督モ持テ余シ居リシ處孫逸仙カ南京ニ臨時政府組織ノ際同人ハ總統府衛隊司令トシテ南京ニ先着セシモ(孫ノ内話ニヨレバ孫カ南京到着當時同人主トシテ總統府内ノ準備ヲ整ヘ例ヘバ僅ニ一元ノ料理ヲ備ヘテモ計算ノ際ハ之レヲ五元ト記キ立テ一方之レカ支払ヲ自己ノ手ヨリ受取リナカラ更ニ巨大ナル金額ヲ南京大總統府費用トシテ北京財政部ヨリ横領セル悪人ナリト云フ)其后彼ノ行動ハ往々ニシテ横暴ヲ極メ且ツ信用ス可ラサル点多キ為メ彼カ南京下関兵站部長ニ転セラルルヤ浦口ノ土地横領其他ノ不法行為アリ排斥ノ声高カリシ為メ免官トナリ爾來彼ハ青洪帮等ノ解散兵乃至ハ無賴漢ノ頭目トシテ當地ニ既報ノ如キ共進会ヲ組織シ自ラ其會長トナリ浙江、江蘇ノ各地ニ支部分部ヲ設ケ無賴漢取締ノ好名目ニテ種々ナル惡事ヲ働く一時湖北ニ赴キ同地兵交ニ關係シタル為メ黎元洪カ殺サントシタルヲ程徳全ノ電報ニヨリ漸ク許サレテ上海ニ逃ヶ帰レリ

(ハ応夔亟ト洪述祖トノ關係

セシムルコトトナリ洪述祖ハ其后北京ニ帰リ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七一

三三二

〔〕宋暗殺ニ関シ北京ト聯絡ノ証拠発覚
然ルニ国民党力總撲拏優勢ノ結果政党内閣組織ノ貫徹ヲ計
ラントシ宋教仁之ガ總理タルコトニ同党側ニ内定スルヤ元
来宋教仁ノ政治智識ト敏捷ナル運動手腕ハ他政党ヲシテ余
リニ反感ヲ有セシメズ（国民党内ニテハ勿論孫黃尤モ人望
アリ宋ハ固ヨリ黄興ノ下風ニ立テルモ他党ニ対シテハ宋ハ
黄興ヨリモ重キヲ置カレシハ事実ナリ）從テ国会開会後ニ
於ケル宋教仁ノ行動ハ袁趙一派ニ於テハ重大ナル影響ヲ受
クル形勢トナリタル為メ遂ニ非常手段ニヨリ先ツ宋教仁ヲ
來燕前ニ暗殺シ尚ホ出来得バクンバ孫黃始メ国民党ノ重要
人物約六十名ノ暗殺計画ヲ立テ其内意ヲ含マシメ之レカ報
酬トシテハ公債三百五十万元及勳位贈与ヲ約シタル電報ア
リ又梁士詒広東行ノ途次当地ニ立寄リタル際亦秘密ニ応ト
種々協議シタル事実アリト伝ヘラル而シテ本月中旬北京ヨ
リ応夔亟ニ宛テタル秘密電ニヨレバ先ツ匪魁（宋教仁ノ
コトナラン）ヲ殺ス可シト命シ次イテ其后ノ秘密電ニヨレ
ハ可成早ク殺ス可シト命シ而シテ宋教仁ノ暗殺終ルヤ直ニ
同夜十一時頃応ヨリ北京洪述祖ニ対シ秘密電ニテ其旨ヲ通
シ下手人一同無事ト報シ更ニ翌朝午前二時半長文ノ秘密電

人物約六十名ノ暗殺計画ヲ立テ其内意ヲ含マシメ之レカ報
酬トシテハ公債三百五十万元及勳位贈与ヲ約シタル電報ア
リ又梁士詒広東行ノ途次当地ニ立寄リタル際亦秘密ニ応ト
種々協議シタル事実アリト伝ヘラル而シテ本月中旬北京ヨ
リ応夔亟ニ宛テタル秘密電ニヨレバ先ツ匪魁（宋教仁ノ
コトナラン）ヲ殺ス可シト命シ次イテ其后ノ秘密電ニヨレ
ハ可成早ク殺ス可シト命シ而シテ宋教仁ノ暗殺終ルヤ直ニ
同夜十一時頃応ヨリ北京洪述祖ニ対シ秘密電ニテ其旨ヲ通
シ下手人一同無事ト報シ更ニ翌朝午前二時半長文ノ秘密電

四、宋暗殺ト袁趙一派ノ態度

本件發生アルヤ袁大總統ハ直ニ程江蘇都督応民政長並ニ陳
上海交渉使等ノ当局者ニ犯人逮捕及厳重ニ法律ニヨリ査弁
スヘキヲ命シ一面哀悼ノ命令ヲ出シ趙秉鈞其他ヨリモ吊電
ヲ送リタルガ當初袁趙一派ハ非国民党派ノ新聞其他ヲ利用
シ本件ヲ国民党員中ノ所為ニ帰セシメント計リシモ關係者
捕縛セラレ証拠書類モ押収セラレタルノ形跡アリ事態漸ク
重大ナラントスルヤ程都督ニ当地出張会同査弁ヲ命セリ依
テ程都督ハ秘書科長羅良鑑ヲ随ヘテ來滬シ二日前ヨリ黃
興等ト商議シ居レルモ黃興ノ内話ニヨレハ程都督ハ両者ノ

中間ニ挾マリ居レルモノカ煩ル曖昧ナル態度ヲ有セリト称
セリ最近応江蘇民政長モ中央ノ命ニヨリ来滬シテ本件調査
ヲ行フコトトナレリ而シテ一面中央政府ハ程都督ニ命シ陳
交渉使ヲシテ本件裁判ヲ可成会審衙門ヨリ支那側審判庁ニ
引渡方ヲ当地領事団ニ交渉セシメ本件ヲ地方乃至ハ中央ニ
於テ審理シ本件ヲ加害者武士英教唆者応夔亟乃至ハ洪述祖
ノ個人的關係ニ帰セシメントテ犯人ト袁趙一派トノ連絡ニ
関スル証拠煙滅ヲ謀ラントン或ハ英仏公使ニ運動シ當地英
仏總領事ニ対シ穩便ナル処置方訓令ヲ懇願セリトノ消息ヲ
北京ヨリ得タルモノカ国民党側ニ於テハ会審衙門ニ於テ犯
人ト袁趙一派トノ連絡証拠煙滅ナキヤニ付頗ル掛念シ黃興
ノ如キモ出来得ヘクンバ会審衙門ヨリ引渡前ニ一切ノ証拠
品ヲ写真ニ取り置キ度シト称シ又被告犯人弁護士ヨリ右証

拠煙滅方ニ関シ已ニ在北京洪述祖ニ対シ電報請願スル処ア
リタリト内話セリ本件会審ノ弁法ニ関スル小官卑見並ニ英
国總領事等ノ意見ハ既電ノ通リナルモ北京公使团トノ關係
モアルニ付本月三十一日ノ第二回会審ノ上ナラテハ確定セ
ス而シテ一方北京國務院ハ本月二十七日各都督民政長ニ報告
シテ曰ク本月二十五日午前十時ニ接手シタル本月二十三

ヲ發シテ宋暗殺情況ヲ報シ次テ北京ヨリハ成功ヲ祝ストノ
電報ヲ應ニ発シ其后北京ヨリ応ニ宛テタル秘密信ニヨルモ
前記両電確接今后宜敷頗ムトノ文意アリ右電報及秘密信ハ
国民党員ガ電報局及郵政局ニテ種々ナル手段ヲ以テ取リタ
ルモノニシテ右秘密電暗号及秘密信ノ如キハ現物ヲ黃興所
持シ居レリ而シテ右応ノ秘密電ハ何レモ「転星」ノ二字ア
リ以テ洪宛丈ニナク趙乃至ハ袁トノ脈絡アルハ争フ可ラサ
ル事実ト認メラルト称シ尚ホ幾多ノ証拠物ハ応宅ニテ差押
ヘタル物品以外国国民党側ニ所有シ居ル模様ナリ

日付上海応夔亟ヨリ發送シタル監督議院政府神聖裁判機関
簡宜告文ニヨレバ先ツ宋教仁ヨリ着手シ袁世凱、孫逸仙、
黃興、梁啓超、黎元洪、趙秉鈞等十數名ノ民国主要人物ヲ
殺サントノ無暴極マル所言アルニ付注意アリタム云々トノ
奇怪且シ不得要領ナル電報ヲ發セルカ如キハ蓋袁趙一派ニ
於テ本件ヲ曖昧ニ葬ラントスル底意アルモノトシテ国民党
側ニ於テハ激憤ノ度ヲ増シツツアリ

第二四七号

在上海總領事宛三月二十九日發第一三号（極秘）
〔在中國伊集院公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）〕

上海会審衙門裁判以前ニ宋教仁暗殺事件ノ揉
消斡旋方趙國務總理ヨリ依頼ノ件

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七二

三三四

ヲ保シ難キニ付腹蔵ナク内情ヲ明カサレタシト伝ヘシメタルニ趙ハ本件ノ発生ハ北方ニ取り非常ノ打撃ナリ実ハ犯人ノ使嗾者ト認メラルル応援亟ナル者ハ無頗漢ニ資シキ人物ニテ共進会首領ナルガ（委ク同人ノ來歴ヲ話シタルモ略ス）客年末当地ニ来リ自分ニ会見ヲ求メ共進会解散費用トシテ資金ヲ給セラレタシト要求セシモ自分ハ一先ツ之ヲ拒ミタルニ同人ハ内務部秘書洪述祖（嘗テ唐紹儀及陳其美等ニ使ハレタル男ニシテ唐ヨリ自分ニ推举シ秘書トシテ部下ニ属セシメタル者ナリ応トハ同郷ニシテ多年ノ親交アリト云ヘリ）ノ紹介ヲ以テ袁世凱ニ面会シ直接申出タル結果袁ハ右ノ解散費用トシテ同人ニ五万元ヲ給シ同時ニ同人ヲ長江稽查長ニ命シ程徳全ヨリ毎月一千元宛ノ手当ヲ給セシムルコトヲ約束セリ以上ノ措置ハ主トシテ南方ニ於ケル現政府反対派ノ勢力ヲ挫カシカ為同人ヲ利用セントノ主意ニ出テタルモノニシテ自分モ素ヨリ此ノ議ニ与リ其後五万元ニ對スル費途ノ明細書及受領証等ヲ応ヨリ申受ケ現ニ保存セリ

斯ル次第ナル處今回計ラスモ同人ハ暗殺事件ニ関係アリトノ事態ヲ惹起シ袁世凱及自分ハ直接當面ノ黒幕ナリト目セリ

テ不利ノ結果ヲ見ルヤモ知レス然モ犯人武士英ハ仏國側ノ会審ニ附セラレタリトノ趣ナレハ尚更ラ輕卒ニ打出シ難シ就テハ當方ニ於テ何等手段ヲ試ムル前ニ予メ貴地ノ實況並ニ趙ノ依頼ニ對スル貴官ノ御見込等詳細承知致度キニ付折返シ返電アリタシ

本電報ハ大臣ヘ電報シタリ

二七三 三月三十一日 在上海有吉總領事ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

宋教仁暗殺事件擇消策ハ却テ不利ヲ招ク虞ア

ル旨伊集院公使ヨリ趙總理ヘ回答ノ件

第三八号

伊集院公使三月三十日發第一五号

往電第二^(鉛)四七号ノ件ニ關シテハ一應挨拶旁三月三十日高尾ヲ趙秉鈞ノ下ニ遣ハシ本使ガ英國公使ト内話ノ模様及（脱？）対シ此際採消策ヲ講スルコトハ却テ不利ヲ招ク虞アリト思考スル旨ヲ伝ヘシメ同時ニ逃亡セリト云ヘル洪述祖ハ其実貴官力密ニ当地ヲ去ラシメタルモノナリトノ説アルカ如何ト問ハシメタルニ趙ハ絶対ニ之ヲ否認シ然カモ同人ハ既ニ山東ニ於テ取押ヘタル旨今朝來電ニ接シタルヲ以

テ直ニ上海ニ遣ハシ裁判ニ立会ハシメ利益ノ申立ヲナサシムル筈ニテ洪ヲ取押ヘタル結果北方ノ為好都合トナレリト述ヘ稍々得意ノ様子ニ見受ケタリト云フ尚中央ヨリハ程徳全ニ内命シ極力裏面ノ運動ヲナシツツアルモノノ如シ
註 冒頭ノ往電第二四七号ニ關シテハ前掲二七二文書參看

二七四 四月一日 在上海有吉總領事ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

宋教仁暗殺事件ニ鑑ミ飽ク迄袁世凱ヲ排除ノ意向ナル旨孫文内話ノ件

第四三号

昨三十一日孫逸仙ト会食中同人ハ此際列国ノ態度次第ニテ平和ニ時局ヲ解決シ得ヘシトノ意ヲ洩ラシタルニ付其意味ヲ確メタル處列國ヨリ袁世凱ニ「ブレッショア」ヲ与ヘテ退讓セシムルコト是ナリトナセルニ付今一日別電ノ用向ニテ會見ノ際右ニ關聯シテ列國ヨリ袁ニ「ブレッショア」ヲ望ムカ如キハ内政ニ關シ列國ノ干渉ヲ希望セラルト同一ノ意味ニアラスヤト反問セル處孫ハ「ブレッショア」迄ニ行カストモ列強ヨリ「ヒント」ヲ与ヘラルレハ十分ナルヘク怯懦ナル袁ハ或ハ直チニ退讓ノ意ヲ洩ラスナルヘク左ス

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七四

三三六

レハ之ニ十分ノ名譽ヲ与ヘテ退カシメ円満ニ解決ヲ見ルヲ得ヘシト認ムルモノニシテ殆ント半独立國ノ外觀アル支那トシテハ是レ位ノ干涉ハ論スルノ限ニ在ラスト云ヘルニ付小官ハ私見トシテハ右ノ如キコトハ或ハ容易ニ望ムヘカラサルヘク屢申述フルカ如ク蒙古問題等困難ナル涉外事件ヲ控ヘナカラ徒ラニ内争ヲ事トセルニ於テハ國家ノ将来実ニ憂慮スヘク宋教仁暗殺ガ袁一派ニ関係アリトシテモ早計ニ袁ノ計画トモ認メ難カルヘク大事ノ前ニハ小瑕ヲ咎メス国内問題ハ之ヲ他日ニ譲リ此ノ際一先一段落ヲ告クル様何ト力他ニ円滑ナル方法ノアラサルナキヤヲ説示反問セル處孫ハ更ニ縛返シテ袁ノ奸誦恃ムニ足ラサルヲ説キ特ニ近來袁ハ益々政權收攬策ヲ講シツツアルニ鑑ミ今日ニ於テ彼ニ当ラサレハ他日彼ノ勢力益々鞏固トナリ容易ニ拮抗シ得サルヘク素ヨリ確乎タル制度ノ必要ナルハ自分モ深ク之ヲ確信シ從来ヨリ其方針ヲ採リツツアリタルモ其器ニ非ラサル袁ノ如キニ全然國家ヲ委ヌルコトハ國家ノ大不幸ニシテ何時カハ更ニ紛擾ヲ來スヘク今次ノ事件発生時機速ニナリシハ國家ノ弊竇ヲ除クノ上ニ於テ寧ロ慶賀スヘキコトナリシト信ス而シテ現状ニ於テハ支那本部ノ保全スラ期シ難キニ付

現ニ（不明）セントシツツアル人心ヲ刺戟シ茲ニ確乎タル政府ヲ造リ先ツ本部ノ謀ヲ立ツルヲ要スル際蒙古問題ノ如キ重要ナラサルニアラサルモ暫ク閑却シ置クノ已ムヲ得サルモノアリトシ尚北京ヨリノ情報ニ照ラシ袁ハ益々武備ヲ加ヘ議会開会前後ニハ必ス暴力的強圧ヲ加フルノ意志歷然タルニ付議場ニテ彈劾案ヲ提出スルモノ等ヲ殺害セラルモ虞モアルヘク為ニ彈劾案ノ提出ヲ見ス又ハ提出セラルモ不成立ニ帰スルコトアルヘキモ何レニシテモ議会ニテ満足ナル結果ヲ見サレハ南方一帶ノ都督ハ茲ニ一時ニ起テ対抗スルニ至ルヘシトシ袁ノ退讓セサル限り孰レニシテモ飽迄之ニ対立ノ意志固キモノノ如ク曩ニ會見ノ時トハ多少趣ヲ異ニシ居タリ尚北京ニ於ケル軍隊ノ一部ヲ除クノ外ハ袁ニ倚服シ居ラサルモノニ付容易ニ討伐シ得ヘシトセルニ依リ小官ハ一昨年以来ノ歴史ヲ述ヘ軍資其他ノ關係ヨリ北伐容易ナラス北方又南伐スル能ハス為ニ対立久シキニ亘リ茲ニ列國ノ干渉ヲ來シ邊彊ニ禍ヒスル等恐ルヘキ結果ヲ生スヘシトセルニ對シ今日ハ前ヨリモ準備アルニ付仮令対立スルトシテモ遲クモ一年間ニハ北方ハ南方ニ制セラルヘク軍資ノ如キモ南方ニ豊富ナルハ明白ニシテ是ニ組織ス政

府モ亦鞏固ナル組織ヲ見ルヘキニ依リ日本政府ニ於テ南方政府ヲ承認セラレンカ事ハ一層速ニ落着スヘシ云々トノ樂観的觀測ヲ下シ居リタリ黃興ノ北京ニ對スル觀測ハ一層樂觀的ニシテ南方一帶事ヲ挙クルニ於テハ容易ニ处分シ得ヘシトスルニ似タリ尚各都督等ノ態度ニ關シ黃興ノ言ニ依レハ袁モ種々巧妙ナル手段ヲ弄スヘク未タ明確ナル打算ナキモ共和制度ニ反対スルモノナキニ照ラシテ十分ノ味方ヲ得ヘク黎元洪ノ如キ亦袁ノ憚ル所トナリ居レルニ付多分味方トナルヘシトセリ要スルニ是等ノ言ニ徵シ目下ノ処袁トハ全然融和ノ余地ナキモノト認メラルモ從来ノ歴史モアリ其如何ナル程度迄發展スヘキヤハ尚問題ナルモ尠クトモ紛擾ハ之ヲ免カレサルヘシ尚黃興宅ハ數日來邸前市ヲ為シ同志謀議ノ中心トナリ居レリ右御参考迄

右在北京公使ヘ転電済

二七五 四月一日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

宋教仁暗殺事件ニ關シ江洪柘ノ内話報告ノ件

第三七号

上海經由貴電ニ閔シ北京國会事務局ヨリ湖北議員案内ノ為

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件

二七五 二七六

宋教仁暗殺事件ニ依リ中国ニ於テ南北政權對

二七六 四月三日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

在支那公使ヘ転電シタリ

特派セラレ目下当地滯在中ノ江洪柘カ四月一日内密ニ池部ニ語ル所ニヨレハ宋教仁暗殺ハ趙秉鈞ノ首謀ニ出テタルモノニシテ趙ハ其ノ秘書某ニ銀五万弗ヲ授ケ窃カニ上海ニ赴カシメ刺客應變亟一味ヲ買収シ孫逸仙上海著ノ日ヲ以テ孫並ニ黃興宋教仁ノ三人ヲ同時ニ暗殺セシムル手配ナリシモ孫ノ帰朝稍遲レタル處一方國会開会期日切迫シタルニ付三月二十日宋教仁見送リノ為黃興停車場ニ赴クヲ偵知シ其ノ機ニ乘シ右一味ノモノヲシテ黃宋兩人ヲ狙撃セシムル計画ナリシカ単ニ宋教仁ノミヲ斃シ得タル迄ナリ秘書某カ上海ニ於テ應ノ許ニ一週間余潛伏シ居タルコトモ最早ヤ挙証セラレタルニ付今後本問題ハ漸次火ノ手ヲ上ヶ或ハ國会會議窮頭一大紛擾ヲ釀スモ団ラリストノコトナリ確否俄カニ判斷致シ難キモ江ハ確カナル人物ノ趣承知シタルニ付不取敢御参考迄申進ス

三三七

機密第四五号
大正二年四月三日
(四月十一日接受)

在上海

外務大臣男爵 牧野伸顕殿 総領事 有 吉 明(印)

当地方ニ於ケル政局ノ波瀾外面漸ク静平ニ帰シ議員選挙モ一段落ヲ告ケ其多数ハ相伴フテ北上ノ途ニ就キ又ハ就カントシツツアリ一方孫文及ヒ黃興等ハ大總統ノ候補者タルヲ辭退スル旨ヲ公表シテ袁世凱ヲ推選シ国民党中寧口急激派ニ属スル宋教仁等ノ如キ裏面ニ於テハ袁ノ賴ムニ足ラサルヲ痛撃シ切リニ批難ヲ加ヘ居レルモノ亦各種ノ公会ニ於テ時局ノ大勢ニ鑑ミ袁ヲ大總統ニ選挙スルノ得策ナルヲ説キ如斯シテ大總統問題モ和平ニ落着ノ前途ヲ有シ議會ニ於ケル問題ハ憲法制定内閣組織等ニ繫リ兎モ角一ト先ツ正式ナル政府ノ組織ヲ見ルニ至ルヘキヤノ氣運ニ向ヒツツアリタル際俄然宋教仁ノ暗殺セラルアリ加之機密第四三号報告ノ如ク其根蒂頗ル深ク少クトモ北京現政府トノ脈絡ヲ有スルノ嫌疑ヲ免カレサル情況ヨリシテ国民党内ノ物論湧起シ人心頗ル激昂ヲ極メ黃興ハ勿論從来堅ク袁世凱中心説ヲ採リ居タル孫逸仙ノ如キモ本邦ヨリ帰還シ各種ノ情報ヲ得ル

ト共ニ大ニ反感ヲ惹起セルモノノ如ク其所説ハ當時電報及ヒ書面ヲ以テ報告ノ如ク甚タ強硬ナルモノアリ然シテ彼等ノ確実ナル証拠ヲ有セリトシテ信シツツアル所ニ依レハ今回宋ノ暗殺ハ單ニ其端緒ニ過キス国民党員名士中ノ數十人ハ勿論黎元洪スラモ其憚ル所トナリテ暗殺予定人員中ニ舍マレ全般ノ計画頗ル大仕掛けナルモノアリトシ延テ袁ヲ以テ殆ント常習ノ暗殺者ト見做シ満廷時代ニ於ケル皇帝最近ノ皇太后ノ死因ニスラ疑ヲ懷キ益々杞憂ヲ生シテ茲ニ宋教仁暗殺自体ニ対スル問責ニ加フルニ袁ノ勢力ノ増大ト共ニ自己ノ存立ヲ危クスルノ憂虞ヲ以テシ即チ自家防衛ノ意味ヲモ加味スルニ至リタルモノナルカ故ニ今次袁ニ対スル感ノ氣勢ハ甚タ激烈ナルモノアリト認メサルヲ得ス

如此シテ袁世凱排斥ハ殆ント国民党一派ノ確定議トナリ之カ手段トシテ第一着ニ議會ニ於ケル彈劾ヲ企画シ右ニ対スル袁ノ措置如何ニ依リテ進ンテ各都督ヲ糾合シテ袁ノ武力ニ対抗スルノ策ニ出テ時機ニ依リテハ更ニ南方ニ政府ヲ造リテ対立ゼン計画ナルハ孫逸仙黃興等ノ内話ニ明カニシテ当初ハ議會ニ最モ重キヲ置キ以之袁排斥ノ手段トナサントセルモノト認メラレタルモ最近北京ニ於テ袁カ益々武備ヲ

敵ニシ大ニ強圧的態度ニ出テントスル傾向ノ伝ヘラルルヤ議會ノ成行キノ如キハ措テ之ヲ問ハス袁ニシテ退讓セサル限り有ラユル方法ニヨリ飽迄素志ヲ貫徹セントスルモノト認メラル即チ囊ニ電報ノ如ク武力ノ強制ニヨリ危険ノ恐レアル結果彈劾案ハ或ハ議會ニ上ラサルヘク若シ上ル事アリトスルモ否決ニ了ル等何レニシテモ満足ナル結果ヲ見サル虞レアルモ斯ル場合ニハ南方都督代リ起テ袁ノ处分ニ当ルヘントノ孫ノ内話ハ蓋シ議會ノ成行如何ヲ問ハス袁ノ態度次第ニテ直ニ対立ヲ企テ武力ヲ以テ之ニ当ラントスルノ決意ヲ示セルモノニ外ナラス然シテ彼等ノ依頼スル南方各都督ノ態度ニ至テハ黃興談話ノ如ク未タ彼等ニ於テ確タル成算ヲ有スル迄ニハ判然タラサルモノラシク元ヨリ檄ヲ飛ハシテ切リニ交渉ヲ重ねツツアルハ事実ト認ムルモ當國々民ノ常性トシテ先ツ以テ自己ノ利害ヨリ打算スヘキカ故ニ袁世凱ノ勢力ト其籠絡策ニ依リ幾分牽制セラルカ如キ事ナキニアラサルヘク黃興モ亦巧妙ナル袁ノ手段ヲ憂フルノ口吻ヲ洩ラセルモノ一理ナキニアラス即チ若シ客年南北合致以來ニ示セル袁ノ靈腕ヲ以テシ南方一帯ヲ籠蓋スルヲ得ハ国民党一派ノ中堅ハ僅カニ私憤ヲ暗殺其他ニ漏スノ外アラ

サルヘシト雖モ少クトモ孫黃其他ハ仮令短時日ト雖モ既ニ要路ニ立チタルノ経歴ヲ有シ一部国民ノ信頼ヲ繫キ都督中ニモ亦其配下少カラス安徽ノ柏文蔚、江西ノ李烈鈞其他既ニ備フル所アリト伝ヘラレ南京都督程德全ハ寧口袁ニ近シト雖モ四困ノ情況ニ照ラン南方ニ敵スルモノトハ認メ難ク如斯シテ国民党一派ノ全然之カ立場ヲ失フカ如キ事アリトハ想像シ難キヲ以テ南北ノ紛擾ハ目下ノ処到底免レ難キ所ト推測スルノ外ナシ黎元洪ノ立場ニ至テハ黃興ハ寧口南方ノ同志中ニ計算シ含メツツアリト認メラレ昨一日国民党ノ領袖ハ彼レヲ以テ差当リ大總統ノ職ヲ行ハシメン事ニ決定シ袁ヲ退讓セシムル為メ其北上ヲ促カセリトノ説スラ伝ヘラル位ニシテ其眞相ニ至リテハ未タ之ヲ確メ難シト雖モ彼レニシテ袁反対派タルニ至ラハ南方ニ益々強勢ヲ加フヘシ

孫文、黃興等ノ南方勢力ノ打算ハ的確ナラサル迄モ如此シテ少クトモ其甚タ優勢ナルヲ信スルト共ニ一方北方袁ノ地位ヲ頗ル薄弱視シ北方ニ於ケル国民党ノ勢力ト国民ノ同情ト然シテ袁ニ対スル宗社党其他滿洲派ノ反感ハ著シク其勢力ヲ減殺スヘシト為シ所謂其有スル十万ノ兵モ頗ムニ足ル

所一万ヲ超エサルヘク資力ニ至リテモ南方比較的豊富ナルヲ以テ袁ノ征服ハ事容易ナリト樂觀セルモノノ如ク孫文ノ如キハ遲クモ一年以内ニ落着ス可シト称シ黃興ハ尚ホ一層輕視シ居レルモノト察セラレ從テ彼等ハ益々此際ニ於ケル袁排斥ノ決心ヲ堅クセルモノト觀測セラル於是乎蒙古其他涉外ノ問題ニ對シテモ内治ヲ先キニシテ後容易ニ解決シ得ヘシトノ極メテ樂觀説ヲ懷キ對外關係ノ重大ナルヲ説示シテ彼等ノ反省ヲ促スモ殆ント耳ヲ仮ساس一意袁排斥ニ驅進スルノ外余念ナキモノト認メラル如前述彼等ノ目的トスル所ハ宋教仁暗殺ニ依リテ益々袁ヲ疑ヒ自衛ノ為メニ袁ヲ排斥スルニアリテ敢テ猥リニ事ヲ好ムモノトモ認メ難ク彼等モ亦國家前途ノ多難ナルヲ了解シ居レル結果出来得ヘクハ可成平和ニ之カ目的ヲ達センコトニ腐心スル所アルハ察スルニ難カラス孫文ノ内話中列国ヨリ時局解決ノ為メ袁ニ対シ列国ヨリ退讓ノ「ヒント」ヲ与ヘラルニ於テハ怯懦ナル彼レハ直ニ其意ヲ決ス可シト予想シ右ニシテ果シテ行ハルヘクハ彼レニ榮譽アル退讓ヲ為サシムル最モ可ナラスヤトセルモノ蓋シ孫衷心ノ希望トモ認メラル國家ノ将来ヲ憂フル国民党員中ニハ袁ノ退讓後ハ時局收拾ノ為メ孫、黃

長ヲ謀ル等両國親近ノ政策ヲ講シ以テ東方平和ノ局面ヲ維持シ得ヘシト述ヘ南北分立ノ際ニハ本邦政府ノ速ニ南方ヲ承認セラル様致シ度ク日本ノ利益ノ為メトアラハ米国ノ「パナマ」ヲ承認シタル例モアリ速ニ決行セラルモ亦可ナラスヤ等彼一流ノ理想論ヲ列ネタルニ付小官ノ私見トシテハ承認問題ハ頗ル重大ナル問題ニシテ殊ニ貴説ノ如ク南北両政府ノ発現ヲ見タランニハ益々困難ヲ加フヘク支那ノ有スル列国關係ノ複雜ナルニ顧ミ南北何レノ意見ノ行ハレルヲ問ハス認メテ以テ鞏固トセラル政府ノ確立セラレサル限り何レノ国ト雖モ然ク容易ニ承認シ得ヘシトハ認メラレス此種ノ予想ヲ打算ノ内ニ置キテ計画ヲ立ツルノ最モ危險ナルヲ説示致置タル様ノ次第ニシテ少クトモ我方ノ同情ニ依頼シ居レル傾向アルモノト考ヘラル

要之袁ニ対スル国民党領袖ノ反感ハ頗ル激烈ニシテ目下到底融和ノ余地ナク議会開会後袁世凱ノ動靜如何ニ依リテハ更ニ一大紛擾ヲ釀ス事アルヘク袁ノ手腕ニ依リ都督以下ヲ籠蓋スル等危機ヲ一転シ得ルニ非ル限りハ袁ノ權力ヲ保持スル限り少クモ南方都督ノ連署勸告ニ次キ連衡シテ命ヲ奉セス一時南北對峙スルカ如キ形勢ヲ現出スル事ナキヲ保シ

以外ニ大總統ヲ需メ例ヘハ王兆銘ノ如キヲ推挙セントスルモノアリ其何人タルヲ問ハス彼等ニ不安ヲ与ヘサルモノナラハ想フニ其満足スル所トナルヘキモ然モ差当リ其深憂トスル袁世凱ヲ載ク事ハ彼等自衛上ノ問題ニシテ到底忍フ能ハサル所ナルヘク袁ニシテ自己ノ發意ニ依リ若クハ他ノ注意ニ依リテ屑ク退讓スルノ外紛擾ヲ生セヌシテ差當リ平和ニ解決セシムルノ途ハ無之モノノ如シ

今次袁排斥運動ニ對シ列国ノ同情ハ孫黃一派ノ顧慮スル所ナルハ列国ヨリ袁ヘノ「ヒント」ヲスラ望ミ居ルニ依リ明カニシテ特ニ日本ニ對シ最モ依頼スル所アラントスルハ彼等ノ内話スル所ニ察シ得ヘシ孫ハ切リニ我政府ノ廟議ヲ定メテ一旦南北分立ノ際ニ於ケル態度ヲ決セラルノ必要ヲ説キ袁世凱ノ陰險謫詐ナルハ過去ノ歴史ノ証スル處ニシテ仮令一時日本ニ倚ルノ利益ナル場合ニ之ヲ利用スルコトアルヘキモ衷心ヨリ之ニ信頼スルノ誠心アラサルヲ指摘シ北京ニ於テ親日政策ヲ説キタル當時ノ模様ヲ繰返シ反之自分ハ勿論国民党ノ有力者ハ誠意ヲ以テ日本ト提携セントシツアルモノニシテ若シ理想ノ如ク南方ノ意見行ハレ鞏固ナル政府ノ発現ヲ見ハ日本ノ貨幣制度ヲ其値採用シ貿易ノ進

難シ其間宗社党等ニ至テハ鄭孝胥等ノ談話ニ照ラシ袁ニ対スル反感ノ念ハ甚タ熾盛ナルモ未タ何等ノ画策ナキモノノ如ク尚未形勢觀望中ニアルモノト認メラル

右拙電確々旁観測ノ値何等カノ御参考迄報告申進候 敦具

二七七 四月六日

在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

宋教仁暗殺事件及米国ノ中國承認ノ風説二閑

スル孫文黃興ノ談話ニ付報告ノ件

第四七号

貴電第一五号ニ閑シ

會審衙門ニ於ケル審理ハ往電第四六号ノ如ク予想通り証拠書類ノ提出トナリ未タ公ニセラレサルモ趙秉鈞ノ電報等動カスヘカラサル書類ノ伏在ハ事實上明白トナリタル結果孫逸仙ニ於テハ愈々之カ決心ヲ定メタル如ク其直譯ニ依レハ其予期セサリシ趙秉鈞電報ノ現ハルアリ独リ法廷ノ意外トル所ノミナラス吾人モ亦其甚シキニ驚クト云ヒ是等ノ書類ハ人道上会審衙門ノ當然發表スヘキモノナリト主張シ最早袁ノ罪ハ免ルヘカラス斯ノ如キ卑劣漢トハ知ラスシテ大總統タラシムルコトニ努力シツツアリシ余モ亦其責ヲ免

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七七

三四一

ルヘカラス事茲ニ至リテハ余ハ堅キ決心ヲ以テ先駆トナリテ袁排斥ニ当ルベク其方針トシテハ第一著ハ議会ニ於ケル弾劾タルヘキハ素ヨリニシテ右ニシテ袁ノ強圧其他ニ依リ不成功ニ終ラハ差当リ南方ハ結束シテ立ツヘク先以テ副總統タル黎元洪ヲシテ大總統ノ事務ヲ取扱ハシメ余モ素ヨリ電報其他ニテ袁ニ退讓ヲ勧告スヘキモ若シ肯セサレハ余ハ北伐軍ヲ率キテ自ラ袁ヲ討伐スヘシト決心セリ各地都督ノ意志モ確メタル処南方ハ勿論袁ニ反対ナルノミナラス北方ニ於テモ概々同意見ヲ有シ陝西山西ノ如キ既ニ同意ヲ表シ居レリトナシ袁ハ元来怯懦ナルニ付事情斯ノ如クナラハ或ハ退讓スヘク果シテ然ラハ事容易ニ収マル望ミアリ若シ列國又ハ其三四国ニシテ南方ノ形勢如何ニ依リ人道問題ト時局ノ大勢ヨリ袁ニ退讓ノ得策ナル旨「ヒント」ヲ与ヘラレンニハ袁ハ必ラス退讓スヘク大局上幸福之ニ過キサルヘク北京ヨリノ内報ニ依レハ英米公使館ニハ多少其辺ノ傾向ナキト述へ決心一層鞏固ヲ加ヘタルモノノ如ク最早他地方ニハ赴ク余暇ナク断然当地ニ在リテ画策ニ從事スヘシト云ヒ全ク其態度ヲ更メタル観アリ黄興ノ直談ニ依レハ北京政府ト

ノ関係ハ趙ノ電報以外尚確実ナル証拠アリ宋教仁暗殺以前テ十二人暗殺ノ計画アル由密告者アリシモ余及黎ハ多少其理由アルモ張謇趙鳳昌等ニ至テハ殆ント暗殺ノ意味ナシト考ヘ一笑ニ附シ居タリシモ今ヤ右ノ真実ナルヲ証拠立テタリ袁ハ皇帝タルノ野心ヲ包藏シ苟モ共和ニ賛成スル者ハ総テ殺害スル計画ニシテ之力目指ストコロ各都督以下八十余人アリトシスノ如キ縛猛ナル人物ニ權力ヲ委ヌルヘカラサルヲ極言シ孫ノ述ヘタルト同シク議会ノ弾劾ヲ第一トシ遂ニ兵馬ノ間ニ死ヲ決シテ争フ決心ナリト云ヒ而シテ黃ハ袁ハ到底尋常ニハ辞退セサルヘキモ列國ヨリ「ヒント」ニテモアラハ彼ハ外國ニ顧慮スルトコロ甚シキニ依リ必ラス退讓スヘシトシ全然孫ト同意見ヲ洩ラシタリ各地都督ノ態度ニ至リテハ尚明確ナラサルモノアルモ袁ノ計画ニシテ暴露スルニ至ラハ各自ノ安寧上ヨリモ結束シテ立ツヘク且南方ト雖一昨年来ノ経験アリ先年ノ例ト同一ニ見ルヘカラサルニ北方ニ至リテハ我カ同志モ尠カラサル上宗社党等種々ノ弱點アリ一旦干戈ヲ交ユルモ勝算歷々ナリト云ヒ黎元洪ハ副總統ナルヲ以テ何レノ場合ニモ正式總統選挙迄ハ大總統ノ

職ヲ視ルヘク同人ハ表面辭退シ居ルモ頗ル大總統タル野心アリ裏面ニ於テ運動中ナリト一笑シ黎ヲモ全然其味方ニ数ヘ居レリ要スルニ孫黃等ノ意思ハ所謂袁ノ計画ナルモノ暴露ト共ニ自己ノ危険ヲ感シ自衛上ヨリ益鞏固ヲ加ヘ飽マテ袁及其一派ヲ排斥セサレハ已マサル決心ヲ示シ之カ手段ハ先以テ議会ニ於ケル成行ヲ待チ袁ニシテ退讓セサレハ南方及北方ノ味方ヲ結束シテ立ツノ計画ナリト認メラレ其間南方ニシテ鞏固ナランニハ列國ヨリ袁ニ「ヒント」ヲ与ヘ無事ニ時局ヲ収メ得ル望ラ抱キ此点ニ付テハ余程重キヲ措キ居ルモノト認ム

吾人ニハ支障ヲ來タサスト樂觀シ將又孫ハ若シ新聞電報ニシテ事実セトセハ米國ハ未タ目下ノ真相ヲ了解セサル結果ニ過キサルヘク本日米國總領事黃興ヲ訪ヒタルニ付黃興モ多少話シタルヘク追々事情ヲ了解セハ縱シ計画アリトスルモ見合スニ至ルヘシト述ヘタルニ付黃ニ米國總領事トノ対話ヲ確メタルニ余ハ本問題ニ余リ重キヲ措カサルニ付別段立入りテ内情モ話サス承認ノ風説ニ付余ノ意見ヲ求メラレタルニ対シ其好意ヲ謝スル旨御世辞ヲ述ヘ置キタリト云ヒ余リ意ヲ介シ居ラサルモノト見受ケラレタリ

尚最近黃興ノ軍事幕僚タル李書城等ノ重ナル者ハ昨今当地ニ來集シ陸軍部次長蔣作賓等ノ北京ニ居残リ居ル同志ト相通シ頻リニ商議セルハ事實ナリ

連シ時局ノ成行ニ付趙國務總理弁明ノ件
第二六四号

二七八 四月七日

在中国伊集院公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中国新政府承認問題及宋教仁暗殺事件ニ閑

ト觀察シ黃ハ友人タル米国人モ常ニ承認ハ各國同時ニ行ハルヘク米國ノミ抜駆ケスルカ如キコトナカルヘシト云ヒタリトテ事實ノ無根ナルヘキヲ信セルモノノ如ク或ハ袁ヨリ例ノ手段ニテ言ヒ拡メタルモノナランカト云ヒ且仮令承認サレタリトスルモ中華民國ヲ承認スルモノニシテ袁ヲ承認スルニアラス全國民反対スル時ハ袁ハ一ノ反逆者ノミ毫モ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七八

三四四

問題及宋暗殺事件ニ関スル応答振ヲ申含メ往訪セシメタルニ趙ハ今朝陸外交総長自分ヲ來訪シ昨四月六日承認問題ニ関シ同官ヨリ伊集院公使ヘ申込タル希望ノ筋並貴官ガ公使ノ命ニ依リ同官ニ答ヘタル内容ヲ話シ右ニ依レハ日本国政府ニ於テモ十分好意ヲ示サルルコトト考ヘラルニ付委細袁總統ヘ報告スル積ナルガ伊集院公使ニ於テハ宋暗殺事件ニ關聯シ時局ノ成行ヲ氣遣ヒ居ラル模様ナルヲ以テ自分ヨリ篤ト説明ヲ与ヘラル様致サレタシトノコトナリシニ付特ニ貴官ノ來訪ヲ煩ハシタル次第ナリト述ヘ（昨日高尾ヲシテ陸ノ感想ヲ問ハシメタルモ大事ニ至ラサルヘシトノミニテ要領ヲ得サリシ次第ナリ）承認問題ニ付テハ陸総長希望ノ通是非共貴國政府ノ尽力ヲ煩ハシタク右ハ袁總統ニ於テモ切ニ希望シ居ル所ナリト云ヒ次テ宋暗殺事件ニ關シテハ裁判ノ成行次第ニテハ多少ノ紛擾ハ免カレサルヘキモ之カ為大局ニ累ヲ及ボスカ如キコトハ万ナカルヘキ見込ナリ孫黃ノ両者ガ本件ニ辞ヲ藉り盛シニ北方ヲ攻撃シツツアルハ要スルニ党员ノ手前ト自己ノ立場ニ鑑ミ斯ル威勢ヲ示スノ要アルト同時ニ之ニ依リテ人氣ヲ收攬シテ反対党ヲ圧迫シテ政權ヲ掌握（自党内閣ノ組織ニ依リ）セントノ底意

陳ノ自動車ニ同乗セリト云アラスヤ要スルニ本件ノ真相ハ應變亟对洪述祖トノ關係如何ニ依リ明ナルヘキニ依リ折角青島ニ於ケル洪ヲ遁カサヌ様監守中ナリト語リ盛シニ氣焰ヲ吐キ尚上海側ノ附ケ景氣盛シナル証拠ハ革命功勞者タル劉揆一（工商部總長）ガ宋ノ死ヲ弔フ為同地ニ赴キ序ヲ以テ北方ノ為調停ヲ図リタルニ忽チ袁ノ廻シ者ナリト目セラレ盛シニ攻撃ヲ受ケタル為勿々遁ケ帰リ目下天津ニテ辭表捧呈引籠中ナル事実アリトテ上海側ノ焦リ方ヲ笑ヒ居タル由ナリ以上趙ノ述フル所果シテ何程迄真實ナルヤ遽ニ判断致難キモ時局ノ成行ニ付テハ引続キ前電ノ通左迄心配シ居ル模様ナキヤニ見受ケラル御参考迄ニ申進ス

註 本文書ハ文書二二トシテ既ニ掲載セシモ便宜上茲ニ再録セリ

二七九 四月十九日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）
袁世凱ノ南方攪乱ノ計略ニ関シ孫文黃興等ノ
觀察報告ノ件

第六三号

孫文黃興等ノ觀察スル所ニ依レハ袁世凱ハ有ユル方法ヲ用ヒテ南方ヲ攪乱シ機會アル毎ニ北方ノ勢力ヲ扶植スル計画

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二七九 二八〇

ニテ武昌ニ於ケル最近ノ紛擾モ袁世凱ノ術策ニ外ナラス併カモ之ヲ国民党ノ罪ニ帰シテ宋事件ニ關スル責任ヲ緩和セントスル等極メテ陰險ナル策ヲ取リツツアリ其張勦徐寶山等ヲモ利用セントシツツアルハ事実ナルモ張勦ハ宗社党ニモ脈絡ヲ有シ徐ハ譚人鳳トモ旧知ノ間柄ニモアリ何レモ急激ノ行動ニ出ツルカ如キコトアラサルヘシトナセリ尚袁世凱力部下ノ多数ヲ當地方ニ派遣シ居ルハ事実ナルカ如ク双方トモ互ニ暗密ノ間ニ有ユル画策ヲナシツツアルモノト認メラル將又孫ノ内話ニ依レハ應變亟ヲ北京ニ移送方中央政府ヨリ程都督ニ密電シ来リタル趣ナルモ其果シテ何レニ於テ審理セラルルヤハ尚確定セストノコトナリ

右公使ヘ電報済ミ

二八〇 四月二十四日 在南京船津領事ヨリ
牧野外務大臣宛
宋教仁暗殺事件及大總統選舉ニ關スル柏安徽
都督談話報告ノ件

附記

四月二十六日附參謀本部作成ノ調書
宋教仁暗殺後ノ中国政局ノ将来ニ關スル観測
(四月三十日接受)

三四五

ニ外ナラサルヘク現ニ新内閣ニ付テハ昨今共和党ト国民党間ニ軋轢ヲ釀シ前者ハ徐世昌ヲ推シ後者ハ黃興唐紹儀等ヲ推サントシツツアリ其如何ニ決定スヘキヤハ素ヨリ未知數ナレトモ孰レニモセヨ紛擾ハ政權ノ争奪ニ在リテ孫黃ノ所謂袁排斥ヲ主トスル対人問題ニハアラサルヘシト云ヘルニ付高尾ハ在上海總領事ノ來電ノ内容ヲ上海情報トシテ話シ孫黃等ノ公言スル所ハ如何ニモ深キ根底ヲ有スルモノノ如ク殊ニ十日以内ニ宋ヲ暗殺スヘシトノ貴官電報ノ如キ果シテ事實ナリトセハ容易ナラサル事態ナリト反問シタルニ趙ハ絶対ニ之ヲ否認シ若シ自分ニシテ真実宋等ヲ殺サントセハ決シテ斯ル幼稚ナル手段ヲ執ラス況シヤ自分ノ腹心ニモアラサル人物ニ電報シ暗殺ヲ命スルカ如キ愚ヲ為サス又宋一人ヲ暗殺シテ北方ノ為幾許ノ利益アリヤ殊ニ宋トハ私交上ニ於テモ親善ニシテ同人カ往年政府ヲ退キタル當時ハ数日間自分ノ宅ニ同居シ居リ上海ニ出発ニ際シテハ同人借金ニ保証人トナリタル關係モアル位ナリ疑ハハ寧ロ陳其美等ノ輩ニシテ彼等社會ノ嫉視反目ハ予想以上ナリト伝ヘラル陳カ多年應變亟ヨリ金錢上ノ補助ヲ受ケ居リ両者ノ關係密接ナリトハ著明ノ事実ナリ而カモ兎行ノ当日犯人武士英ハ

大正二年四月二十四日

在南京

總領事 船 津 辰一郎（印）

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

安徽都督柏文蔚ハ本月十五日当地着応民政長ト会見シ更ニ同十八日上海ニ赴キ該地ニテ孫逸仙黃興及程德全等ト会談時局ニ闘スル意見ノ交換ヲ為シ昨二十三日当地着本日任地安慶へ向ケ出發セリ其途次小官ヲ來訪シ時局ニ闘スル談話ヲ為シタルガ其大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

一宋案ノ処分ニ対スル柏文蔚ノ私見ハ飽迄公明正大ヲ旨トスルニ在リ

本件ハ未タ其内容ヲ發表セサルヲ以テ外間種々ノ揣摩臆測ヲ逞フシ隨テ幾多ノ謠言浮説ヲ生スルニ至リ徒ラニ人心ノ動搖ヲ來セシハ遺憾ナリ自分ハ一日モ早ク本件ノ真相ヲ暴露シ犯罪者ハ充分追究シ徹頭徹尾証拠ニ依リ法律ニ照ラシテ解決スルヲ最上策ナリト信シ今回上海ニ於テ孫逸仙、黃興等即我党（国民党）ノ領袖并ニ程都督等ト會見シ盛ソニ右ノ説ヲ主張シ彼等モ皆同意セリ

二孫黃ハ本件ニ闘シ大ニ憤慨シ居レリ

持ノ為今回ノ大統領ニハ全党一致ヲ以テ袁ヲ選挙スル筈ナリシモ宋案発生ト共ニ我党ノ袁ニ対スル悪感ハ殆ント其絶頂ニ達シ我党ニシテ議会ニ多数ヲ制スル限り袁ノ当選ハ先シ望ナシ尤モ昨今共和、統一、民主、三党合併セリトノ説アリ若シ信ナラハ袁ノ当選ハ尚望ナキニ非ス、余ハ一個ノ私情ヨリ言ヘハ袁ノ人格甚タ面白カラス随テ袁ノ当選ハ望マサルモ國家ノ大局上ヨリ論スレハ今回丈ヶハ彼ヲシテ大統領タラシムル方國家ノ為メ得策ナリト信ス如何トナレバ

四袁大統領ニ當選スレハ民国ハ不完全ナガラ無事ニ進行スルヲ得レトモ否ラサレハ必ス南北ノ衝突ヲ來シ多少ノ紛擾ヲ免レサルベシ

前述ノ如ク共和、民主、統一ノ三党合併シ其結果袁ガ大統領ニ當選シタランニハ我党中過激派ハ多少活動ヲ企ツ

ルモノアランモ我党領袖連ニテ充分之ヲ鎮圧シ先ツ以テ無事ナルヲ得ベシ然レトモ之ニ反シ袁若シ落選センカ袁

ハ多分一時青島ニ雌伏スルカ或ハ名ヲ歐米視察ニ仮リテ海外ニ高飛スルカ二者其一二出テ以テ表面ニ立ツコトヲ避クルナランモ其部下ハ袁ノ勢力失墜ノ結果忽チ自己ノ

孫黃ハ本件ニ闘スル証拠漸ク挙リ意外ノ辺ニ牽連シ居ルヲ發見スルヤ大ニ憤慨シ黃ハ表面稍慎重ノ体ヲ持シ居ルモ其实孫ト粗ボ同意見ニテ最初ハ公然袁ノ罪ヲ鳴ラシ飽迄彼ノ罪ヲ追究スル意氣込ナリシモ自分始メ其他穩健派ノ勸告モアリ今日ニテハ其態度ヲ一変スルニ至レリ然レトモ其末派中ニハ今尚ホ非常ニ激昂シ居ルモノ尠カラス三証拠ハ巨細中外ニ宣布シテ中央政府ノ罪迹ヲ飽迄暴露スル決心ナリ以テ袁ノ信用ヲ失墜セシムル筈ナリ

宋案ニ闘スル証拠書類ハ支那革箱三ヶノ多キニ達シ孫黃ハ反対派ノ奸策ニ依リ万ノ變アランヲ慮カリ全部之ヲ写真ニ撮リ其為メ殆ント三四日ヲ費シタリ昨日アタリ全部写シアリタル筈ナレハ直ニ審問ニ着手スルナランガ我党ノ希望ハ右証拠書類ハ悉ク之ヲ中外ニ發表スル筈ナリ其曉ニハ一面外間ニ於ケル無用ノ疑惑ヲ解クト共ニ一面其累ハ意外ノ辺迄波及シ或ハ之ニ依リ袁趙一派ノ罪惡一時ニ暴露シ大ニ袁趙ノ信用ヲ失墜スルニ至ルヤモ計リ難シ以テ袁果シテ排斥スヘキモノナラハ国民党自ラ手ヲ下サス与論ヲシテ制裁ヲ加ヘシムルノ手段ニ出テント最初我国民党ニ於テハ主義綱領ノ如何ニ拘ハラス大局維

地位ヲ失フニ至ルヲ恐レ必スヤ奮然起チテ其挽回策ヲ講スルナラン其結果南北勢力ノ間ニ小衝突ヲ起シ惹テ国内ニ紛擾ヲ釀ス如キコトナキヲ保シ難シ我国民党トシテハ右ノ如キ形勢ニ推移セサル様極力之ヲ防止シタキモ若シ騎虎ノ勢如何トモナシ難キ場合ニ至ラハ我党ハ各省都督ニ檄ヲ飛ハシテ各自各省秩序ノ維持ニ努メ決シテ雷同附和以テ大局ノ潰裂ヲ來ザザル様努力スペシ決シテ一般的大紛乱ヲ生スルコト万ナカルベシト信ス

右ハ既ニ大要電報及置候へ共御参考迄更ニ及報告候 敬具追テ本信寫ハ北京公使、上海、漢口、廣東各總領事并ニ第三艦隊司令官ヘモ送付及置候也

（附記）

參謀本部作成ノ調書

宋教仁暗殺後ノ中国将来ノ政局ニ闘スル觀測

大正二年四月二十六日

新ニ撰挙セラルヘキ正式大總統ニハ敵味方共ニ袁世凱ヲ推薦シ其永統ハ暫ク別問題トスルモ一時ハ兎ニ角纏マラントスルヤノ観アリシ支那ノ時局モ三月二十日ニ於ケル宋教仁ノ暗殺以來其形勢ハ急転直下シテ或ハ再ヒ南北分離ノ終ニ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二八〇

三四八

避クヘカラサルヤノ觀アルニ至レリ（附錄電報甲参照）黃興ノ直話及其他ノ情報ニ拋レハ彼等最近ノ決心ハ大凡ソ左ノ如クナルモノノ如シ

一、袁世凱ハ絶対ニ大總統ニ推戴セス

二、国会ニ於テ大ニ袁世凱ノ罪ヲ鳴ラシ正々堂々之ヲ弾劾シ絶対ニ之ヲ排斥セントス

三、袁世凱等ノ為セル百方苦肉ノ策ニ打勝チ黃興等ノ同志議員国会ニ於テ其多数ヲ維持シ得ルヤ袁世凱等ハ終ニ軍警干涉ノ如キ非常手段ヲ採用スルコトナキヲ保セス此場合ニハ黃興等ノ同志議員ハ連袂退去南方ニ於テ

分立対抗ノ挙ニ出テントス

四、若シ袁世凱等ノ苦計其功ヲ奏シテ黃興等ノ同志議員多数ヲ制シ能ハサルノ場合ニ於テモ亦時機ヲ見計ヒ連袂退去同シク南方ニ於テ分立対抗ノ挙ニ出テントス

五、大總統ノ候補者ニハ当選ヲ確実ニスル為黎元洪ヲ推サントス

六、袁世凱ヲ倒サンカ為ニハ宗社党ノ如キモノヲモ之ヲ利用スルヲ辞セサルコト

以上ノ決心ニシテ堅確ナルモノトスレハ国会ニ於ケル多数

ノ南北何レニアルニ拘ハラス兩者ノ分離対抗ハ終ニ避クヘカラサルモノノ如シ
黃興等ハ以上ノ決心ヲナシタル自然ノ結果トシテ熱心自党ノ結束及他党ノ蚕食ニ努力スルト同時ニ同志ノ軍隊ヲ糾合シテ密カニ戰備ニ苦心シツツアルコトハ之ヲ信スヘキ確實ノ材料ニ乏シカラス（附錄電報乙参照）

之ニ対シ袁世凱等ハ買収、脅迫、離間等有ラユル手段ヲ尽シテ反対党ノ崩解自党ノ拡張ニ努力スルト同時ニ一面ニ於テハ密カニ戰備ヲ修メツツアルコトハ亦信スヘキ有力ノ材料決シテ少シトナサス（附錄電報丙参照）

此ノ趨勢ヲ以テ推移セハ南北ノ分離即チ両派ノ衝突ハ終ニ避クヘカラサルモノト判断セサルヘカラス变転常ナキ支那ノ時局ニ於テ其将来ヲ断言スルカ如キハ寧ロ輕卒ノ拳タルヲ免ルル能ハスト雖今日ノ場合帝國ハ先シ南北分離相衝突スルモノトシテ予メ之ニ応スルノ方針ヲモ決定シ置カレンコトハ刻下極メテ緊要ノコトタルヲ信ス

附図及附表ハ諸種ノ情報ニ依リ推定シタル現下ニ於ケル南北両派ノ勢力及其兵力ナリ

此外南方側ニ於テハ海軍ノ大部分ハ既ニ自家ノ同志者ナ

リト称ス（附錄電報乙参照）レトモ未タ確信スルヲ得ス

実ニ其去就ハ南北ノ運命ニ大關係ヲ有スルコト勿論ナリ

註 附錄電報抄写及附表（大正二年五月一日調査那軍隊南北両派兵力对照一覽表）ヲ省略ス附圖ハ記録ニ現存セズ尚兵力對照一覽表ハ計トシテ袁世凱派人員一三五、七五三砲數五七八非袁世凱派人員一〇〇、四〇〇砲數二五四態度不明ナルモノ人員七三、四九〇砲數一六二トセリ

本使ノ推察ニテハ袁世凱側ニ於テ南北衝突ノ危険ヲ予想セルコトハ真実ナランモ此ノ際斯ク多数ノ大砲ヲ注文セントスルカ如キハ其ノ真意ニアラスシテ南方側カ日本國ヨリ助力ヲ受クルコトアルヘキヲ懸念シ之ヲ制肘スルト同時ニ我ニ好意ヲ表シ置カントスル策ナランカト思料ス

註 陸軍少将青木宣純

二八一 四月二十七日 在中国伊集院公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

段陸軍總長ヨリ青木武官ニ對シ山砲百門至急

賣入ノ希望申出ノ件

第三四七号

四月二十六日陸軍部秘書長青木公使館附武官ヲ訪問シ段祺瑞ノ内意トシテ此際日本國ヨリ最新式山砲百門至急買入タ

キ希望アル処果シテ都合相付クヘキヤヲ尋ネ不曉アリ明_{（註）}ザル様依頼シタルニ付青木ハ何故斯ク急ニ兵器ヲ要スルヤヲ尋ネタルニ南北衝突遂ニ免レサルベク懸念サル為メナリ

ト説明シ序ニ近頃孫逸仙ハ四百万両許借款ヲ三井ニ申込ミ三井ハ目下調金方運動中ナル趣聞込ミタリト述ヘタル由ナ

二八二 五月六日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

梁總統府秘書長ヨリ伊集院公使ニ對シ袁總統

ノ南方制圧ノ決意ヲ説明シ邦人浪人連ガ南方

派ニ与セザル様配慮アリタキ旨申出ノ件

第七六号

五月五日伊集院公使発

第三九六号

五月四日總統府秘書長梁士詒來訪ノ際語ル所ニ依レハ南方側ハ宋事件ト借款問題ニ言ヲ藉り益々中央ニ反抗ノ態度ヲ示シ来リタルヲ以テ袁總統モ愈々意ヲ決シ万一本願ノ行動ニ出ルモノアルニ於テハ平和ヲ破壞スル奸賊ト見做シ断乎タル制裁ヲ加フル筈ニテ五月三日ノ大總統令ヲモ発シタル

次第ナルカ其実南方側ノ実力ハ頗フル薄弱ニシテ江西ヲ除クノ外ハ安徽廣東等ノ勢力範囲ト雖モ袁派ノ軍人多数入居リ決シテ孫黃等ノ注文通ニハ参ラサルヘシ但シ袁ニ於モ彼ヨリ動カサル限り成ルヘクハ平和ニ終局セシメタキ考ニテ過般來折角裏面ノ調停ヲ試ミツツアリ乍去孫黃等ニ於テモ自党ノ操縦意ノ如クナラサルハ實際ノ有様ナレハ結局ハ兩人ヲ團続セル過激分子ニ対シ調和的ニ面目ヲ立テシムル丈ノ措置ヲ北方側ヨリ執ルノ要アルヘシ

三党合併ノ件ハ著々進行シ一週間後ニハ発表ノ運ヒニ至ル

筈愈々成立ノ曉ニハ參議院ニ於テモ国民党議員ノ過半数以上ヲ拉致シ得ル見込ニテ政府党ノ勝算十分ナリ政府ノ注文トシテハ直ニ大總統選挙ヲ行ヒ憲法制定ハ後廻シトスル筈ニテ多分予定ノ通進行スヘン云々

右ニ依レハ袁政府ニ於テハ国民党員買収南方方面ヘノ手廻シ等著々其ノ歩ヲ進メ既ニ十分見込立チタルモノト察セラル尚梁ハ前年革命勃発當時ノ實例ニ鑑ミ此ノ際長江一帯ニ於ケル日本ノ有志家等ニ対シテハ篤ト袁政府ノ趣旨及現状ヲ知ラシメ猥リニ不穏分子ニ与ミセサル様配慮アリタキ旨申出タルニ付本使ハ篤ト帝国政府ノ方針并ニ民間ノ希望ヲ

説明シテ殊ニ孫黃ヘハ過般來政府ヨリ屢々在上海總領事ヲ通シ警告ヲ与ヘタル次第モ有之切ニ秩序恢復ト平和維持ヲ希望シ居ル旨ヲ告ケ無責任ナル民間浪人輩ノ言動ノ如キハ毫モ意トスルニ足ラスト述ヘタルニ梁ハ深ク我好意ヲ謝シ早速袁ヘモ伝ヘ置クヘシト云ヘリ

二八三 五月七日 在漢口芳澤總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

南方派ノ排袁陰謀ニ黎湖北都督加担拒否等現

第六四号 下ノ状勢ニ関スル黎氏談話報告ノ件

南北衝突ノ機切迫シタルカ如キ風説盛ナルモ未タ俄カニ信スヘカラサルハ勿論ナルカ五月七日池部ヲ黎元洪ノ許ニ遣ハシタル序ヲ以テ意見ヲ耶カシメタルニ黎ハ左ノ通り語レル由孫黃等ノ一派カ本都督ヲ南方ノ首領ニ推シ独立ヲ宣言シ並ニ兵力ヲ以テ袁世凱ヲ退ケントスル陰謀ヲ企テ本都督ノ協賛ヲ求メ来レルモ言下ニ之ヲ拒絶シタリトテ往電第(脱字?)号ト同一ノ趣旨ヲ語リ次テ今ヤ民国ノ危機ハ内外ニ伏在シ上下一致シテ大勢ヲ維持スルモ國家ノ運命尚計リ知ルヘカラサル時ニ方リ革命ノ元勲タル孫黃等カ本末ヲ

顛倒シ斯ル輕舉妄動アルハ実ニ心外ノ次第ナルカ陰謀ハ日々益々進ミテ安危ノ分ル所寒ニ此數日間ニ在リ元来本都督私人トシテハ孫黃等ト浅カラサル友誼アルヲ以テ既ニ腹心ノ者ヲ上海ニ遣ハシ利害得失ヲ説テ百方慰撫シ事端ヲ釀スコトナキ忠告シ同時ニ公人トシテハ若シ彼等ニシテ無謀ニモ事ヲ起ス如キコトアレハ自ラ征討司令官トシテ旗鼓ノ間ニ見ユルモ敢テ辞セサル旨是亦人ヲ遣シ声明シ置キタリ本都督既ニ戰否両様ノ準備(脱字?)恐ラク孫黃等モ湖北ヲ敵トシテマデモ財力兵力共ニ及ハサル北方ニ対シ戰端ヲ啓クカ如キコト多分之レナカルヘシ將又今回ノ陰謀ニ加担スルモノ都督中江西廣東安徽ノ三省ハ確カニ謀反ノ形跡アルモ江蘇ノ程徳全ノ立場ハ大ニ諒トスヘキ理由アリテ万ノ場合ニハ孫黃側ヨリ離ルコト必セリ湖南モ略之ト同様ノ境遇ニ在レトモ平素健ノ政見ヲ有スルヲ以テ陰謀ニ加担セサルコト勿論ニテ貴州雲南廣西ニ至リテハ全然今回ノ陰謀ニ反対ナリ広東都督胡漢民ハ年少浮薄徒ラニ大言壯語スルモノ兵馬ノ權全ク陳ノ手ニ入り胡自ラハ一隊ヲモ左右スルコト能ハス況シヤ動員出兵ノ如キハ夢想タモ及ハサル所ナリ是ニ於テ残ル所ハ僅カニ広西安徽兩都督アルノミ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二八四

二八四 五月十二日 在南京船津領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

国民党ハ袁世凱排斥ノ決心ナルモ袁ニ先立チ

第一九号

五月十日王芝祥ハ程都督ト用談ノ為当地ニ來リ同夜上海ニ

然モ徐寶山張勲ノ軍隊アリ安徽省ノ軍隊ハ全ク省外ニ出ソルコト能ハサルヘク稍訓練アル江西軍モ實際ハ騎兵砲兵輜重兵ノ特種隊ヲ有セサル一師團強ノ歩兵ノミナルニ付其勢力計リ知ルヘキノミ然ルニ目下本都督ノ有スル兵力ハ湖北四ヶ師團ニ加ブルニ黎天才ノ兵ト河南信陽ヨリ來レル兵ヲ合シテ總數五万ヲ超エ尚必要ニ慮シ保定濟南或ハ奉天ノ軍隊ヲ一電ノ下ニ呼寄セ得ヘキ便アリ況シヤ勇壯ナル張勲徐寶山ノ兵亦嚴トシテ江北(揚子江ノ北)ニ駐軍スルヲヤ孫黃等ニシテ斯ノ如キ大勢ヲ觀破シ得サル理ナク又本都督モ条理ヲ悉シテ彼等ノ反省ヲ促カシ置キタレハ十中八九ハ大事ニ至ラサルヘキ見込ナリ黃興ハ老西鄉ニ私淑スルモノナルカ故或ハ其末路ヲ學フニ至ルヤモ計リ難シ云々御参考迄北京上海廣東南京ニ転電シタリ

五月十一日王芝祥ハ程都督ト用談ノ為当地ニ來リ同夜上海ニ

国民党ハ袁世凱排斥ノ決心ナルモ袁ニ先立チ

第一九号

五月十日王芝祥ハ程都督ト用談ノ為当地ニ來リ同夜上海ニ

国民党ハ袁世凱排斥ノ決心ナルモ袁ニ先立チ

第一九号

還レリ其際本官ヲ來訪シ語ル所ニ依レハ国民党ハ極力袁世凱ヲ排斥スル覺悟ナルモ今日ノ形勢ニ依リ察スレハ議会ニ於テ国民党ハ勝算ナシ然レトモ我党ガ全部反対スレハ袁ハ大統領ニ當選スル能ハサルヘシ我党ハ袁派ニ對シ決心スル所アルモ彼ニ先チテ兵ヲ動スコトハ斷シテナシ蓋シ今日ノ場合先ツ兵ヲ動スモノハ罪名ヲ負ヒ民心ヲ失フ虞アリ云々御参考迄

在支公使及在奉天總領事へ転電セリ

二八五 五月十三日 在南京船津領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

国民党ノ袁世凱排斥ノ覺悟ニ付日本國ハ国民
党ヲ援助スル意ナキヤト王芝祥ヨリ申出ノ件

第二号

往電第一九号王芝祥談話中尚左ノ如キ一節アリ曰ク袁排斥ノ理由ハ彼ノ譎詐劣悪到底國家ノ大事ヲ託スヘカラサルヲ以テナリ彼ハ過去ニ於テ既ニ友ヲ売リ君ヲ賣レリ今後國ヲ売ルヤ必セリ現ニ彼ハ或種ノ犠牲ヲ提供シテ露孤ノ援助ヲ求メツツアル由我党ハ東南省ヲ連結シテ飽迄之ト抵抗スル覺悟ナリ此際日本國ハ我党ヲ援助スル意ナキヤ國家存立

国民党ノ意見ヲ稍々強硬ニ述ヘタルモノナルヘク從テ唐紹儀トノ會見ニ於テモ唐紹儀ノ主張ニ強硬ニ反対スヘントハ思ハレス調停纏マルヘキ機会ナキニアラス云々ト語レルヲ以テ本官ハ袁世凱ニ於テ既ニ唐紹儀ニ調停ヲ依頼シタルハ南方派ノ勢力ヲ認メタル結果ト見ルヲ得ヘク從テ共和ノ前途ハ安全ナリト見テ差支ナカルヘキニ付此際大局ニ顧ミ唐紹儀ヲシテ調停ノ任ヲ全フセシムルコト得策ナリト告ケタルニ胡モ同意ヲ表シタリ此「デリケート」ノ危機ニ於テ袁世凱ニ於テ高压手段ヲ執リ国民党ノ体面威信ヲ毀損スルカ如キコトアラハ折角折合成ランツル国民党ノ反感ヲ挑発スル虞アリト思考ス御参考迄

北京、上海、漢口、南京、香港電済ミ

二八七 五月二十日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

唐紹儀トノ會談袁世凱排除ノ方針等ニ関スル
孫文談話報告ノ件

第九三号

五月二十日孫文ト面談ノ要領左ノ如シ

唐紹儀トハ昨日会談セル處同人ハ全ク家事ノ都合ニ依リ北三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二八七

捨テテ同文同種ノ日本國ニ附クヘントハ我党年來ノ主張ナルヲ以テ差当リ江西安徽湖南廣東廣西地方ニ於ケル鐵道鉱山其他種々經濟的事業ヲ日本國ト共同經營スル面白カラント思フ而シテ之ヲ實行スル金融機關トシテ先ツ日支銀行ヲ設立シテハ如何云々惟フニ先方ハ此銀行ヲ利用シテ北方对抗運動資金ヲ得タキ希望ナル如シ此際帝国政府ハ嚴正中立ヲ守ルヘキカ南北孰レヲ援クヘキカハ頗ル慎重ナル考量ヲ要スル問題ナルガ不取敢右御参考迄

在支公使及在上海總領事へ転電セリ

二八六 五月十六日 在広東赤塚總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

唐紹儀ノ南北間調停ニ關シ胡広東都督ト会談

第一八号

在上海總領事發大臣往電第八六号ニ關シ本日孫ノ直參タル胡都督ニ面会シ孫ノ談話ノ概略ヲ告ケ其意見ヲ徵シタルニ胡ハ孫ノ此談話ハ惟フニ袁世凱ニシテ共和破壞ノ挙ニ出テシカ共和ヲ擁護スル為ニハ兵力ニ訴フルモ已ムヲ得ストノ

上ノ途次立寄リタルモノトシテ袁トハ何等關係ナキモノノ如ク装ヒ且袁ハ兎ニ角退讓ヲ必要トスト為シ全然我ト同一ノ意見ヲ表セルモ果シテ其真意ニ出ヅルモノナルヤ否ヤハ甚タ疑ハシ尚本夕モ引続キ會見スヘク唐ハ尚二週間滯在スト申居レルニ付其間何等具体的決定ヲ見ルコトモアラハ直ニ御通知スヘク但シ同人ノ使命ハ到底成功セサルベシト為セリ自分ノ広東行ハ當分延期シタリ尤モ右延期ハ唐ノ滯在ト何等關係ナシ実ハ袁世凱ガ武漢ニ集中セル兵ヲ進メテ江西ノ対岸武穴附近ニ到達セル様子ナリ続テ李都督ノ交迭ヲ令スル等ヨリ延イテ何時南北衝突ノ火蓋ヲ切ルモ計ラレサル形勢ニ付左スレハ直ニ南京ニ赴ク等ノ要アルヘク差当リ当地ヲ去ル能ハサルニ因ル若シ江西方面多少緩和セハ直ニ出發スヘキモ時日ハ素ヨリ未定ナリ我方ハ飽迄議会ニ於テ争ヒヲ続クル計画ニシテ可成袁ヨリ起ツラ待ツ方針ナルモノ人タルモ頗ル注意深キヲ以テ寧ロ慎重論ナルガ余ハ大局ノ隠謀ニハ逆モ敵シ得スト為セリ尚黃興ハ武人ニシテ專戰ヨリ打算シ一層「デスペレート」の態度ヲ持シ其間多少計算上ニ意見ノ相違アルモ主義ニ於テ素ヨリ何等扞格ナシ公

使へ電報済

二八八 六月三日

在中国伊集院公使 在中国伊集院公使ヨリ

中国憲法制定問題ニ関スル袁總統ノ有賀博士

二対スル諮詢ニ付報告ノ件

附屬書 右諮詢要領筆記

(六月十一日接受)

機密号外

大正二年六月三日

在清國 特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

去五月二十一日袁世凱ハ當時滯京中ナリシ加藤男爵本使及

水野書記官高尾書記官ヲ招待シ午餐ヲ饗シ數時間ノ閑話相

試ミ候其節袁總統ハ本使ニ向ヒ有賀博士來京以來故々研究シ居ラル趣ニテ時々引見諮詢致居候處同博士隨伴ノ青柳篤恒氏ノ通訳ハ何分不熟練ニシテ自分ニ於テ同博士ノ意見

聽取方ニ多少ノ困難ヲ感スル点ナキニアラス貴公使館ノ鄭

書記官ノ漢文漢語ニ精通シ居ラルハ自分熟知スル所ニシ

テ若シ同官ノ補助ヲ得ハ意志ノ疏通ニ資スル所多大ナルベシト申出候ニ付本使モ其ノ意ノ有ル所ヲ諒トシ鄭書記官ハ

(附屬書)

袁總統ノ有賀博士ニ対スル諮詢要領筆記(鄭

書記官作成)

大正二年五月三十日午后五時半有賀博士袁大總統ニ対シ憲法制定ニ關スル準備行為ノ報告并ニ袁大總統ノ下問ニ対スル應答筆記

此日列席者

有賀博士

青柳篤恒

阪西大佐

鄭書記官

曾秘書

李秘書

有賀博士ヨリ大隈伯著開國大勢史一部取次進達ノ挨拶ア

重要ナル館務ヲ管掌セル身ナレトモ折角ノ御依頼ニ付何トカ繰合可申ニ因リ有賀博士御引見ノ際必要ノ都度予メ御通

知アラハ屹度差出シ御用ニ相立可申云々ト快ク承諾致候處

袁氏ニ於テモ満足ノ様子ニテ本使ノ好意ヲ謝シ居候

越テ五月三十日ニ至リ袁總統ヨリ鄭書記官足勞相煩度旨申

越候ニ付定刻同官差向ケ候処如約有賀博士ニ対スル諮詢ノ通訳依頼有之候由ニテ鄭書記官ヨリ別紙要領筆記差出候ニ

付一閱候處御参考ト可相成節不少様思料致候ニ付爰ニ致進

達候間御查閱相成度候 敬具

リ又憲法制定ニ關スル研究講義ニ対シ列席者中意見ヲ異ニシタルモノ中途ニテ退座シタルコトニ関シ同博士ヨリ其事情ヲ訴ヘタル書面ヲ提出シ右ハ順序ヲ経テ進達スヘキノ處本日延見ノ命アリタルヲ以テ自身携帶セリト附言シ大總統一読ノ下此ハ大ニ不都合ナリ何等異見アラハ充分討議スヘキニ中途退座セル如キハ最モ宜シカラス向後右様ノコトナキ様申付クヘシト曾秘書ニ下命セリ
袁大總統云ク

貴博士ニハ來京後既ニ数ヶ月経タリ我国現下ノ情態ニ対シテハ大ニ御了解ナサレタルコトト察ス憲法制定ニ關シテハ御見込之点如何
有賀博士云ク
爾來研究ヲ重ね追々了解セリ憲法制定ニ關シテハ在席曾君李君其外汪君張君等ト會見討議ヲ重ヌルコト既ニ六四ニ達シ其討議ノ結果ハ拙者之ヲ日本文ヲ以テ編述シ青柳ヲシテ漢訳セシメソツアリ要スルニ此意見ヲ以テ国会ノ議ニ附スルトスルモ果シテ多数ヲ得ラルノ御見込アリヤ如何
袁大總統云ク

国会ニ於テ政府側カ多数ヲ得ルハ難カラサル事ナカラ絶対
三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二八八

成立ヲ見ルコト能ハサルニ至ラン故ニ其場合ニ處スル為メ預メ臨時のノモノヲ準備シ尤モ現今既ニ臨時約法ニ依リテ大ニ窮屈ノ思ラ為シ居ル有様ナレバ更ニ臨時的ノ約法ト云フ如キハ面白カラサルモ或ハ憲法大綱トモ云フ名義ニテ前述ノ如キ情態ニ陥リタルトキノ予備ヲ為シ置ク必要アレバ此ノ際貴博士ニ於テ其辺可然考案ヲ立てラレンコトヲ希望ス

有賀博士云ク

學説ニ拠ルトキハ憲法制定セラレタル後ニ大總統選挙ニ移ルヲ以テ正当ノ順序ト為スモ先キニ大總統ヲ選挙シテ後ニ憲法ヲ制定ストセンカ此間何等臨時約法的ノモノナカルベ

カラス故ニ憲法大綱ノ名義ノ下ニ何カ制定スル所アリトスルモ矢張リ臨時約法ト異ル所ナシ唯大總統ノ説明セラレタルカ如ク既ニ国会ニ於テ絶対多数ヲ占メ居ラストセバ政府ニ有利ナル憲法ヲ制定セントスルコト極メテ困難ナリ拙者現在ノ地位并ニ学者トシテ此ノ如キ説ヲ為スハ不都合ナリトハ存スルモ權变ノ处置トシテ愚見ヲ陳述セバ惟々政略

トシテ大總統断然辭職ヲ為スニ在リ元ヨリ貴國現在ノ情態ヨリ觀ルトキハ閣下ヲ差措テ他ニ大總統ニ挙クヘキ人物ナキハ貴國一般ノ認識スル所ナリ然レバ此大總統ノ地位ハ一般ノ輿望ニ依テ再ヒ閣下ニ帰センカ国会ニ於テ絶対多数ヲ占メ閣下ノ意見通りニ憲法ヲ制定シ得ヘキハ疑ナキ所ナリ但シ大總統ノ地位ヲ退クモ現下ノ秩序維持ノ為メニハ兵權總轄ノ必要アルヲ以テ安然ニ秩序ヲ維持シ得ル人物ヲ得ルマテハ兵權ヲ總轄スヘシトノ条件ノ附セラルノ必要アリト思考ス貴意如何

袁大總統云ク

貴説ハ至極尤モナリ腹蔵ナク所見ヲ吐露セラレタルヲ謝ス但タ予カ若シ大總統辭職ヲ公布センカ全般ニ影響スルヲ以テ此策ニ出ルノ勇氣ナシ故ニ国会ノ議事纏ラス議員ハ真面

目ニ事ヲ議セス現在既ニ北京ヲ離ルモノ弗タアリトノ噂ヲ聞ク位ナレバ追々ニハ議員散乱シテ法定人員ニ達セサルニ至ラハ遂ニ何事ヲモ議スルコト能ハス人民モ議員ニ対シテ不満ヲ抱クニ至ルベシ依テ夫等ノ場合ニ慮スル為メ今日ヨリ預メ其ノ準備ヲ為シ置キタシト希望スル次第ナリ

有賀博士云ク

議員ト國民トノ間ヲ離隔シ國民ヲシテ議員ヲ疎ソセシメ其離隔ヲ利用シテ政府ノ希望ヲ達スルカ如キハ仏國ニモ前例ノアル所ナレバ貴國ニシテ議員カ國民ニ厭ハルルカ如キ状態ヲ顧ハスニ至ラハ此レ又政府ノ乗スヘキ好機會ナリトス然レトモ現下貴國ノ情形ニ就テ見ルニ貴意ニ適スルカ如キ憲法ヲ制定セントスルハ難中ノ最難ナルモノナラン夫ハ兎ニ角拙者カ當今李・曾・汪・張等ノ諸秘書ト研究中ノ大要ハ隨時同秘書ヨリ清聰ニ達シ居ルコトナランカ目下六回ニ涉ル討議ノ結果ハ僅カニ三章マテ整頓シタルノミ又其漢訳ハ尚能文ナル諸君ノ訂正ヲ經ル必要アルト其条目各節ハ相互ニ闇聯スル所アルヲ以テ別々ニ離シテ閱覽ニ呈スル訳ニモナシ難ク已ムヲ得ス終始完結ノ上ニテ一括シテ呈覽セント思考シ居ル次第ナリ

袁大總統云ク

兎ニ角充分ニ討議研究ヲ重ネラレンコトヲ希望ス

有賀博士云ク

拙者來京以来既ニ預定ノ半バヲ費シタレバ更ニ尽力シテ目的ヲ完成センコトヲ期セリ其採用セラルヘキヤ否ハ一般ノ公評ニ待ツアルノミ尚拙者帰国後ノ遺物トシテ起案セント唯今ヨリ目論見居リタルコトアルモ先般來南北分裂等ノ噂アリタル為メ暫ク疎略ニ附シ居レルカ此又最モ困難事ニシテ拙者ノ殊ニ苦慮シ居ル所ナリ

袁大總統云ク

唯今南北分裂云々トノ御説アリシカ決シテ南北トシテ對峙

スルノ価値サヘナキモノナリ国民党ノ多数ヨリ見ルモ北方

ヲ十分トシ南方ヲ十二分ト計算スルモ其内ノ反対者ハ僅カニ三分半ニ過キスシテ余ノ八分半ハ決シテ反対者ニアラス又其三分半ノ反対者中ニ在テモ實際激烈派ト見ルヘキモノハ僅カニ數名ニ過キス故ニ現今ノ情態ニテ南方ニ於ケル国民党ノ最少数者カ種々擾乱ヲ釀サントスルモノナレバ決シテ之ヲ憂慮スルニ足ラス又各國ノ国民党ナルモノハ實際一般人民ノ意思ヲ代表スヘキモ我国ノ国民党ナルモノハ一般

人民トハ何等閔聯スル所ナク又其党中ノ少數部分ハ米國仏國留学生揚リノモノナンドノ理想家ヤ建設破壊主義ヲ抱悽スルモノニ止マリ国民党ノ首領タル孫文ノ如キハ單ニ理想家ニシテ十ヶ年ニ二十万哩ノ鉄道ヲ敷設スヘント云ヒ五ヶ年ニ一千万ノ兵ヲ訓練シテ「サンペテルスペルグ」ヲ衝クヘシト云ヒ数十万ノ精兵ヲ以テ滿洲ヲ恢復スヘシナンドノ高言ヲ談スルノミ黃興ノ如キハ克ク爆弾ヲ拋擲スルニ長シニ破壊主義ヲ有スルニ止リ殊ニ人民一般ハ早ヤ騷乱ニ厭キタレバ国民党トハ閔聯ヲ有スルモノニアラス我国民党トハ即チ破壊主義ヲ有スルモノト称シ得ルノミナリ

有賀博士云ク

拙者唯今陳述セントスル所ニ二点アリ其第一ハ憲法ト軍隊ノ関係ニシテ凡ソ世界ノ共和国ノ憲法ニハ軍隊統率ニ関スル明文ナシ故ニ議會ハ常ニ政府兵權ノ強盛ナルヲ抑圧スルニ努メ多クハ予算ヲ以テ之ヲ制限セリ（大總統云ク現ニ国民党ハ我財政部ヲ占領セント祖ヒ居レリ）然ルニ貴國ハ共和国トハ云ヘ目今ノ情態上如何ニシテモ強盛ナル兵力ヲ有スルノ必要アリ故ニ如何ニセバ此間ノ調和ヲ得ラルヘキヤト拙者最モ苦心中ニ属シ拙者ハ此ヲ以テ置土産トシテ其案

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二八九

三五八

ヲ工夫シ居レリ

袁大總統云ク

我国ハ決シテ強大ノ兵力ヲ有セントスルノ意ナシ唯自國ノ

平和ヲ維持スル丈ノ兵力ヲ有セバ足レリ貴博士ハ縱令帰国セラルモ切メテハ青柳氏ニテモ北京ニ留メテ仲介者トシ其間ノ意見ヲ完全ニ成立セシメラレ以テ大ニ貴博士ノ名譽ヲ顯著ナラシメラレンコトヲ希望ス

有賀博士云ク

抑モ憲法ト軍隊トハ誠ニ不都合ノモノニシテ恐クハ大總統始メ各秘書ニモ此間ノ關係ハ明知セラレサルヘシ拙者ハ幸ニ本邦ニテ曾テ陸軍省ニ就テ研究シタルコトアリテ聊カ心得アリ（此時李景蘇ハ博士ノ講義ヲ拝聴シテ得ル所アリトテ一二説明ヲ為シタリ）拙者ハ貴國ノ情態ニ適合セシムル考案ヲ立ツル為メ向後憲法討議員中ニ我阪西大佐ヲ加ヘ更ニ貴國ノ軍事ノ経験智識ヲ有スル人物ヲ一名任命セラレンコトヲ望ムト（此時李景蘇ハ哈漢章ニ命セラレンコト然ルヘシト推薦セシニ袁ハ彼ハ軍隊ヲ統率シタルコトナシ彼レハ士官学校ニテ習フタモノヲ其眞意見トシテ提出スル位ナルヘシ寧ロ第一期卒業生張？魁ハ實際軍隊ヲ率ヒタル經驗

アレバ彼コソ適當ナラント阪西大佐ノ同意ヲ求ムルノ口氣アリシ

有賀博士云ク

第二ニハ凡ソ世界ノ共和国ニハ強兵ヲ有スルモノナシ米國ノ如キハ十万ノ兵アリト云フモ恐ク實際ハ七八万ニ過ギサルヘシ而シテ仏國ハ共和国ナレトモ此ハ拿波崙ヨリ以来ノ遺伝セル精神ニ依テ組織セラレタリ而ルニ貴國ニハ所謂此精神ナルモノヲ欠ケリ故ニ如何ニセバ軍隊ニ此ノ如キ精神ヲ養ハシムルコトヲ得ルカト云フニ在リ

袁大總統云ク

貴說最モ然リ我国ハ傭兵ニシテ此精神ナルモノニ乏シ去リトテ徵兵制ヲ採ランカ其制度ノ困難ナルト又此レヲ用フルニ所ナキノ虞アリ然レトモ軍隊ノ精神ヲ養成スルノ点ニ至ラハ最モ必要ニシテ仮令十万ノ兵アリトモ其精神充実セバ以テ大ニ用フルニ足レリ何卒其点ニ就テ充分ニ研究討議ヲ尽サレシコトヲ希望ス

時ニ午后六時五十分一同退散

二八九 六月一日 在上海有吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛（電報）

加藤高明男上海ニテ孫・黃西氏ニ対シ自重スル様

勸告シタル件

第一〇五号

勸告シタル件

第一〇五号

今六月一日加藤高明男通過ノ際孫黃ヨリ頻リニ会見ヲ求メ

短時間會見アリ男爵ハ北京ニ於テ袁其ノ他ト談話ノ模様ヲ

語ラレ此際十分ニ忍耐シ時局ヲ和平ニ解決シ永遠ノ策ヲ講

スルノ得策ナル旨ヲ勸告セラレタル處孫黃ハ深ク其ノ意ヲ

諒シ渺ナクトモ初メヨリ自分等ハ何等積極的ニ出ル考ハア

ラサルモ最近袁ノ態度ニ微シテ飽迄我方ヲ圧迫掃尽ゼン意

志ト認メラレ斯ノ如クシテ袁カ満足ニ統一シ得ハ自分等ノ

立場ハ勿論問フ所ニアラサルモ人心事実袁ニ服シ居ラス將

來到底無事ニ收マルヘシトハ想像出来ス且袁カ此ノ際和平

ノ手段ニノミ依ルヘシトモ考ヘラレス或ハ江西都督ヲ交迭

スル等何等力動機ニ依リテ事ノ勃発スルヲ必シ難シト為シ

タルニ対シ男ハ苟モ先キニ事ヲ起スモノハ列國渺ナクトモ

日英ノ同情ヲ失フヘク旁十分ニ自重シ返ス返スモ輕峯ナキ

様懇切ナル勸告ニ対シ黃ハ飽迄忍耐大局ヲ誤ラサルヲ期ス

ヘシト申シ居タリ御参考迄

公使ヘ電済

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二九〇

二九〇 六月三日 在旅順福島都督ヨリ
長谷川參謀總長宛（電報）

米國宣教師ノ南北妥協策動竝南方側ノ對袁及

對日態度ニ關シ王国柱談話ノ件

閏第五十六号

一昨年末奉天ニテ革命党ノ首領ト目サレシ王国柱ハ先頃奉

天ニ來リシニヨリ我駐在員ハ之ヲ訪ヒ時局ニ対スル意見ヲ

叩キタルニ彼ハ先ツ南北紛争ノ原因ト経過ヲ説キ左ノ要旨

ノ所見ヲ語レリ

米國ノ某宣教師ハ袁ノ密命ヲ齎ラシ上海ニ來リ唐紹儀、伍

廷芳ヲ起タシメ孫黃等ヲ説キ南北妥協ヲ計ラントセリ蓋シ

右ノ宣教師ハ之ニ關シ北京米國公使ト打合セラナシタルニ

ヨリ考レハ前回南北妥協セシ際英國カ之ニ尽力シ好果ヲ収

メタル先例ニ倣ヒ今回ハ米國カ居中調停ノ功ヲ取メントス

ルニアルナラン併シ孫黃等ハ其手ニ乗ラサルヘシ又孫黃其

他純革命党ハ袁ヲ蹴倒スニ非サレハ南北妥協セス之力為干

戈ニ訴フルノ外ナシトノ確固不拔ノ決心ヲナシ居レリ万

ノ場合ニハ満洲ニ於テモ呼応シテ事ヲ挙ケントス此際日本

ト計リ且シ満洲ハ日本ニ委シ本部十八省ノ國家ヲ組織シ日

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二九一 二九二

本ト経済同盟ヲ結ヒ白人ヲ抵制セントスルハ予ノ持論ナル
ノミナラス孫黃其他支那具眼者ノ意見ナリ之カ為東三省現
勢視察ノ為來レリト

右御参考迄

二九一 六月八日

在上海有吉総領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

袁世凱ノ南方派ニ対スル策略及対議会策ニ閔
シ梁士詒及趙秉鈞ノ高尾書記官ニ対スル談話
報告ノ件

第一一一号

公使発六月六日第五三号

六月六日梁士詒及趙秉鈞カ時局ニ関シ高尾ニ語リタル要領
ヲ綜合スルニ左ノ如シ
孫黃両人ノ態度ハ依然不穩ナルモ孫ハ不遠上海ヲ去リ黃ハ
湖南人ノ反対ト資金ノ欠乏トニ依リ近ク現状維持困難トナ
ルヘク結局本月末頃迄ニハ平和ニ局ヲ結ビ得ル見込ナリ孫
ハ兎モ角黃興ハ決シテ無謀ノ人物ニアラス能ク事理ヲ解シ
大局ニ通シ居レドモ同人ヲ團結セル雜輩等ノ手前勢ヒ弱音
ヲ吹キ難キ羽目ニ在ルモノノ如シ依テ政府ハ先シ是等雜輩

二九二 六月十日

在上海有吉総領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

江西都督李烈鈞懲戒免官ノ大總統令發布ノ件
第一一二号

公使発第五四号(六月九日)

大總統令ヲ以テ江西都督李烈鈞懲戒免官トナリ即日任ヲ退
キ来京待命スヘキ旨ヲ命セラレ同時ニ黎元洪兼任署理江西
都督ニ賀國昌ヲ護理江西民政長ニ歐陽武ヲ江西護軍使兼第
一師長ニ任シ江西各陸軍ノ統制官ニ陳廷訓ヲ江西要塞司令
官ニ任シ九江湖口一帶ノ江防各營統制官ニ任スヘキ旨ノ各
命令發布セラレタリ

二九三 六月十一日

在上海有吉総領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

李江西都督革職ニ閔スル黃興孫文談話報告ノ件

第一一四号

今六月十一日黃興孫逸仙ニ面談李都督革職ニ付之力立場ヲ
確メタル處黃興曰ク江西ヨリ未タ何等確タル消息ナク電信
往復モ自由ナラサルニ付同地ニ形勢ヲ詳細知ル能ハサルモ
自分ノ意見トシテハ飽迄平和主義ナルヲ以テ昨日特使ヲ派
シ円満処理方勧告シ置ケリト述ヘ別段サシタル事件モ發生
セサルヘシト思考スルモ其辺ハ李ノ考モアルコトナレハ未

三六〇

ヲ始末スルノ要ヲ認メ(重立タル者約二十名アリト云ヘ

リ)相当地位ヲ与フルカ若クハ出洋等ヲ勧告シ(高尾ハ趙

ニ又暗殺カト問ヒタルニ断シテ然ラスト懸命ニ打消シタリ

ト云フ)漸次黃ノ周囲ヨリ遠サケント試ミツアリ江西ノ

李烈鈞ハ依然屈服セス今日ノ辰ニ捨置カハ衝突免カレサル
ニ付先ツ彼レノ面目ヲ立テ和平解決ヲ計ル手段トシテ昨今

黎元洪ヨリ辭職勑告中ナルカ(李盛鐸モ同様ノコトヲ本使
ニ語レリ)若シ聞入レサレハ時機ヲ見計ヒ断然交迭ヲ行フ

積リナルカ黎ノ報告ニ依レハ案外都合好ク進行シ居ルモノ
ノ如シ江西サヘ片付カバ(廣東ノ如キ袁派ノ軍隊優勢ナレ
ハ決シテ憂フルニ足ラス)都督ノ交迭ノ如キモ格別急ク要

ナカルヘシ対議会策ハ不相変難題ナレトモ袁世凱ノ新大統

統選挙ノコトハ八分通りハ確カナリ或者ハ袁ニ於テ一先ツ

辞職シ輿望ヲ集メテ再任スル方得策ナルヘシト云フ者アレ

トモ辞職後再任迄ノ間ニ動乱ヲ見ルカ如キコトナシトセス

依テ袁ニ於テハ差当リ右様ノ意図ヲ有シ居ラス云々

本電信ハ大臣及ヒ在漢口總領事ヘ転電アリタシ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二九四 二九五

電シ尚在南京領事ヘ郵報ス

註 六月三日在上海有吉總領事發外務大臣宛電報第一〇六号

要領

「北京ニ於ケル婦人暗殺者周干敬ニ関係アリトノ趣ヲ以テ上海会審衙門ハ交渉使ノ請求ニ依リ黃興ニ召喚状ヲ発セリ黃興ハ右ハ袁一派カ一婦人ヲ買収シテ捏造セル冤罪ニ過ギズト内話セリ」

「北京ニ於ケル婦人暗殺者周干敬ニ関係アリトノ趣ヲ以テ上海会審衙門ハ交渉使ノ請求ニ依リ黃興ニ召喚状ヲ発セリ黃興ハ右ハ袁一派カ一婦人ヲ買収シテ捏造セル冤罪ニ過ギズト内話セリ」

二九四 六月二十七日 在漢口芳沢總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

南方派ニ依ル武昌ノ紛擾ニ関スル件

第一三七号

六月廿六日夜武昌ニ於テ放火ノ為メ四回火災アリシモ軍隊及ヒ警察ノ嚴重ナル警戒ニヨリ事ナキヲ得タリ又都督府ニテハ目下陰謀者乃至国民党員ノ逮捕ニ忙ハシク同日独逸居留地内ニアル日本宿屋ニテ二名ノ国民党員ヲ逮捕シタルカ其一名ハ往電第一三三号中ニ記載ノ孫逸仙ヨリ李ニ湖口ヲ離レサル様勧告ノ為メ派遣シタル人物ナリ今回ノ騒動ハ未だ大事ニ至ラス與見ニテハ多分兩三日中ニ鎮定サルヘキ見込ナルカ其他委細ノ事柄ハ尚取調中 在支公使ヘ転電セリ

二九五 六月三十日 在上海有吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

五国借款ニ依リ孫文等ノ勢力失墜シ暫ク時勢ヲ観望スル外無キ旨孫文談話ノ件

第一二八号

今六月三十日孫逸仙ニ面談シタルニ同人ハ息女ヲ失ヒタル趣ニテ旁多少意氣昂ラス其談ニ依レハ廣東方面ニテハ陳炯明等ハ飽迄強硬論ヲ唱ヘ居ルモ部下軍隊ノ幹部有力者二三ハ袁ニ買収セラレ且自分カ昨年來唱ヘタル袁中心主義ハ深ク人心ニ刻マレ今更急ニ之ニ反対ノ觀念ヲ起サシムルコト至難ニシテ多クハ平和ヲ望ミ居ル結果到底大事ヲ企テ難ク昨日帰滬後李烈鈞ニモ面会セル處同人モ南昌ト氣脈ヲ通シ機会ヲ観望シ居レルニハ相違ナキモ江西単獨ニテ徒ラニ乱ヲ起スカ如キコト殆ト無謀ノ挙ニ付差当リ議會ニ於テ相對峙スル外他ニ策ナク之トテ素ヨリ多ク望ミ難ク先ツ以テ現状ノ底ニ時勢ヲ観望シ他日ノ機會ヲ俟シノ外ナシト述ヘ自分等ノ勢力失墜ヲ一二五国借款ニ歸シ袁ノ巧妙ナル籠絡手段ハ同借款ニ依ル資金ニ伴ヒ驚クヘキ迄ニ地方ニ及ヘリトナシ南下前ト異リ全ク自派ノ勢力ヲ悲観シ居タリ尚同人ハ

議會ニ於テ地方ヨリモ幾分望アリトシ從テ張繼等議員中ノ有力者南下シ居ルモノハ追々北京へ帰ラシムル計画ナリト云ヘリ將又李烈鈞等カ江西ニ於テ何等カ企画シ居レルハ事実ナルモノノ如ク陳其美モ此種ノ口吻ヲ洩ラシ居レルモ最モ強硬説ヲ守持シ居レル孫ノ態度叙上ノ通ニ付果シテ事実ニ顧ハルルヤ否ヤハ疑問トスヘク陳其美ノ如キハ頻ニ黃興ノ徒ラニ自重ヲ名トシ狐疑躊躇セル結果大事ヲ誤ルトナシ居リ要スルニ尠クトモ孫ハ地方ニ於テハ最早殆ト形勢ヲ左右スルニ足ラサルヲ自覺スルニ至リタルモノト認メラル在支公使、在香港、廣東、漢口總領事ヘ転電セリ在南京領事ヘ郵報

ノ徒ラニ自重ヲ名トシ狐疑躊躇セル結果大事ヲ誤ルトナシ居リ要スルニ尠クトモ孫ハ地方ニ於テハ最早殆ト形勢ヲ左右スルニ足ラサルヲ自覺スルニ至リタルモノト認メラル在支公使、在香港、廣東、漢口總領事ヘ転電セリ在南京領事ヘ郵報

二九六 六月三十日 在漢口芳沢總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

南方派陰謀者ニ依ル武昌ノ紛擾事件略木鎮定ノ件

第一四三号

今回当地ニ於テ暴露シタル陰謀事件モ黎元洪ノ警戒嚴重ニシテ且事前ニ於テ之ヲ探知シタル為幸ニ大事ニ至ラサルヲ得タリ尤モ都督府ハ隱謀ニ關係アリトシテ總計約六十余人

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二九六 二九七

二九七 七月八日 在上海有吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

陳其美李烈鈞等国民党内ノ過激派ハ討袁ノ為事ヲ擧ゲル虞アリトノ觀測報告ノ件

第一三三号

李烈鈞ハ六日当地発江西ニ潛行シタル趣ニシテ武昌ノ紛擾

モアリ少壯派ハ尚何等カ企画スル所アルカ如キニ付黃興陳其美ニ面談徒ラニ輕挙シテ益々信ヲ内外ニ失シ衰ラシテ愈々圧迫ヲ加フルロ寒ヲ得セシムル外引テ累ラ國家ニ及スニ至ルカ如キコトナキ様夫レトナク忠告ヲモ試ミタル處彼等ノ語ル所ノ要領左ノ如シ

陳其美曰ク自分ハ当初ヨリ穩和ノ意見ヲ持シタルモ此ノ併ニシテ推移センカ徒ラニ自滅スルノ外ナク國民ハ革命前ト等シク惡政ニ苦マシノミ貴論ハ深ク感謝スル所ニシテ我党ニ於テモ現ニ穩和過激ノ二派ニ分レ前者ハ議会ヲ恃ミテ事ヲナサントセシモノナルモ之レニハ殆ント成効ノ見込ナク從テ自分ノ如キモ最近過激説ニ与スルノ已ムヲ得サルニ至レリト述ヘ孫黃ノ二氏ハ多年外国ニ流浪シ實際ノ機ヲ見ルニ敏ナラス現ニ客年ノ革命モ吾人等ノ手ニ依リテ計画セラレ孫黃ハ中途帰國シ來レルニ過キス從テ孫ハ今回愈廣東行ニ於テ其予期ニ反シニ三旅團長貢収セラレタルニ落胆シテ全ク失望的ノ口吻ヲ洩スカ如キ黃ハ徒ラニ狐疑シテ機ヲ失スルカ如キ國內ノ事情ニ通セサル結果ニ外ナラス予等實際事ニ当ルモノハ未タ甚敷悲觀スルニ至ラスト云ヒ飽迄武力的対抗ヲ計画スルノ口吻ヲ洩シ居タリ

黃興ハ曰ク武昌ノ變ニハ予等ハ何等關係ナキハ事實ニシテ李胡兩都督交迭ニスラ反抗セサリシハ我党ノ平和手段ヲ持シタル証左トスヘク併カモ江西其ノ他ニ於テ袁ノ圧迫益々加ハルニ於テハ茲ニ反抗ヲ生スルヲ免レサルヘク各所ノ小紛擾ハ遂ニハ大事ニ至ルカ如キコトモアラント述ヘ暗ニ少壯派ノ計画ヲ默認シ居ルカ如ク認メラル

要スルニ孫黃ハ成効ノ確信ヲ持セサル結果進ンテ事ニ当ラントスル考ナキモノト認メラルモ陳其美李烈鈞其ノ他少壯過激派ハ尚ホ有ユル機會ヲ捕ヘテ事ヲ起サントシツアルヲ以テ其ノ大事ニ至ルヤ否ヤハ別問題トシテ引続キ多少ノ紛擾ハ免レサルヘク李ノ江西行モ注意ニ值スルモノト認メラル尚海軍總司令官護衛兵ノ名義ニテ北方陸兵約一千余（黃興等ハ二千ト云ヘリ）ハ兩三日前江南機器局ニ入レリ黃興ハ之レヲ以テ同局ノ武器ヲ北方ニ運フ準備ナリト認メ居レリ

御参考迄

在支公使及在漢口總領事ヘ転電セリ

三〇〇 七月十三日 在漢口芳沢總領事ヨリ
二九八 七月十二日 牧野外務大臣宛（電報）

江西省沙河方面ニテ南北軍衝突ノ件

第一五五号

七月十二日八木（九江）來電左ノ通

今朝ヨリ沙河方面ニテ戰爭既ニ始マレリ民國銀行支店ハ紙幣ノ取り付ヲ受ケ大混亂中ナリ

第一六〇号

二九九 七月十二日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

江西省沙河方面ニ於ケル南北軍衝突ニ関シ報

告ノ件

八木来電左ノ通り

七月十二日午後四時蘆山街道十里舖（九江ヲ距ル約五哩）

附近ニテ北軍ト德安支隊トノ衝突アリ蘆山避暑地トノ交通全ク不可能トナレリ同地ニ於ケル北軍ノ重傷者二十二名昨夜租界天主堂病院ニ運ハレタリ北軍ハ鐵道方面ニテ野戰病院ヲ有スルモ十里舗附近ノ傷者ハ租界ニ運ヒ居レリ江西軍側ノ状況全ク不明ナリ
李烈鈞ハ七月十二日湖口ニテ討袁軍組織ノ布告ヲ各地ニ通告シタリト云フ德安ノ本邦人收容ノ為メ日清汽船ノ小蒸氣船本日南昌ヨリ帰レハ直ニ同地ニ派遣スル積ナリ
北京上海南京へ電報セリ

三〇一 七月十四日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

江西省ニ於ケル南北軍ノ配置報告ノ件

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 二九九 三〇〇 三〇一

三六五

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三〇一 三〇三 三〇四

第一六六号

江西ニ於ケル戦争ニ関スル御参考ノ材料トシテ本官承知ノ分不取敢左ニ

第一北軍方ハ河南信陽州第六師團ノ内一旅團九江停車場附近ニ陣取リタル外南昌ニ歐陽武九江砲台ニ陳廷訓アリ

第二江西軍方ハ德安ニ旅團長林虎九江ニ旅團長方声涛アル外湖口ニハ李ノ股肱タル蔡銳霆アリ

第三九江ニハ第二師團長劉世鈞アルモ同人ハ既報ノ通目下嚴正中立ノ態度ヲ執リ居レリ

三〇二 七月十四日

在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

七月十二日江西省ニ於ケル戦争開始ハ李烈鈞

一派ノ攻勢ニ基ク件

第一六七号

今回ノ江西ニ於ケル戦争開始ハ勿論李烈鈞一派ノ運動ニ基クモノト推察セラルモ李ニ附隨セル本邦人等ノ尽力モ亦与リテ力アルモノノ如ク之等本邦人等ハ過日来種々画策スル所アリシモ八木ニ対シテハ嚴重秘密ヲ守リ居リタルモノノ如ク江西官憲等ノ八木ニ対シテ数日前語リ居リタル所ニ

第一三五号

黄興ハ昨七月十四日南京ニ潛行セリ今十五日孫逸仙ニ面談セルトコロ平素ニ似ス甚タ憂色アリ彼ハ江西ノ変ヲ目シテ袁ノ極端ナル強圧ニ基キ自ラ發生セルモノナリト弁護シ而カモ事茲ニ至ル江西ハ之レ試金石ナリ飽迄奮闘スルノ外ナシ黃興ハ南京ニアリテ諸事ヲ画策スヘク同地ハ全ク予期通りニ運ヒタルヲ以テ多分本日ヲ以テ独立ヲ宣言スヘク程度全モ恐ラク我方ニ党スヘシト云ヒ江西ニ於ケル形勢如何ニ依ルヘキモ廣東福建モ不日独立スヘキ計画ニシテ予定ノ通り進行ノ上ハ臨時政府ハ差当リ南京ニ置クヘキモ揚子江沿岸一帯ノ形勢非ナランニハ廣東ニ置クノ止ムヲ得サルコトアルヘク責任者ニハ予自ラ之ニ当ルヘシトセリ将来ノ見込み至リテハ彼レモ十分ノ確信ヲ有セサル如キモ尚自派トシテ江西江蘇浙江福建廣東湖南山西陝西等ヲ算ヘ兵數ニ於テ南北相当リ得ヘシト見込ミ軍資ト武器ノ点ニ於テ甚タ悲観セルモ之レモ近々何トカ都合付クヘントナシ居レリ江西ノ状況ハ電報局ヲ押ヘラレ全ク不通ナル趣ニテ多少憂慮ノ状アリ彼ハ今回ノ事變ニ關シ日本側ノ意向ト諸外国人ノ感情ヲ顧慮シ居ルモノノ如ク頻リニ其辺ヲ質問シタルニ付本官

三六六

テハ戦争ニ至ラサルヘキ模様ナリシモ十二日ノ開戦ハ全ク

林虎(季ノ腹心ニシテ争乱煽動者ノ最モ望ヲ属スルモノ)側ヨリ攻勢ニ出テタル為ナルカ如シ南昌・九江等ノ交通杜絶シ電信亦不通トナリタル為南昌ノ情況分明セス

在支公使ヘ転電セリ

三〇三 七月十四日 在廣東赤塚總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

歐陽武江西都督ニ就任シ袁討伐ノ布告ヲ堯シ

李烈鈞ヲ江西軍總司令官ト為シタル件

第三一号

江西歐陽武ヨリ陳炯明宛ノ電報ニ依レハ歐ハ江西省議会ノ選挙ニ依リ江西都督ニ挙ヶラレ直チニ就任シ袁世凱ノ罪状ヲ鳴ラシ袁討伐ノ布告ヲ堯シ李烈鈞ヲシテ江西軍總司令官トナシタリト廣東ノ態度ハ未タ決定シ居ラス

在支公使及在上海在漢口總領事ヘ転電セリ

三〇四 七月十五日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

第二革命勅発ト各省ノ動向等ニ付孫文談話ノ件

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三〇六 三〇七

リタル件

第一号

当地聯隊長ノ語ル所ニ依レハ李烈鈞ハ討袁軍總司令官トナリ歐陽武ハ江西都督トナリテ近ク戰線ニ出ツヘク南昌ニハ留守府ヲ置キ愈應麓之ニ任せラレ其旨各地ニ電報サレタル由ナリ

今後本省宛電報ハ一切漢口總領事ニ電報シ同領事ヨリ北京

其他ヘ轉電スヘシ

三〇六 七月十五日

在漢口芳沢總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

黎元洪ヨリ江西省ノ叛軍討伐ノ為湖口碇泊ノ

日本軍艦ノ移出ヲ希望ノ件

第一七六号 在支公使宛七月十五日第一三七号

目下水陸ノ各軍ヲ增派シテ江西ノ匪徒討伐中ナルモ只湖口ニ日本軍艦二艘碇泊シ戰鬪行為上妨害アルノ虞アルヲ以テ此際該艦ニ転致シテ同地ヲ離レシムルヲ希望スル旨七月十五日黎元洪ヨリ電信ニテ照会シ来リタルニ付右ハ鳥羽並ニ目下溯江中ノ千早ノ二艦九江ニ碇泊中ナルコトヲ誤聞シタ

ルニ基クモノト了解シタルモ為念湖口ニ帝国軍艦ノ碇泊スルモノナキヲ確メタル上九江ニハ他國軍艦同様前記帝国軍艦二艘碇泊中ナルモ湖口ニハ帝国軍艦ノ碇泊スルモノナキ旨ノ趣旨ヲ以テ返電シ置キタルカ過般ノ湖北陰謀事件當時我陸軍ノ小蒸氣ニ匪徒ノ一部ヲ乗セタリトノ風説アリテ之ニ原因スルヤ否ヤハ確知セサルモ爾來黎ハ兎角海軍タル軍艦ニ疑惑ヲ有スルモノアルカ本月十三日都督府參謀ハ池部ニ対シ九江ニ於ケル帝国軍艦カ江西軍ヲ援助シシツアリト疑ハルル旨ヲ述ヘタリトノコトナリ
大臣ヘ轉電シタリ

三〇七 七月十六日

在中國伊集院公使ヨリ

江西省ノ変乱ニ關シ大總統令發布ノ件

第五二七号 七月十五日大要左ノ如キ大總統令發布セラレタリ

曩ニ黎元洪ヨリノ來電ニヨレハ陳廷訓ヨリ反徒九江湖口ニテ陰謀計画中ナルニ付鎮撫ノ為メ軍隊ヲ九江ニ派遣セソコトヲ請求シ来レルニヨリ之ヲ派遣シタルニ引続キ歐陽武ヨリ右中止方電報シ来レルヲ以テ該軍隊ノ引揚ノ準

岑春煊革命資金調達ニ付日本側ノ好意的援助

ヲ希望スル旨談話ノ件

第一四〇号

岑春煊ハ武昌ヨリ帰滬以來頻ニ資金調達ニ腐心シ西田等ニモ問合ヲ試ミタルコトアリ機會アレハ立タントスル意志ナルハ屢々公言シテ憚カラサルノミナラス最近討袁軍ノ首領タル風説モアル処七月十五日ノ談ニ依レハ彼ハ例ノ通袁ニ對抗シ国民党一派ニ同情ヲ表シ其領袖連ヲ懲憲シ其常ニ両者ノ間ニ氣脈ヲ通シ居レルヲ蔽ハス加之此次ノ挙事ノ飽迄成効スヘキヲ確信セルモノノ如ク袁ハ必ス失敗スヘシト断言シ袁没落ノ際ノ处分迄モ予想シ居リ頻ニ此際日本ノ立場ヲ決スルノ重要ナルヘキヲ説キ仮令表面中立ノ態度ヲ破ル能ハサル迄モ切テ商人ナトヲ通シ二三百万円位ノ融通ヲ付ケ好意ヲ表シ置クノ得策ナルヘキヲ説キ此際百万乃至二百万ノ資金ヲ得ハ廣西陸都督ヲ始メ梧州ノ竜濟光等ヲ自己ノ部下ニ集メテ一舉湖北ヲ掃蕩シ得ヘント云ヒ其意空拳国民党一派ニ投スルヨリモ成ルヘク自己ノ実力ヲ示シテ進退ヲ共ニセシコトヲ決シ居レルモノノ如シ同人等ノ談ニ依レハ宗社党干式渡リ付ケ居ルモノノ如シ同人等ノ談ニ依レハ宗社党干式

三〇八 七月十六日

在上海市吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三〇八

三六九

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三〇九 三一〇

三七〇

枚モ恭親王ノ寄旨ヲ含ミテ当地ニアリトノコトナルモ余り重ヲ措キ居ラサルモノノ如シ汪兆銘到著後更ニ広東ニ引返セリト云ヘリ唐紹儀ハ今次ノ政變ヲ目シテ袁カ余リニ強圧手段ヲ執リ無用ナル兵ヲ動カシタルニ基クトシ自分ハ或ハ当分九州辺ノ温泉ニテモ暫ク赴キ居ランカト考ヘ居レリト語レリ御参考迄

在支公使及広東へ転電セリ又南京へ郵送シタリ

三〇九 七月十六日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

江蘇都督程德全江蘇獨立ヲ宣言シ黃興ヲ討袁

軍總司令官トナス旨布告ノ件

第一四一号

船津ノ依頼ニヨリ電報ス(四〇)

各方面ノ情報ヲ綜合スルニ七月十四日第八師團長官邸ニ於テ深更迄會議ノ結果南方独立ニ反対スルモノハ片端ヨリ之ヲ殺スコトトナリ要塞司令官吳紹磷(中將)ハ第一師ノ兵

本日午前五時之ヲ襲撃銃殺シ其外講武堂副長蒲鑑(袁世凱ノ探偵ト称セラル)旅團長張斯棄元第三師參謀陳鳳昌等モ前後殺害サレタリ国民党側ノ説ニ依レハ徐寶珍及張勲モ南

アリト信ジ居レリ實際江西軍ニ投ジタル本邦人ハ目下ノ処予備役將校三名下士官七名身分不明ナルモノ三名ニシテ其外十五日予備陸軍中尉佐藤某及ビ貴地駐屯軍通訳官穴水某湖口ノ李ニ投ジタリ今後尚増加スペシ黎元洪ハ九江ニアル帝国軍艦夜間湖口ニ往復シ李ヲ援ケ居ルトノ電報ニ接シ木村大尉ニ參謀ヲ附シ當地ニ派遣シ実否取調ベシメ居レリ

三一〇 七月十八日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

上海ニ於ケル南方軍隊ノ狀況ニ閱スル件

第一四五号

當地軍隊ハ陳其美主トシテ之ヲ指揮シ孫逸仙ハ未タ表面ニ立タス軍艦ハ中立形勢觀望ノ姿ナリ在支公使ニ転電セリ

三一二 七月十八日 在北京坂西大佐ヨリ
長谷川參謀總長宛(電報)

袁世凱ハ南方派ノ武力鎮圧ヲ引続断行ノ模様

ナル件

坂極秘第一三号

目下ニ於ケル袁ノ意向ヲ察スルニ彼ハ列國ニ對シ現政府ノ実力ヲ認メシムル目的ヲ以テ引続キ武力鎮圧ヲ斷行セント

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三一一 三一二 三一三

方ニ加担スルナラント云居レリ程都督モ形勢ノ不可ナルヲ見テ国民党ニ加担シ本日(十五日)大要左ノ如キ告示セリ近日北軍江西ニ入りテヨリ謠言紛々人心恐惧本都督ハ地方ノ治安ヲ維持スル為各師團長ノ請ヲ允ルシ本日独立ヲ宣言シ且既ニ黃興ヲ以テ討袁軍總司令官ト為ス云々

目下當地ニハ黃興ノ外陳其美汪精衛其他国民党中ノ有力者數名アリ柏文蔚ハ不日安慶ニ赴キ該方面ノ指揮ヲ為ス筈又岑春煊ヲシテ大元帥ト為スベシトノ説アリ各国領事館ニハ屋間十名夜間二十名ノ兵ヲ派シテ護衛シ電信局江蘇銀行其他市内ノ要處モ同様警備行届キ市内ハ平穏ナリ右在支公使及広東漢口ニ転電セリ

三一〇 七月十六日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

李烈鈞ノ討袁軍ニ參加ノ日本軍人ニ閱スル件

第四号

漢口總領事ヘ左ノ通電報セリ

第九〇号

當地支那官民及ビ西洋人ハ皆今般李烈鈞ノ旗上ゲハ日本人ノ後援アルニ依ルモノニシテ江西軍中ニハ多數ノ日本武官

ノ計画ナルガ如シ
張勲ノ兵モ韓莊ニ於テ勝利ヲ得タル結果袁政府ノ為メニ働クコト明白トナレリ山東ノ第五及直隸ノ第四師團殘部トヲ合セ津浦鐵道方面ニ備ヘ直隸都督馮國璋ヲ總司令官トナスノ計画ナルガ如シ

三一三 七月十九日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

上海ノ獨立宣言及陳其美ノ討袁軍總司令官二

任命ノ件

第一四五号

未タ通知ニハ接セサルモ上海ハ七月十八日独立ヲ宣言シ程

都督ノ名ヲ以テ陳其美駐滬討袁軍(脱字)ニ任セラレ(ボク)警察署長ハ病氣ヲ名トシ辭職シ李平書臨時代理トナレリ尚寧波モ同日独立ヲ布告セリトノコトナリ

三一四 七月二十一日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

上海支那電信局討袁軍ノ手ニ帰シ曩ニ免職セラレタル前

第一五一号

三七一

局長唐露園ハ七月十八日程徳全ヨリ局長ニ任セラレタル旨
本日通知シ越セリ

大正二年七月二十一日 (七月二十八日接受)

在清国

特命全権公使 伊集院 彦吉 (印)

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

南方変乱討伐軍派遣ニ関シ外交部ヨリ覺書送

付越ノ件

第五四六号

外交部ハ七月二十日附ヲ以テ南方カ全國統一ノ方針ニ反シ

内亂ヲ發生スルニ至リタルニ付テハ政府ハ已ムヲ得ス直ニ

軍隊ヲ派遣シ不日討伐ノ功ヲ奏スルニ難カラサルヘク各國

ニ於テモ政府ノ苦衷ヲ諒トセラレタキ旨ノ覺書ヲ送リ越セ

リ右ハ各國公使館ヘモ同様通牒シタルモノナリ

外交部ハ七月二十一日附在中国伊集院公使ヨリ

牧野外務大臣宛

南方變乱討伐ニ關スル中國外交部覺書写送附

ノ件

附屬書 七月二十日附外交部發伊集院公使宛覺書写及
和訳文

公第一四五号

節略

來字第九號

民國肇建臨時政府一年以來無日不以恢復秩序力謀統一爲事
蓋非此無以靖地方亦非此無以立國也各國政府與本國政府辦
理交涉繼續進行未嘗有間而商務財政上之關係尤日見增益各
國借款賠款極願如期清償然非全國秩序毫無破壞之虞則不足
以促財政之發達斯不足以得實際上之保障本國政府深見及此
所以力求進行者蓋已不遺餘力誠以秩序不定則統一有碍舉凡
裁汰冗兵畫一幣制清理財政等事俱無從入手因此於各國商業

亦不無妨害之處處靡獨無以對本國之良民亦何以對和好之友
國近者南中官吏意見紛岐其熱心大局者固不乏人而擁兵靡餉
幸災樂禍者亦所不免政府不得已而量加撤換正欲爲地方得人
爲國家造福乃匪徒籍端肇亂遂動干戈視本省兼督之防軍儼若
敵人視全體共戴之政府竟如異國稱兵犯順破壞共和致使瘡痍
甫復之民重罹火熱水深之苦商人切齒市面騷然政府現已派遣
軍隊南下偏隅之亂不難指日盪平惟是政府以仁愛爲懷以和平
爲本並不欲以兵戈之禍擾及地方但求內亂早平恢復商務國會
議員及各省商會已要求速討畔逆政府受人民委託不得不行其
應盡之義務此係本國政府對於此次內亂不得已之苦衷各國與
本國敦睦有加必多關念用特布達以明事實

外交部啓 七月二十日

テ地方ヲ靖シズルナク亦之ニアラサレハ以テ國ヲ立ツルコ
トナケレハナリ各國政府本国政府ト交渉ヲ弁理シ繼續進行
シ未タ嘗テ間アラス而シテ商務財政上ノ關係尤モ日ニ増益
ヲ見、各國ノ借款賠款モ極メテ期ノ如ク清償ゼンコトヲ願
フ然レトモ全國ノ秩序毫モ破壞ノ虞ナキニアラサレハ則チ
以テ財政ノ發達ヲ促スニ足ラス斯ニ以テ實際上ノ保障ヲ得
ルニ足ラス本国政府深ク此ニ見ル所アリ力メテ進行ヲ求ム
ル所以ノ者蓋シ已ニ余力ヲ遺ササルハ誠ニ秩序定ラサレハ
統一二碍アリ凡ソ冗兵ヲ裁汰シ幣制ヲ画一シ財政ヲ清理ス
ル等ノ事俱ニ入手ニ由ナク此ニ因リテ各國商業ニ於テモ亦
妨害ノ處ナクハアラス独リ以テ本國ノ良民ニ対スルナキノ
ミナラス亦何ヲ以テ和好ノ友國ニ対セン近者南中官吏意見
粉岐シ其大局ニ熱心ナルモノ固ヨリ人ニ乏カラサルモ而モ
擁兵糜餉幸災樂禍者亦免レサル所ナリ政府已ムヲ得スシテ
量リテ撤換ヲ加ヘタルハ正ニ地方ノ為ニ人ヲ得國家ノ為ニ
福ヲ造ラント欲スルニ在リ然ルニ匪徒端ヲ借リテ亂ヲ肇メ
遽カニ干戈ヲ動カシ本省兼督(黎元洪ノ江西都督兼署ヲ指
スモノナラン)ノ防軍ヲ視ルコト儀トシテ敵人ノ如ク全体
共ニ載クノ政府ヲ見ルコト竟ニ異國ノ如ク兵ヲ擧ケテ順ヲ

(右和訳文)

節略訳文

民国肇メテ建チ臨時政府一年以来日トシテ秩序ヲ恢復シ力
メテ統一ヲ謀ルヲ以テ事トセサルナシ此レニ非ラサレハ以
三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三一六

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三一七 三一八

三七四

犯カシ共和ヲ破壊シ瘡痍初メ復スルノ民ヲシテ重ネテ水深火熱ノ苦ニ罹ラシメ商人ハ切歎シ市面ハ騒然タリ政府現ニ已ニ軍隊ヲ派遣シ南下セシメタレハ偏隅ノ乱日ヲ指シテ蕩平スルニ難カラサルヘシ惟タ是レ政府ハ仁愛ヲ以テ懷トナシ和平ヲ以テ本トナシ並ニ兵戈ノ禍ヲ以テ地方ニ擾及セシムルヲ欲セス但タ内乱早トニ平キ商務恢復ゼンコトヲ求ムルノミ國會議員及各省商會已ニ速カニ反逆ヲ討タンコトヲ要求シ政府ハ人民ノ要託ヲ受クレハ其尽スヘキノ義務ヲ行ハサルヲ得ス此レ本国政府此次内乱ニ対シ已ムヲ得サルノ苦衷ニ係ル各國ハ本国ト敦睦加ハルアリ必ス閑念セラルルコト多カラン由リテ特ニ布達シ以テ事実ヲ明カニス

外交部啓 七月廿日

三一七 七月二十三日 (在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報))

討袁軍上海江南機器局ニ対シ攻撃開始ノ件

第一六四号

公使宛

江南機器局ニ対スル南北軍ノ交渉ハ其ノ功ナク兩三月來南軍ハ松江其ノ他ヨリ兵力ヲ増加シ北軍ニモ新銘号ニテ約四

シトノコトニテ仏國居留地ニハ流弾飛来二三負傷者ヲ生セリ海籌ノ外砲艦五隻水雷艇二隻ハ今迄ノ所戦闘ニ加ハラサルモノノ如シ

三一九 七月二十三日 (在北京青木少將ヨリ
長谷川參謀總長宛(電報))

政府ノ圧迫ニ依リ国民党議員北京出発南下ノ件

政府ハ一昨二十一日ヲ以テ北京ニ戒厳令ヲ布キ趙秉鈞ヲ戒嚴地司令官トシ昨日來国民党ノ機関新聞ニ圧迫ヲ加ヘシツ

アリ国民党ハ之が為本日ノ會議ニ於テ全部引揚ゲニ決シ本夜旅費ノ支給ヲ本部ヨリ受ケタル後三百余名ノ議員ハ明日ヨリ四五日間内ニ当地出発南下スル筈

三二〇 七月二十四日 (在中国伊集院公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報))

政府ノ北京ニ於ケル国民党彈圧狀況報告ノ件

第五六四号

北京ニ戒厳令ヲ布カレ趙秉鈞之レヲ司リテ以来在京国民党ノ恐慌一方ナラサリシカ七月二十三日夜半国民党所屬廣東議員俱樂部警官ノ襲フ所トナリ拘引サレタル者十數名内國

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三一九 三二〇 三二一

百ノ兵到着シ上陸危機切迫セルヤニ見受ケラレ同方面ニハ同文書院モアリ旁陳其美等ニ確メタルニ愈攻撃ヲ開始スル決心ナル旨ヲ告ケタルニ付キ同文書院等ニハ預メ警戒ヲ加ヘ御真影等ハ當館ニ移サシメ学生其ノ他ハ居留地ニ避難セシメ置キタリ今二十三日午前三時五分ヨリ双方砲声盛ニ聞ニ流弾間々附近ノ仏租界迄飛来シ同文書院モ只今迄一回砲弾ヲ受ケタルモ人畜ニ負傷ナシ同院ニハ當館ヨリ巡查出張状況視察旁警衛中只今ハ時尚交戦中ナリ居留地防衛方ハ昨朝居留地警察署長ト先任司令官タル名和中将等ノ間ニ打合セ濟ナルモ只今迄ノ所居留地ハ至極静穩ニシテ仏國水兵ノ同租界警衛ノタメ上陸セル外各國居留地ハ義勇隊ニテ警戒中ナリ

三一八 七月二十三日 (在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報))

上海機器局ノ戰闘ニ關シ統報ノ件

第一六七号

往電第一六四号機器局ノ戰闘ハ午前七時頃ヨリ軍艦海籌南軍ノ砲擊ヲ始メタル結果南軍ハ多少ノ頓挫ヲ来シ引続キ応戦中ノ模様ナリ同文書院ニハ四回砲弾ヲ受ケタルモ死傷ナ

會議員渺ナカラスト伝ヘラル政府側ニテ更ニ議員ノ行動ヲ束縛スルカ如キ高圧的命令ヲ發スル計画アリトノ風説アリテ国民党議員ハ漸次南方ニ去ラントス新聞紙ニ対スル警察ノ干渉激甚ニシテ国民党機關新聞ハ發行頗フル困難トナリ既ニ廢刊セルモノ渺ナカラス国民党側ニ傾キ居タル新聞ノ論調ハ軟化シ目下湖北共和党ニ属スル新聞カ多少袁世凱ヲ攻撃シ居ル外北京ノ新聞ハ概シテ官僚派タルノ外觀アリ

三二一 七月二十四日 (在北京青木少將ヨリ
長谷川參謀總長宛(電報))

国民党解散命令ニ關スル情報報告ノ件

一、昨電ノ如ク当地国民党議員ハ愈々引揚ケニ決シ順序正シク之ヲ實行セントセシモ昨夜半廣東議員十余名カ政府ノ手ニ逮捕セラレタル為非常ノ恐慌ヲ來タシ幹部モ議員全般ヲ繙ムルニ由ナク今ヤ支離滅裂ノ狀態ニテ各自各ノ行動ヲ執ルニ至リ其一部ハ本日ヨリ南下シツツアリ又政府ハ愈々国民党解散ノ命令ヲ脱稿シ終リ一両日中ニ發表ノ告ト

二、禁衛軍約五千二十八日天津発海路上海ニ輸送セラルル

三七五

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三一二 三二三 三二四

三二二 七月二十四日 在上海有吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

上海ノ戰闘ハ南軍不利ニシテ同文書院ノ危険

加ハリ職員等ノ立退手配中ノ件

第一七三号

南軍ハ今朝以来漸次敗北シ南市附近ニ退却北軍之ヲ追撃シ斜橋附近ニ於テ南市及城内ヲ砲撃中ニシテ斜橋一帯ノ支那

家屋ニ火災起り居レリ同文書院ハ益々危険ニシテ陳其美ヨリハ領事團ニ居留地外々人モ撤退方ヲ請求シ來リ軍艦ノ砲

撃モ益々烈シキニ付西田ヲシテ海軍総司令李及鄭中將ヲ軍艦海籌ニ訪問セシメ公トナク何トカ安全ノ取扱方ヲ求メシ

メタルモ十分注意スルコトニ(脱文)安全ヲ保障シ得ストナセルニ付當館再三ノ勧告ニモ拘ラス尚踏止マリ居ル數人ノ職員等ニ対シ更ニ立退ラナサシムルノ手続中ナリ

在支公使電済ミ

三二三 七月二十八日 在上海有吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

江蘇督程德全民政長應德闕ヨリ南京事変ノ

為事務所ヲ上海ニ設ケル旨通牒越ノ件

第一九一号

菜等モ欠乏シ又待設ケタル岑春煊モ形勢ヲ觀望シ容易ニ来るラス且程德全ハ上海ヨリ当地各軍隊首席ヘ宛共和政治ノ擁護ハ必スシモ干戈ニ依ラス平和の手段ヲ以テ十分之ヲ解決スルコトヲ得ヘシト信スルニ付此際独立宣言ヲ取消シ生民ヲ塗炭ヨリ救フ方國家ノ利益ノ為ナリトノ意味ヲ打電シ來リタルニ由リ當地軍界モ亦一般ノ形勢不可ナルヲ覺リツツアル際ナレハ態度急変ノ虞アルニ因リ遂ニ黃ノ部下ハ一先ツ黃ヲ安全ノ地位ニ遁レシメントテ右ノ如キ始末トナリタルモノト察セラル卑見ニ依レハ黃ハ此際死ヲ決シテ此地ニ踏止マル方可然ト思ハルルモ若シ黃ガ愈々帝国軍艦ニ依リ此地ヲ遁レントスルニ至レハ本官ニ対シテモ何等交渉アルヤモ難計ト思ハルルニ付之ニ対スル措置ニ關シ至急何分ノ御訓電アリタシ

此際黃興ヲシテ我軍艦ニ依リ遁レシムルガ如キコトアリテハ帝国政府ガ累次声明シタル不偏不党公正ノ態度モ全然其信ヲ失シ中部支那ノ動乱ハ我煽動又ハ援助ニ基クトノ世間ノ風説ヲ確ムルガ如キ結果トナリ極メテ不得策ニ付万一千方ヨリ貴官ニ依頼アルトモ政府ノ立場上乍遺憾応諾シ難キ旨ヲ以テ然ルベク謝絶セラレタシ右我軍艦々長ヘモ御内話置相成リタシ

三二六 七月二十九日 在上海有吉總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

同文書院過半焼失及吳淞砲台二対スル北軍砲

擊ノ虞アルコト等電報ノ件

第一九四号

二十七日夜九時頃ヨリ南軍ハ又々機器局ノ攻撃ヲ開始シ數時間砲戦ヲ續ケタルモ遂ニ撃退セラレタリ同文書院ハ北軍ノ砲火ノ為二十九日午前零時三十分発火本部教室ヨリ職員室俱樂部教室ノ全部ニ延焼シ全建物ノ過半ハ焼失セリ一旦

引揚ノ後引返セル番人外一名ノ本邦人ハ無事避難セリ尚同夜ノ流弾ハ各國居留地各所ニ落下シ殊ニ公園ニ於ケル演奏中ニ砲弾落下葡萄牙人小兒一名負傷セル事実ハ著シク人心

三七六

二十八日附ヲ以テ江蘇都督程德全民政長應德闕ノ名ヲ以テ

首席領事宛去ル十五日南京ノ事変不意ニ起リタル為自分等ハ一時時局ヲ回避セン為上海ニモ事務所ヲ設ケ且中央政府

ノ命令ニ依リ応ハ上海ニ於テ臨時事務ヲ取扱フ旨通牒シ来

レリ

公使済ミ

三二四 七月二十八日 在南京船津領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

黃興広東方面ニ脱走ノ為日本艦船ニ搭乗シ度

牛旨大和商会野村ニ申出ノ件

第六四号 至急

七月二十七日黃興ハ第八師旅團長王孝績ヲ通シテ当地大和商會野村ニ向ヒ形勢愈々不可ナルヲ以テ出来得ヘタムバ今夜日本軍艦或ハ商船ニ投シ一先ツ此地ヲ遁レ廣東方面ニ赴キ再挙ヲ圖リタキニ付可然助力ヲ請フ旨申出タリ野村ハ不敢此事ヲ当地駐在秋元海軍少佐ニ相談シ少佐ハ更ニ竜田艦長ト協議スル筈尙ホ事ノ茲ニ至リタル所以ヲ聞クニ湖口ハ遂ニ陥落シ交通ノ門戸タル上海ハ南軍利アラズ今日ノ有様ニテハ俄カニ占領スルコト覚束ナク加ルニ軍資金及ヒ弾

貴電第六四号ニ関シ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三二五 三二六

第一〇号 至急

モ之ヲ拒絶ズベキ旨訓令ノ件

三二五 七月二十八日 牧野外務大臣ヨリ

在南京船津領事宛(電報)

黃興ヨリ脱走ノ為我軍艦ニ搭乘方依頼アルト

貴電第六四号ニ関シ

第一〇号 至急

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三二七 三二八

ニ恐怖ヲ与ヘタルカ如シ劉冠雄ノ艦隊吳淞到着ハ尚確ナラス或ハ崇明島ニ兵員ヲ上陸セシメタリトモ伝ヘラル吳淞砲台ニ対スル「アルチマタム」ハ李提督ヨリセルモノニシテ二十八日中ニ降参セサレハ直ニ砲擊ヲ開始スヘシトシ交渉使ヨリ其趣首席領事ニ通知シ越セリ本日該方面ニモ事アル

ヘシトテ居留地人心甚タ不安ナリ山本警部ノ視察スル所ニ

依レハ竜華方面南軍ハ士氣尚衰ヘサルモノノ如ク商売モ其

業ニ安ンシ只砲擊ノ中心地タル鴻章廟附近ノ甚タ慘状ヲ呈

セルヲ見受タルノミトノコトニテ差当リ北軍モ攻撃ニ移ル

能ハサルニヨリ現状ノ併ニテハ暫ク結局ノ見込ナキカ如シ

尚湖州会館ニ遺留ノ武器ハ一先居留地ニ移シ義勇隊ハ全部

撤退セリ

公使電済ミ

三二七 七月二十九日

在南京船津領事宛(電報)

黃興ノ竜田艦逃込ニ闕シ本邦以外安全ノ処ニ

落延フル様取計方訓令ノ件

第一二号

黃興ハ昨二十八日夜竜田艦ニ逃込ミタル趣海軍省へ電報ア

キ程徳全ニ内応セントスル虞アリ其他憲兵隊ノ如キモ形勢如何ニヨリ変化スルモノナレハ頗リトスルニ足ラス最モ信

頗スヘキ第八師ハ精銳全部前進シ此地ニ在ルハ新募兵二千内外ニ過キス而シテ上海鎮江揚州其他ノ方面モ亦形勢益々

険惡黃ニ対スル危険ハ時々刻々迫リタリ故ニ一先ツ此地ヲ去リ再挙ヲ計ルコトニ決シタルモノナリ又自分ハ(陳之驥)秩序維持ノ為メ程徳全ノ来ル逃当地ニ止マリ其後ハ臨機応

変ノ挙ニ出ツヘシトテ暗ニ一先ツ脱走再挙ノ意アルヲ洩シ尚脱走ノ報一度外間ニ伝ハルニヨリ当地ハ如何ナル変化ヲ來スヤモ計リ難キニ付竜田艦ハ警備ノ為此際他艦ノ来ルニ非ラサレハ此地ヲ去ルコト不可能ナルヲ以テ黄モ夫レ迄ハ

同艦内ニ潜伏スルノ外ナカルヘシ日下當港ニハ英艦二(内一司令官坐乗)米独各一アリ為念申添フ

北京上海廣東漢口ニ電報シタリ

註

七月二十八日船津領事発外務大臣宛第六六号省略セルガ

程徳全ノ發シタル該電報ニ付テハ後出船津領事ノ七月三

十日附機密第五一号(三三一文書)参照

三二九 七月三十日

在上海有吉總領事宛(電報)

黃興ノ日本亡命阻止方ニ付訓令ノ件

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件

三二九 三〇〇

三二九

三七八

リ同人ノ行先ニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ待ツヘキ旨今朝行達ニ同艦へ電訓ヲ発セラレタル處同人カ本邦ニ逃亡スルコトハ當方ノ甚タ迷惑トスル処ニシテ可成ハ香港又ハ他ニ安全ノ處へ落延フルコトニ致度ニ付其含ニテ同艦長トモ懇談ヲ遂ケラレタシ

三二八 七月二十九日

在南京船津領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黃興ノ竜田艦ニ逃込ムニ至リタル情勢ニ闕シ

報告ノ件

第六八号

黃興ハ愈々今二十九日午前一時頃竜田艦ニ赴キタリ憲兵司

令官ハ今朝特二人ヲシテ此事ヲ本官ニ報セリ右ニ依レハ黃

ハ表面重資其他重要事項ニ付自身ニテ措置ノ必要アルニ付

上海ニ赴クト称シ又憲兵ノ護衛ヲ謝シ第八師ノ兵ニ護衛セ

ラレ日本人二名附添ヒ出発シタル由今回黃興カ斯ノ如ク急

遽狼狽出奔スルニ至リタル事情ナリトテ昨夜第八師團長ノ

語ルトコロニ依レハ去ル二十六日程徳全ヨリ各地へ発シタ

ル電報(往電第六六号参照)^(註)ハ當地軍界ニモ非常ノ印象ヲ

与ヘ目下當地守備ノ任ニアル第一師第四聯隊長吳藻華ノ如

第六七号

黃興ハ昨二十八日夜竜田艦ニ逃込ミタル趣海軍省へ電報アリ同人ノ行先ニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ待ツヘキ旨兼テ行違ニ同艦へ電訓ヲ発セラレタル處同人ガ本邦ニ逃亡スルコトハ兼テヨリ日本カ同人等ヲ援助シ居ル如ク伝説セラレ居ル行懸モアリ當方ノ甚タ迷惑トスル処ニシテ可成ハ香港又ハ他ニ安全ノ處へ落延フルコトニ致度若シ万已ムヲ得サルニ於テハ或ハ一時沖縄邊ニ潛匿スルコトニ取計フヨリ外致方ナキカト思考セラル海軍大臣ヨリ名和司令官ヘモ同様ノ電訓ヲ発セラレタルニ付右御含ノ上同司令官トモ懇談ヲ遂ケラレタシ

三三〇 七月三十日

在南京船津領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黃興嵯峨艦ニテ南京ヲ脱出セル旨報告ノ件

第六九号

貴電第一〇号ニ闕シ早速竜田艦長ヘ御訓令ノ次第内話ノ為メ今二十九日夜同艦ニ赴キタルトコロ恰カモ嵯峨艦本日燕湖ヨリ上海へ急行ノ途次立寄リタルヲ以テ夜陰ニ乘シ黃興及黃愷元(參謀長)ヲ同艦ニ移シ既ニ出発セシメタル後ナ

三七九

リシ

北京及上海ハ転電セリ

三三一 七月三十日 在南京船津領事ヨリ 牧野外務大臣宛

黄興南京脱走ノ顛末ニ付報告ノ件

機密第五一号

大正二年七月三十日

(八月七日接受)

在南京

領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

七月二十七日夜小官ハ支那友人ノ宴会ニ赴キ(右宴会ニハ新任巡警長吳忠信新任要塞司令官馬錦春即チ吳紹璘ノ後任討袁軍總司令部一等副官譚道南、憲兵司令官茅廻封等モ列席セシガ以下叙述スル如キ時局ノ急変ハ少シモ知ラサリシ)帰路自下滯在中ノ漢口駐屯軍附陸軍大尉伊集院俊彦氏ヲ旅館宝來館ニ訪ヒシニ偶当地大和商会野村岩蔵(野村ハ元下士官ニテ第八師團長陳之驥其他現今枢要ノ軍職ニ在ル支那軍人ハ曾テ日本留学中同人ノ教授ヲ受ケタルモノ多ク其緣故ヲ以テ大和商会當地出張員トナリ専ラ軍需品ノ売込

ニ從事シ常ニ第八師始メ各軍隊ニ出入シ居ルモノモ來訪中ナリシ時局ニ関スル雜談ヲ交フル少時小官ガ將ニ辞シ去ラントスルヤ野村ハ伊集院大尉ニ向ヒ先刻ノ話ハ領事ニモ話シテ宜シカラント問フ伊集院ハ固ヨリ差支ナシト答フ是ニ於テ野村ハ大要左ノ如ク語レリ

本日午後五時頃黃興ハ旅團長王孝績及陳裕時兩人ヲ介シテ日本軍艦ノ援助ニ依リ廣東方面ニ逃レ再挙ヲ計リ度キコト、又四囲ノ形勢日ニ非ニシテ危險切迫シ居ルヲ以テ出来得ヘクンバ今夜ニテモ此地ヲ去リ度旨依頼ヲ受ケタルモ自分(野村)ハ事ノ意外ナルト其形勢ノ急変セルモノニ驚キ其事情ヲ尋ネタルニ袁ノ黃金主義著々功ヲ奏シ各方面ニ渡リヲツケ買収亦買収遂ニ南京ニ於ケル軍隊モ頗ムニ足ラサルモノアルニ至レリトテ哀願ノ情切ナルモノアルヨリ只今取敢ヘス秋元海軍少佐(事變發生以來諜報任務ヲ帶ヒテ當地滯在中)ニ其事ヲ話シ秋元少佐ハ更ニ竜田艦長ト相談サル、ナラン又右ハ極秘ナルヲ以テ其御舍ヲ乞フ云々

右ハ既ニ往電第六四号ヲ以テ大要電報セシ所ナリ尚ホ小官ハ近來南軍ノ形勢非ナルヲ承知シ居ルモ南軍ノ首脳タル黃

興カ一刻ヲ争フテ逃レサルヘカラサル程度迄ニ切迫シ居ルトハ如何ニ考ヘテモ受取レス仮リニ危険ガ左程ニ切迫シ居ルトスルモ国民党ノ腹心タル精銳ナル軍隊ハ僅カ九十哩ヲ隔リタル臨淮閥ニ在リ一電ノ下五六時間内ニ南京ニ呼返スコトヲ得ヘク以テ此地ヲ死守セハ更ニ一ヶ月内外ヲ支フルハ困難ナラサルヘシト信セラル其間一面ニハ銳意各方面ニ向テ活動セハ大勢ヲ挽回スルコトヲ得ルヤモ計リ難シ黃興若シ不幸ニシテ城ヲ枕ニシテ金陵ノ露ト消ユル如キコトアルモ国民党中必ス第二ノ黃興アリテ他ノ方面ニ活動スルモノアルヘシ之ニ反シ黃興カ急遽狼狽此地ヲ去ル如キコトアラバ各地ニ於ケル同党ノ勢力モ相続テ瓦解スベシ黃興ノ形骸ハ生存ゼンモ精神的ニ全然大死セシト同様ナラント信スルニ付少シク無情ナル如キモ国民党大局ノ為黃興ハ此際断然死ヲ決スヘン支那ノ為又東洋ノ為ヨリ言ヘハ元来今回ノ如キ無謀ノ挙ハ絶対ニ望マサル処ナリシモ一旦事ヲ挙ケタル上ハ今少シク奮闘スル方男子ノ本領ナラスヤ右ハ友人トシテ又君ノ意見トシテ忠告ヲ試ミテハ如何ト野村氏ニ語リ相別レタリ

越テ二十八日午後四時頃竜田艦長有馬中佐來訪黃興脱走ノ件

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三三一

件ニ就キ秋元少佐ヨリ昨夜來相談ヲ受ケタルカ危険カ果シテ左程迫切迫シ居ルヤ疑ハシキニ付更ニ協議シタシトテ電話ニテ秋元少佐ヲ當館ニ呼寄セ事情ヲ質問セリ小官モ同感ナリシヲ以テ同様ノ質問ヲ為セシニ秋元少佐ハ黃興ノ直話ニ拠レハ危険非常ニ切迫シ居レリ又反対派ノ目的物ハ黃興ノミナレハ黃興サヘ此地ヲ去レハ南京ハ平安ナルヘシト答ヘタリ依テ小官ハ再ヒ前述野村氏ニ語リシ如ク最後迄奮闘スル方然ルヘキヲ説キ更ニ往電第六五号ヲ以テ申進セシ通リ日本カ中外ニ向テ嚴正中立ヲ声明シ居ルニ拘ラス尚ホ外間種々ノ嫌疑ヲ受ケツ、アル際ナレハ黃興ヲシテ帝国軍艦ヲ利用セシムルコトハ甚好マシカラサルニ付可成丈ケ之ヲ避ケ日清汽船及其他ノ汽船(三菱ノ大治礮石船等)ヲ利用スル方法ヲ講スル方然ルヘシ若シ万已ムヲ得サレハ黃興ヲシテ変装セシメ陸路安全ノ地迄遁レシムルコト困難ナラサルヘシト思考スル旨主張シタルモ秋元少佐ハ小官ノ説ハ冷酷ナリトテ之ニ反対シ尚ホ竜田艦長ニ一応個人ノ資格ヲ以テ黃興ト会見シ直接事情ヲ確メテハ如何ト云ヒシヲ以テ小官ハ横合ヨリソハ以テノ外ナリ此際個人ノ資格トカ艦長ノ身分トカ区別サルヘキニ非ス萬一不幸ニシテ後日此事外

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三三一

三八二

間ニ露顕スルコトアランカ非常ナル累ヲ惹起スヘシ此際艦長カ黄興ト会見サル、ハ断シテ不可ナリト思考スト云ヒシニ艦長モ之ニ同意シ先方ノ事情ヲ取調フルハニ秋元少佐ニ任スルコトセリ是ニ於テ秋元少佐ハ竜田艦長ニ向ヒ今一度黄興ニ面会シタル上ニテ其結果ヲ報告シタキニ付自分ノ旅館迄來ランコトヲ請求シ此上小官ノ立会協議ヲ好マサルノ態度アリシヲ以テ小官ハ事外交上ニ影響スルモノハ可成小官ニモ相談サル、方然ルヘキ旨ヲ説示シテ其反省ヲ促シ是ニテ小官等三人ノ相談ハ一先ツ一段落ヲ告ケタリ
同日夜十時頃竜田艦長ハ秋元少佐ノ旅館ヨリ軍艦ベノ帰途当館ニ立寄リ過刻秋元少佐カ言ヒシ通リニテ黄興ノ危険ハ非常ニ切迫シ居ルモノト認メラル、ニ付之ヲ保護スルコトニ相談決定シタリ今夜十二時前後軍艦ニ乗込ム管ナリ然シ本艦ハ当地居留民保護ノ任ニ在ルヲ以テ擅ニ此地ヲ去ルコト不可能ナルニ付司令官ノ命令アル迄黄興ハ當分艦内ニ潛伏セシムル外ナシト語リ直ニ帰艦セリ（後ニ間接ニ聞ク所ニ拠レハ同夜ハ旅館ニテ竜田艦長、秋元海軍少佐、野中伊集院兩陸軍大尉ハ旅團長王孝績等ト會議シタル由）小官ハ危險切迫云々カ如何ニモ信シ難キニ付一面前述ノ趣往電第

遂ニ這回ノ如キ拳ニ出テタルモノナリト云ヘリ小官ハ之ヲ聴テ殆ト啞然トシテ答フル能ハサリシモ此ノ如ク速ニ且ツ平和ニ結末ヲ告クルニ至リシハ貴國ノ為又東洋ノ為至極結構ナリト答ヘ相別レタリ

斯クテ黄興ハ七月三二十九日午前一時頃參謀長黃愷元ト英ニ秋元少佐同道都督衙門（討袁軍總司令部）ヲ出テ城内鐵道ニテ下関ニ至リ波止場ニテ從者護衛全部ヲ歸ヘシ夜陰ニ乗シ無事竜田艦ニ乗込ミタリ同日午前六時半ニ至リ小官ノ友人ナル憲兵司令官茅廻封ハ黄興脱走且ツ表面ハ上海ヨリ送リ来ルヘキ軍資金二百万弗今以テ到着セス討袁軍今後ノ發展上非常ニ差支アルヲ以テ自身上海ニ赴キ本件ヲ處理スル必要アリトテ憲兵ノ護衛ヲ辞シ日本人武名附添出発シタル旨報シ來レリ當地一般ハ黄興カ七月二十八日夜汽船ニテ上海ニ赴キタリト云ヒ居レトモ如何ナル船ニテ出發セシヤハ今日迄ノ處誰モ未タ之ヲ知ラス從テ日本軍艦ニ潜ミシコトハ絶エテ之ヲ知ルモノナキ如シ此日正午頃ニ至リ小官三四支那知人ハ首領株タル黄興其他重要人物既ニ此地ヲ去リ一面多數ノ軍隊ハ最早過去数ヶ月間給与セサル為此機ニ乗シ掠奪等ノ事ナキヲ保シ難キニ付此際軍艦ヨリ陸戰隊ヲ揚ク

六七号（公使宛六九号）ヲ以テ電報シ一面直チニ第八師團長陳之驥及陳裕時ニ面会シテ事情ヲ尋ネタルニ同人等モ既ニ黄興脱走ノ事ヲ承知シ居リ其語ル所ニ拠レハ去ル二十六日程徳全カ各地ヘ発シタル江蘇独立取消ノ電報ハ當時軍界ニモ非常ニ印象ヲ与ヘ目下当地守備ノ任ニ在ル第一師第四聯隊長吳藻華及要塞聯隊ノ下級士官ノ如キ程徳全ニ内応セントスル虞アリ其他憲兵隊ノ如キモ形勢如何ニ依リ変化スルモノナレハ頗リトスルニ足ラス最モ信頼スヘキ第八師ハ精銳ノ全部前進シ此地ニ在ルハ新募ノ兵二千内外ニ過キス而シテ上海鎮江揚州方面ノ形勢亦益險惡トナリ黄興ノ危険ハ実ニ切迫シ居レリ云々即チ往電第六八号（公使宛第七〇号）ヲ以テ電報セシ通リナリ依テ小官ハ前述野村ト談話セシ通リ至急前進部隊ヲ呼戻シ一週間乃至二週間テモ出来ル丈ヶ長ク此地ヲ死守スルコト出来サルヤヲ問ヒシニ或ハ一ヶ月位ハ支フルコトヲ得ルヤモ計リ難シ然シ斯クノ如クスルニハ非常ノ困難ト又無辜ノ人民ヲ塗炭ニ苦マシムルノ覺悟ナカルヘカラス而シテ軍資彈薬ノ欠乏ハ到底持久スルコト難シ故ニ黄興ハ今日此地ニテ窮極スル所迄奮闘スルヨリモ寧ロ一日モ早ク此地ヲ去リ再挙ヲ計ル方得策ナリト信シ

當時艦長ハ嵯峨艦カ蕉湖ヨリ上海ヘ病人ヲ送ル為急行ノ途次立寄リタルヲ以テ黄興ヲ同艦ニ移シ上海ニ護送スル旨話サレシヲ以テ小官ハ軍艦ノ長江夜航ハ例外ニテ碇泊中ノ各國軍艦（英二、内一ハ旗艦米独各一）ノ注意ヲ惹ク様ノコトアリテハ面白カラサルヲ以テ今夜移乗セシメ明朝未明出帆セシメテハ如何ト云ヒタルモ嵯峨ハ急キ居ルヲ以テ其儀困難ナリトノコトナリシスクテ小官ハ午後八時帰館セシニ恰モ貴電第一〇号ヲ以テ此際帝国軍艦ニ依リ遁レシムルハ拒絶スヘシトノ訓令ニ接シタルヲ以テ小官再ヒ急速下関ニ引返シ御電訓ノ趣旨ヲ竜田艦長ニ内話セシ時ハ既ニ嵯峨ガ出発（九時）セシ後ナリシ

以上ハ黄興カ南京ヨリ逃走セシ顛末ニテ果シテ秋元少佐ノ説ノ如ク危険ガ斯迄切迫シ居リヤ否ヤ仮リニ切迫シ居リタリトスルモ帝国軍艦ニ頗ルノ外逃亡ノ道ナカリシヤ否ヤニ至リテハ頗ル疑問ナリトス而シテ当地一部軍人及紳士ノ間ニテモ黄興出奔ノ迅速ナルニハ寧ロ一驚ヲ吃シ居ル有様ナリ尚ホ黄興出奔後当城内外ハ極メテ静穏当地人民ハ頻リニ電信或ハ書面ヲ以テ程徳全応徳闕等ノ帰任ヲ請求シ居ルモ程

心等ハ黄ノ出奔ヲ疑ヒ慮ノ如キ電信ニテ黄ノ存否ヲ小官ニ問合ハセ来リ頗ル遲疑セル模様アリ是ニ於テ当地地方公会ハ昨二十九日程都督応民政長ヲ迎フル為特ニ代表者ヲ上海ニ遣ハシタル由

右御参考迄及報告候 敬具
本信写送付先 在支那公使

三三二 七月三十日 在上海有吉總領事ヨリ 牧野外務大臣宛（電報）

領事団會議ニ於テ我陸戦隊上陸要請ヲ議決シ 又黄興陳其美退去要求問題ニ付協議ノ件

第二〇一号

七月三十日領事団會議ニ於テ市會議長警察署長等出席閘北ノ現状ハ尠クトモ海軍陸戦隊百二十五名ヲ上陸セシメテ同地ノ治安ヲ計ル必要ヲ説示シ領事団ヨリ名和司令官ニ照会方ヲ希望シ更ラニ黄興陳其美兩人ニ「エキスパルション」ヲ行ヒタキ旨申込ミ退席スルヤ多クノ領事ハ閘北ニ於ケル「ミュニシバル」ノ処置ノ甚タ極端ナルヲ非難シ此ノ機会ニ乘シ同地方ヲ其ノ監督ノ下ニ置カントスル野心ナリト迄極言スルモノアリ英國総領事モ当初市會議長ガ閘北警察ノ

臣ヨリ第三艦隊司令官へ電訓ノ件

別電 七月三十一日牧野外務大臣発有吉總領事宛第六

九号

右電訓

第六八号

黄興収容ノ件ニ關シ極秘トシテ別電第六九号ノ通海軍大臣

ヨリ第二艦隊司令官ニ電訓シタルニ付右御含置ノ上海軍側ト十分氣脈ヲ通シ必要ノ場合弁明上彼是齟齬スルカ如キコト無之様御留意アリタシ尚実際ノ必要上何等弁明セラレタル場合ニハ其顛末直ニ當方ニ電報スルト共ニ北京ニ転電アリタシ

本電及別電訓令トシテ南京ヘ参考トシテ北京ニ転電アリタシ

（別電）

七月三十一日牧野外務大臣発在上海有吉總領事宛電報

海軍大臣ヨリ第三艦隊司令官宛電訓

第六九号

黄興収容ノ事実世間ニ漏洩シタル場合ニ於テ必要アリト認

ムルトキハ左ノ趣意ヲ以テ説明相成可然最モ本件説明ハ當時ノ情況如何ニモ依ルコトナレハ貴官ニ於テ実際ニ適スル

三三三 七月三十一日 在上海有吉總領事宛（電報）

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三三三

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三三四 三三五

様適宜斟酌セラレ差支ナシ

一、出来得ル限リ収容ノ事実ヲ否認スルコト

トキハ黄興ハ其一身上ノ危険ヲ脱ゼンカ為一旦竜田ニ來リテ保護ヲ依頼シタルモ當時ノ情況ハ危険急迫セルモノト認メラレサリシニ依リ帝国軍艦カ從来執リ來レル公平ノ態度ニ照シテ之ヲ拒絶シタル旨言明スルコト

三、若シ収容ノ事実既ニ世間ニ知レ渡リ前項ノ言明ヲ為

スヲ不利トスル事情アルトキハ黄興カ急迫ノ危険ヲ免ル、為身ヲ竜田ニ投シテ保護ヲ依頼シタルニ依リ

人道上ヨリ一時之ヲ保護シタルニ過ギ^(註)シテ幾干モ

ナク同人自ラ立去リタル旨言明スルコト

以上ハ外務省ト打合セ濟ニ付南京上海各領事ト常ニ聯絡ヲ保タレタク尚貴官ニ於テ説明ヲ与ヘラレタル場合ニハ其内容ヲ直ニ電報相成度

註 傍線ノ箇所ハ外務省修正

三三四 七月三十一日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黃興ハ黄愷元ト共ニ七月二十九日南京ニテ軍艦嵯峨ニ遁込ミ同艦ハ三十日当地着極メテ秘密ニ今朝出帆ノ静岡丸ニ搭乗貴地ニ向ヘリ孫文ハ突然貴地行ヲ見合セタリ黄興着後処置方日本郵船会社支店長ヨリ協議アリタル節ハ可然御取計フ請フ

第二〇三号

在香港今井總領事宛

三三五 七月三十一日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黃興香港向出帆ノ静岡丸ニ乗船模様報告ノ件

第二〇四号

貴電第六七号ニ閑シ軍艦嵯峨ハ三十日午後四時頃入港司令官ハ黄興等ヲ三十一日出帆ノ静岡丸ニ乗船セシメタキ旨打合アリ時ヲ移サス香港方面ニ赴カシムルコト可然ト思考シ同意ヲ表シ置キタル處御電訓ノ次第モアリ小官ヨリモ為念日本郵船会社支店長トモ協議成ルヘク日立タサル船室ヲ準備セシメ且軍艦小蒸氣船ニテ送リ届クルカ如キハ他日問題ノ種子トナルヘキニ付一旦静岡丸附近ノ満鉄棧橋ニ着ケ夫

レヨリ郵船小蒸氣船ニテ送ルコト可然且静岡丸ニハ英國陸軍士官アルニ付慎重ニ取計ハル、コト可然司令官ニモ懇談致置キ山本警部ヲ満鉄棧橋ニ派シ万ニ備ヘシムルコトニ

手筈シ置キタルニ拘ハラス種々ノ事情アリ右ニ運ヒ兼ネタル趣ニテ十二時頃軍艦小蒸氣船ニテ直接静岡丸ニ送付セラレ其節英國士官ハ甲板散歩中ナリシトノコトニテ棧橋ニ待受ケタル警部ハ時刻ノ移レルヨリ為念同船ニ赴キタルトキハ既ニ乗船後ナリシ由ナリ乗船後黄興ハ上海ニ上陸ヲ強望シ為ニ大分混雜ノ後漸ク同船ニ在ルコトヲ承諾セル由ナリ同船ハ今朝午前八時三十分出帆セリ尚孫文ハ突然香港行ヲ中止セリ同人ハ南京ノ陥落ヲ憤慨シ更ニ同地行ヲ企テ居ル

ヤノ説アリ今朝ノ「デーリー、ニュース」ニハ南京電報トシテ黄興ガ日本軍艦ニテ上海ニ向ヒタル形跡アル旨掲載シ居リ多少問題トナルヘシト考ヘラル尚黄興ハ香港到着後ハ同船ニテ又復当地ニ引返シタキ希望ヲ渡ラシタル由ニテ到着後ノ其辺ノ処置ニ付テハ万事今井總領事ト協議スル外無之旨郵船会社支店長ヨリ申出タルニ付同總領事ニ予メ何分ノ御訓令置ヲ請フ

公使ヘ電済

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三三六 三三七 三三八

三八六

黃興靜岡丸ニテ香港ニ向ヒ上海出発ノ件

三三八 八月一日 牧野外務大臣ヨリ
在香港今井總領事宛(電報)

三八七

三三六 八月一日 在香港今井總領事宛(電報)
黃興來日ハ努メテ避ケタキ旨電訓ノ件
第四一号
貴電第四一号ニ關シ在廣東總領事ノ電報ニ依レハ陳炯明ハ黃興孫逸仙ノ同地ニ來ルハ士氣ヲ沮喪セシムトノ理由ニ依リ当地ヨリ直ニ日本國ニ遁カスコトニ決定シ転船方本官ニ依頼シ來レリ就テハ八月三日黃興來香ト同時ニ彼ノ处分ニ対シ甚タ当惑スル次第ナルガ我政府ハ絶対ニ彼ヲ拒絶セラル、義ナルヤ八月一日中ニ返電ノ着スル様御電訓アリタシ

三八七

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三三九 三四〇

黄興ニ來日絶対不許可ヲ告クヘシト訓令ノ件

第四二号

貴電五一及五二ニ閔シ貴官ハ帝国政府ノ訓令トシテ此際同人ノ本邦ニ渡来スルコトヲ絶対ニ許サ、ル旨ヲ告ケ他ニ逃亡スル様可然取計ハルヘシ尚若シ野中大尉同人ニ附隨シ居ラハ陸軍大臣ヨリモ此趣意ニテ電訓セラル、筈

三三九 八月一日

在香港今井總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黄興ヲ本邦ニ送ラントスル廣東政府ノ依頼ニ

対スル措置ニ閔シ請訓ノ件

第五三号

廣東政府ハ今朝使ヲ本官ニ送リ黄興ヲ日本國ニ送ル為転船方ヲ依頼セルニ依リ我政府ノ意志ヲ伝ヘ且此際彼ノ來ルコトヲ拒ム陳ノ態度ハ大局ノ利害上考モノナリトノ私見ヲ述ヘタルニ実ハ黃興來ラハ陳ト意見ノ衝突アルヲ虞ルル力為ナラント想像スル旨ヲ答ヘタリ依テ在廣東總領事ニハ直ニ黃ヲ受取ル様説得方申送リタルモ其結果ハ未タ知レス然ルニ當地諸新聞ハ黃ガ確ニ靜岡丸ニテ來ルコトヲ反覆記載シ在上海總領事來電ノ如ク日本ニ赴キ又ハ上海ニ在リ拵トノ

想像説ハ一モ無之孫ノ出發ヲ急ニ見合セタルコトモ孫ヨリ電報シ一々事実ニ適中シ居ルコト愕クヘキ程ニシテ此際本官ノ態度ハ十分ニ慎重ニセサレハ今日ノ人氣ヨリ判断シテ「ボイコット」ヲ起ス虞アリト認メラル在廣東總領事モ我政府モ絶対的ニ彼及次ニ來香ノ孫ヲ拒マハ其結果ハ意外ニ大ナルヘシ黃興ガ日本國砲艦ニテ南京ヨリ遁レタルコトハ想像説以上ニ明瞭ニ記載シ居ル次第ナリ右様ノ次第ニ付往電第五二号ニ對スル電訓方及本官ノ執ルヘキ手段至急電報アリタシ

在上海總領事ニ転電セリ

註 今井來電第五二号ニ對スル第四二号回訓(前掲)ハ本電ト行違トナレリ

三四〇 八月一日

在香港今井總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黃興及孫文ノ行先ニ閔スル件

第五四号 至急

貴電第四二号ニ閔シ黃興ヲ八月五日発ノ日本郵船会社汽船ニ南丸ニテ一先新嘉坡迄遁カス考ニテ支店長ニ相談シタル卑一應本社ノ内意ヲ聽キテ確答スヘキ旨申出タリ然ルヘク本社へ御指図ヲ請フ孫ニ對シテハ在上海總領事及在福州領

事ニ電報シ当地ニ來ラスシテ他ニ遁カル、様取計方依頼シ置ケリ

給ノ可否ニ閔シ請訓ノ件

第五九号

黄興ニ面会熟談ノ上八月七日発大阪商船「シカゴ」丸ニテ台灣經由本邦ニ於テ靜岡丸ヲ待受ケ渡米ニ決セリ靜岡丸ニ

ハ永ク船内ニ留メ置キ難キ事情アルニ付キ八月四日夜「シカゴ」ニ移ス管只困難ナルハ旅券ニシテ支那人トシテハ米國領事ノ證明ヲ要スルニ付キ寧ロ本邦人トシテ本官ヨリ發給センコトヲ望メリ右希望通り取計ヒ可然ヤ至急返電アリタシ「シカゴ」丸ニテ直行渡米セサルハ種々本人ノ都合モアリ已ムヲ得ス之レニ決定シタリ尚上海ヨリ同志二三人ヲ呼ヒ神戸ニ於テ待合セ渡航ノ由當地ニテハ孫ト会談ハ四四ノ情況ニ照シ不可能ナリ大阪商船本社へハ可然御指図ヲ乞フ支店長モ多少躊躇シ居ルモ強テ承諾セシメタリ

丸ニテ台灣ニ赴キ同地ニ於テ靜岡丸ヲ待受クヘシ黃興モ同

船ニ潜ミ居レリ同氏ヲ新嘉坡若クハ米國ニ逃ケサヌ見込尚

同氏ノ件ハ確定次第電報ス

三四二 八月四日

在香港今井總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黄興ノ日本經由渡米ニ付本邦人トシテ旅券發

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三四一 三四二 三四三

貴電第五九号ニ閔シ

ベキ旨回訓ノ件

第四五号

三四三 八月四日

在香港今井總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

黄興ニ対シ本邦人トシテノ旅券發給ハ謝絶ス

三八九

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三四四 三四五

本邦人ニ非ザルモノニ対シ本邦人トシテ旅券ヲ發給スルコトヲ得ザルハ勿論ニ付希望ニ応ジ難キ旨然ルベク謝絶セラルベシ

尚孫逸仙黃興ノ香港上陸ヲ禁止ストノコトハ的確ナル根拠アル説ナルヤ若シ然ラバ何等法令ノ明文ニ基ク次第ナルヤ参考ノ為承知シタキニ付回電アレ

三四四 八月四日 在香港今井總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

黃興三井物産会社ノ石炭船第四雲海丸ニテ香

港出発門司ニ向ヒタル旨報告ノ件

第六二号

警察船内搜索ヲ始メントセシニ依リ一時間猶予セシメ急ニ

黃興ヲ雲海丸ニ移シ八月四日午後三時三十分無事ニ出帆セシメタリ幾多ノ困難ニ際シ苦心一方ナラサリシ郵船支店長船長及三井支店長代理ニ對シ一通り政府ヨリ各本社(脱?)へ挨拶ヲ請フ尚後來ノ為ニ船長ニ内意ヲ含メ黃興出発後船内搜索ノ要求アリタルトキハ之ヲ承認スルト共ニ船長ノ言ヲ信セス警察權ヲ濫用セル政庁ハ当然其結果ヨリ来ルヘキ重大ナル責ニ任スヘキ旨宣言セシメ置タリ又黃興ノ同

三四五 八月四日 在香港今井總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

孫文黃興ノ香港上陸禁止ノ根拠ニ閲シ報告ノ

第六二号(件)

貴電第四五号ニ閲シ孫黃上陸禁止ハ千八百八十二年七月法律第一号退去法及本年六月改正ノ Deportation Ordinance ニヨル革命党ノ領袖ニ該法律ヲ適用スル政庁ノ意志ハ七月二十九日支那事務局長ノ内話ニヨリ承知セリ静岡丸ニ對シ警察カ警戒セシハ黃興ニ該法適用ヲ申渡ス為メナリト新聞

行者黃愷元ハ最初当地ニ上陸ノ予定ナリシモ彼ノ人物ハ意外ニ信頼シ難キヲ探知シ秘密ノ洩ル、ヲ防ク為張繼ニ内意ヲ伝ヘ強イテ本邦迄同行セシメタリ孫乗船撫順丸ハ八月五日朝基隆着ノ予定ナルニ付大阪商船ノ暗号ニテ台灣總督府迄秘密ニ報告シ政府ノ電訓アル迄絶対ニ彼ノ行動ヲ秘密ニ附セラレタキ旨依頼シ置ケリ又岑春煊ハ急ニ模様替ニテ昨夜当地ニ着カサリン不日日本國ニ行ク予定ノ由

在支公使ヘ転電シ且黃興出発ハ漢口南京上海廣東ニ転電セリ

ハ報道シ居レリ又黃興カ南京ヨリ我砲艦ニテ送ラレ上海ニ於テ我カ海軍ノ汽船ニヨリ保護セラレタル等ノコトナク單ニ公然普通乗客トシテ渡航セハ政庁ノ為ス假ニ一任シ本官ハ電訓ヲ伝フルニ止マリ何等心配スル必要ナカリシ次第ナリ

註 今井總領事ノ電信番号第六二号ハ重複

三四六 八月四日 在福州土谷副領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

張繼等ヨリノ勸告ヲ孫文ニ伝ヘ孫ハ撫順丸ニ

第二四号

今井宛

貴電ノ趣ニ遵ヒ昨日ヨリ館員ヲ独逸船碇泊所ノ馬尾ニ派遣シ御申越ノ次第ラ孫逸仙ニ伝ヘタルニ彼ノ目的ハ廣東ニ赴クニアリテ同地ノ形勢不可ナルヲ告ゲタルモ容易ニ信ゼズ再三勧誘ノ結果遂ニ今四日午前十時出帆ノ撫順丸ニ乗換ヘ

基隆ニ赴クコトニ決シタリ一行中ニハ胡漢民アリ孫ハ廣東方面ニ赴ク能ハザレバ神戸「オリエンタル、ホテル」ニ居ル友人宋嘉樹ヲ尋ね行クベシト語レリ尚同人出発後貴電ノ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三四六 三四七

三九〇

「大臣自ラ本電文ノ写ヲ八月五日閣議ニ持參閣僚ト協議ノ上決定セリ」

三九一

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三四八 三四九 三五〇

註 本電冒頭ニ援用セル今井總領事八月三日発電報第五八号

末段大体左ノ通

岑春煊ハ最早ヤ廣東ニ於ケル用事ナク此上ハ上海ヲ經由

セス直ニ日本國ヘ行ク予定ノ由ニテ同人入國ニ対スル帝

国政府ノ意志ヲ聞出タリ右ニ付キ何分ノ儀電報アリタシ

三四八 八月五日

牧野外務大臣ヨリ
佐久間台灣總督宛(電報)

福州発撫順丸ニテ基隆ニ向ヒタル孫文ニ對シ

本邦以外他ノ方面ニ赴ク様勧告方ニ關スル件

孫逸仙ハ四日福州発撫順丸ニテ基隆ニ向ヒタル趣ノ處帝国

政府ハ内外ノ事情ニ鑑ミ今回ノ支那騒乱ニ關係アル領袖連
ノ本邦ニ渡來スルヲ防グヲ得策ナリト認メ其方針ヲ執リ來
レルニ付右御含ノ上相當ノ方法ニ依リ孫ニ対シ結局本邦以
外他ノ方面ニ赴ク様勧告ヲ与ヘラレタシ

三四九 八月五日

在香港今井總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

岑春煊ノ渡日ヲ防グ帝国政府ノ意向ヲ澳門ニ
人ヲ派シ同人ニ伝フル予定ノ件

第六七号

馬君武ハ張繼ト共ニ「マンチユリヤ」号ニテ八月五日上海

三九二

ニ向ヒ又許崇智モ同船長崎迄ノ一等切符ヲ買ヒ乗込ミタル
由以上ノ事実ハ同人等出發後聞込タリ又岑春煊トハ嫌疑ヲ
避クル為此際本官ハ面会セサルヲ得策ト認メ貴電第四六号

ノ趣ハ明朝澳門ニ特使ヲ派シテ書面ヲ以テ同人ニ伝フル筈

ナリ

三五〇 八月五日

内田台灣總督民政長官ヨリ
岡内務省警保局長宛(電報)

孫文撫順丸ニテ基隆ヘ入港シ信濃丸ニテ神戸

ニ向イタル旨通報ノ件

孫逸仙ハ「オウコウケン」ト変名及ヒ胡漢民ハ「テウリミ
ン」ト変名外從者二名ハ今朝撫順丸ニテ福州ヨリ基隆ヘ入
港孫及ヒ從者ハ午後四時同港出帆ノ信濃丸ニテ神戸ニ向ヘ
リ尚福州領事ヨリノ電報ニヨレハ黃興ハ昨夜香港出發門司
ニ直行セシ由ニテ孫ヲ神戸ニ待チ受ケ来ル二十一日同地發
渡米ノ管ナリト又胡漢民ハ基隆ニ滯在來ル十日淡水出帆ノ
便船ニテ香港ニ向フ管該一行ハ其ノ行動ヲ極秘シ居リ孫及
ヒ福州領事ヨリハ新聞ニ掲載セシメサル様申出ノ次第モア
リ可然御取計ヲ願フ

福岡兵庫兩県ヘ通報済

我官憲ノ關係セル各種ノ情報ガ知レ居ル旨ヲ述ヘ本官ノ措

置一步ヲ誤チナハ意外ノ大事起ルノ虞アリ至急電訓アリタ
キ旨重テ政府ヘ発電シタルニ同日午後四時八月一日發往電

ニ対スル返電アリ黃興ヲ絶対的ニ拒絶スルトノコトナルニ
付最早此上ハ黃興ヲ秘密ニ他ニ逃亡セシムル一法アルノミ

彼ノ乘船ノ事実顯ハルレハ上海ニ於ケル我官憲ノ関与ヲ証
明スルコト、ナリ由々敷大事ト認メタルニ付八月一日午後

五時政府ヘ発電シ八月五日卑南丸ニテ新嘉坡ヘ遁レシムル
考ノ旨述ヘタルニ八月三日午後五時三十分返電アリ黃興ト

當日來香ノ予定ナル孫トノ會談ヲ便ニスル為卑南丸出帆ヲ
延期セシムル様返電アリ然ルニ八月三日靜岡丸着ノ情態ハ

貴官ニ転電シタル大臣往電第五六号ノ通ニテ且大臣來電ノ
如ク當地ニ於テ孫黃ノ會談等ハ思ヒモ寄ラス三日午後十一

時本官黃興ニ面会熟議ヲ遂ケタルモ彼ハ新嘉坡ヘ行クヲ欲
セス且同地迄我船ニ載スルハ秘密ノ漏ル、虞アルニ付八月

七日発「シカゴ」丸ニテ渡米セシムルコトニ決定シ其旨八
月四日前霧時三十分大臣ヘ発電シタルニ八月五日朝ヨリ

英國官憲ノ警戒一層嚴重トナリ到底八月七日迄船内ニ留メ
難ク左レハトテ「シカゴ」丸ニハ匿スヘキノ室ノ設備ナク

返電アリ之ト同時ニ帝國政府ガ彼ノ入國ヲ避ケタキ旨電報
アリタルニ付同夜九時政府ハ彼ヲ絶対的ニ拒絶セラル、ノ
ルニ付日本國ニ遁レサス(脱)陳ヨリ密使ヲ発スル筈トノ
趣意ナルヤ問合セ八月二日午後三時三十分黃興ノ逃亡ニハ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三五二

三九三

出帆迄彼ヲ留メ置ク場所ニ窮シ咄嗟ノ間ニ万已ムヲ得ス臨機ノ处分ヲ執リ八月四日午後三時急ニ三井石炭船ニ乗セ直ニ出帆神戸ヨリ渡米ニ取計ヒ同日午後三時三十分大臣ニ発電シタリ上海ニ於テ日本国海軍小蒸氣ガ彼ヲ保護セル事實ナク將又右事実ヲ乗込ノ英國士官ガ知リ居ラスシテ公然普通乗客トシテ渡航セハ本官ハ彼ニ政府ノ電訓ヲ通告スルニ止マリ何等苦心ヲ要セサリシモ右ノ事実アル以上ハ飽迄秘密ニ葬ムルノ外ナク且時間切迫非常ノ苦心ヲ以テ咄嗟ノ処分ヲ執レル次第ナリ尚御参考迄大臣往電第六八号転電シタリ孫ニ付テハ本官ハ入國拒絶ノ電信八月一日午後迄ハ大臣ヨリ接手セサリシモ在上海總領事ヨリ八月二日正午入電彼モ同様入國拒絶ノ旨承知シタルニ付同日午後上海福州へ發電孫ノ廣東行ノコトハ不可能又当地上陸モ禁止サレ居リ又帝国ヘハ入國ヲ拒ムヘキニ付途中ヨリ何レニカ遁カルハ様勸告スル様依頼シ更ニ八月四日ニ至リ黃興「シカゴ」丸ニテ渡米ニ付台灣ヨリ共ニ渡米スル様勸告方ヲ在福州領事ニ午後十二時三十分黃興ノ伝言トシテ伝ヘタルニ黃興ノ航路前陳ノ通咄嗟ノ間ニ変更シタルニ付同日午後三時右ノ趣福州へ再電シタルニ之ト行違ニ孫ハ同日午前十時台灣へ渡航

シタル由福州來電ニ接シタル始末ハ大臣往電第八二号ノ通ナリ前記本官ノ措置ハ總テ上海ニ於ケル帝国海軍武官ノ行動ヲ絶対的ニ保護スルノ微意ニ出ソ支那ニ在ル帝国文武官ガ個々ノ行動ニ出ツルハ（不明）セラル、所ナルモ外國ニ對スル關係ヨリ見レハ齊シク政府ノ行為ト邪推セラルヘク此際絶対的ニ秘密ニ附スルハ自己ノ頭上ニ懸ル重大ナル責務ト確信ス大臣ヘノ請訓ハ時々怠ラサルモ最後ニ至リ咄嗟ノ処分ヲ執ルノ已ムヲ得ザル次第ハ右ニテ御了承アリタシ本電信参考ノ為大臣ヘ転電シタリ

註 今井總領事八月六日發大臣宛第七一號電報ヲ以テ左ノ如ク訂正セリ
「場所ニ窮シ」ノ下ニ「（歐州行日本船ハ八月十三日迄待ツ必要アリ）」ヲ加フ

三五二 八月六日 在香港今井總領事ヨリ
東洋汽船会社ニ對シ岑春煊ニ日本行切符ノ發

賣ヲ禁止シタル件

第七二号

往電第六七号末段ノ通り八月六日朝特使ヲ澳門ニ遣ハシタルト行違ニ岑春煊ハ同地ヨリ来香直チニ地洋丸ニ乗込ミタ

ル由ヲ聞キ東洋汽船会社ニ内命シ本邦行切符ヲ売ルコトヲ禁止シタルガ之ト同時ニ岑ノ従者二名本官ニ面會シタキ旨支店長ニ申込ミタルニ付官舎ニ引見シ政府ノ趣旨ヲ岑ニ伝ヘシメタルニ彼等ハ岑ハ多分卑南ニアル友人ヲ頗リ行クベシト語リ最近便船迄日本宿ノ周旋ヲ求メタルモ本官ハ相互ノ利益ノ為之ヲ断ハリ且シ岑トノ面会モ拒絶シ置ケリ尤モ岑ハ上海行ノ考モアリテ未ダ決定シ居ラザル由然ルニ右從者二名來訪中各種支那人ガ本官々舎ニ注意シツ、アルヲ知リ面会ヲ極メテ短時間ニ切り上ゲシモ尚一層公衆ノ疑ヲ解ク為ニ近來最モ袁世凱ヲ詔歌シ居ル華字日報ノ勢力ヲ利用シ明朝ノ發刊ニ岑ノ日本行切符ハ或官憲ノ注意ニ依リ会社ヨリ發売ヲ見合セタル旨ヲ記載セシメ更ニ支那人事務直接主任タル支那事務局長ト親交アルヲ利用シ政府ノ命ナキモ本官一己ノ考ニテ岑ノ日本行切符發売ヲ見合セシメタル旨ヲ話シ置ケリ右末段ノ措置差支ナキヤ何分ノ御電訓アリタシ

在支公使ヘ転電セリ

三五三 八月七日 在中国山座公使ヨリ

牧野外務大臣宛（電報）

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三五三 三四四

三五四 八月七日 南福岡

孫文、黃興ガ福岡県ニ亡命シ來ルベキ旨ノ聞
牧野外務大臣宛

込及両人ノ動靜ニ付秘密保持ニ関スル件

三九五

(八月九日接受)

高秘第二七三〇号

大正二年八月七日

福岡県知事 南 弘(印)

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

以上

密ニ取計可申候

申報先(内外相)

支那南北動乱ニ付管下在住革命事件要視察人ノ動静視察中ニ有之候處本月四日遠賀郡若松町在住玄洋社員阿部淹次郎

出福九州日報社長大原義剛及玄洋社長進藤喜平太等ト密議スル處アリ聞ク処ニ依レハ彼等一派ノ人士ハ不日孫逸仙黃

興兩人ハ日本ニ亡命シ暫時安川敬一郎方ニ滯在時機ノ到来ヲ待ツ筈ニテ孫ハ四日台北発信濃丸ニテ來県黃興ハ香港ヨ

リ來県スル筈ナル旨知人ニ談シタル事実発見内偵中台灣總督府ヨリ來電ニ接シ右談話ハ事実ナルモノ、如ク認メラル、ヲ以テ果シテ安川敬一郎方ニ滯在スルモノナルヤ否ハ判明セサルモ尚注意中ニ有之孫黃一行ノ動靜ハ極メテ秘密ニスペキ旨外相訓電ノ次第モ有之無論當局ヨリ漏泄スベキ様ノ義ハ無之候得共本県ハ一行ノ知人多ク殊ニ大原等ガ兩人ノ來邦ヲ知リ居ル狀況ヨリ察スレハ在支那ノ浪人組ヨリ通報シ來リ居ルモノニハ無之哉トモ認メラレ殊ニ本日ノ各新聞ニハ台北電報トシテ孫ハ信濃丸ニテ日本ニ來ル旨ノ記事

掲載アル等今更新聞社ニ対シ記事掲載方注意スルモ効果ア

ル間敷認メラレ候然レトモ出来得ベキ限リノ方法ニ於テ秘

三五五 八月八日 牧野外務大臣(ヨリ)
服部兵庫県知事宛(電報)

孫文黃興神戸着ニ当リ両人ノ日本居住ヲ希望
セザル帝国政府ノ立場ヲ口頭ニテ説示方訓令ノ件

政府ハ今回ノ支那騷乱ニ關係セル領袖連ノ此際本邦ニ遁レテ在住スルコトハ内外諸般ノ關係上帝國ノ為得策ナラズト認メ右ノ方針ヲ以テ處スルコトニ致居レルニ付孫逸仙貴地着ノ上ハ同人ガ他ト接触シテ種々惑フ生ゼザル前貴官ヨリ適當ノ方法ヲ以テ政府ノ意図ナリトシテ口頭ニテ左ノ趣旨ヲ懇切ニ説示シ孫ヲシテ我立場ヲ充分ニ諒解シ快ク予定通り米國ニ出發ヲ実行スルコトニ決意セシメ此決意ヲ動カサシメザル様確メ置クコトニ御配慮相成リタシ

『孫逸仙等現在ノ境遇ニ對シテハ深ク同情ヲ表スル所ニ

シテ其渡米ノ途次船待ノ為本邦ヘ滞在中ハ我官憲ニ於テ

固ヨリ身辺ノ保護ニ尽力スベキニ付安心セラレタシ此際

米國ヘ渡航スルコトハ至極時宜ニ適ヘルモノニシテ孫逸

仙等ガ本邦ニ居住スルトキハ支那人及本邦人必ズ關係ヲ

結ビ何等カ支那ノ政局ニ對スル計画謀略ヲ籌ラシ仮令孫逸仙等ガ之ヲ避ケントスルモ到底避クル克ハザルニ至ル

ハ今ヨリ明カニシテ結局政府ハ国内ノ安寧秩序及東洋平和ノ為之ニ干渉シ已ムヲ得ズ高圧手段ヲ執ラザルベカラザルニ至ルベキヲ以テ帝國ノ都合ヨリ論ズルモ孫逸仙等ノ利害ヨリ見ルモ此際本邦ニ居住スルハ得策ニ非ズ仍テ孫逸仙等ニ於テ善ク此趣意ヲ解シ帝國政府ノ立場ヲ諒シ此際ハ予定通り必ズ米國ヘ渡航シ決シテ他ノ人言ニ耳ヲ仮サヅルコトヲ期待ス』

尚黃興着ノ上ハ同様ノ趣旨ヲ孫逸仙ヨリ伝ヘシムルノ外貴官ヨリモ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ説示シ孫ト共ニ予定通り渡

米ヲ決行スルコトニ御配慮アリタシ又本件ヲ孫逸仙及黃興ニ説示スルニ付テハ貴官ニ於テ例ヘ

ハ孫ト面識アル松方幸次郎氏ノ如キヲ利用セラル、ヲ適當ト認メラル、ニ於テハ右様取計ハレ差支ナシ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三五六 三五七

二五七 八月九日 牧野外務大臣(ヨリ)
服部兵庫県知事宛(電報)

孫文信濃丸ニテ神戸ニ著港セルニ付夜中窃ニ

上陸セシムル予定ノ件

三九七

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三五八 三五九

三九八
(八月十一日接受)

高秘第五一六〇号
大正二年八月九日

山口県知事 馬 潤 金太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

孫逸仙ハ從者二名ヲ伴ヒ本日午前七時信濃丸ニテ無事著港セリ之ヨリ先キ和田岬検疫所沖合ヘ神戸市内海運業者三上豊夷ヲ先着セシメ本人ノ意図ヲ確カメタルニ一切新聞記者及支那人等ニ面会スルコトヲ欲セザル旨ナルヲ以テ一時船長室ニ潜伏スルコトヲ快諾セシメ多衆往訪者ニハ既ニ検疫済ノ上何レカニ短艇ニテ上陸シタリト装ヒ引揚ケシメタリ同人身辺ハ厳重警戒シ居レリ而シテ三上ハ本夜窃ニ同人ヲ伴ヒ上陸ノ予定其上ニテ御電訓ノ順序ニ依ル計画中

三五八 八月九日

馬潤山口県知事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

孫文ノ神戸上陸取計済且可成速ニ渡米スル様

勧誘ノ手配中ノ旨報告ノ件

孫逸仙ハ午後九時三上同伴神戸市内諏訪山温泉境内常盤華壇ニ上ゲタリ本朝來ノ計画ハ松方幸次郎氏トモ相談ノ上取計ヒタリ又可成速ク渡米スルノ得策ナルコトヲ松方三上ヨリ勧誘スル手筈ナリ

三五九 八月九日

馬潤山口県知事ヨリ
牧野外務大臣宛

黄興門司入港下関市ニ上陸約一週間滯在ノ件

不取敢電報及報告置候黄興ハ本日午前一時^(註)運開丸ニテ六連島ニ来リ未明ヨリ検疫ヲ了ヘ三井物産会社門司支店ノ小蒸汽船ニ搭乗シテ下関市小門ニ上陸觀瀬閣ニ入レリ本人ハ約壹週間滯在ノ都合ニ有之候處觀瀬閣ハ避暑客ノ出入多ク衆目ヲ避クルニ便ナラサルヨリ同人ニ対シ種々斡旋ノ勞ヲ執レル三井物産会社門司支店ニ於テハ別府若クハ福岡県行橋ニ滯在セシメントシ其意ヲ通シタルニ本人ハ依然下関ニ滞在ヲ希望スルヲ以テ同地ニ適當ナル場所詮索方下関水上警察署ニ交渉シ來リ然レトモ素ヨリ公然直接之カ斡旋ヲ為スハ穩当ヲ欠クノ嫌ヒアルヨリ專ラ好意的援助ヲ与ヘシムルコトトシ万事同支店ニ於テ交渉ヲ重ネ下関市外浜町ニ建設セル同市呉服店天野亀次郎ノ別荘ヲ借受ケ本日午後一時同所ニ転宿シタリ

本件ニ付テハ終始秘密ヲ厳守シ門司支店ニ對シテモ亦充分警告スル処アリ目下ノ處更ニ他ニ漏洩セシ模様無之尚本人

身辺ニ對シテハ隱密ノ間ニ万ノ異変ナキ様嚴重警戒中ニ有之候右及報告候也

追テ三井物産門司支店ニ於テハ本人(店?)ノ命ニ依リ先ツ現金壹万円ヲ交付シ而シテ新調ノ日本服、帽子、眼鏡等準備シタル趣ニ有之候条申添候

註 「運開丸」ハ前出在香港今井總領事ノ電報ニ謂フ「雲海丸」ナリ

三六〇 八月十日

馬潤山口県知事ヨリ
牧野外務大臣宛

孫文神戸上陸ニ付可成速ニ渡米スル様勧誘ノ件

手配中ナル旨報告ノ件

兵発秘第二八九号
(八月十二日接受)

大正二年八月十日

兵庫県知事 服部 一三(印)

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

孫逸仙ハ昨日午前七時入港ノ汽船信濃丸ニテ着神セリ其状況ノ大略ハ不取敢電報致置候處詳細左ノ通りニ有之候本件ニ付テハ川崎造船所社長松方幸次郎トモ協議ヲ遂ゲ尚

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三六〇

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三六一

四〇〇

事ニ付キ多ク新聞ニ掲載セサル意向ニ有之候而シテ孫ハ已ノ所在等ハ出来ル限り之ヲ秘密ニセン事ヲ望ミ居ルヲ以テ予定ノ行動ニ依リ同日午後九時密カニ松方幸次郎、三上豊夷等同伴上陸市内諷訪山温泉境内常盤花壇別荘ニ止宿セリ而シテ同人ニ対シテハ時ヲ計リ松方、三上ヨリ可成早ク渡米ノ得策ナル事ヲ勧誘スル手筈ニ有之孫ハ上陸スルヤ「オリエンタルホテル」滯在中ノ宋嘉樹ヲ呼ビタルニ午後十一時頃來訪約二時間余密談ヲ為シ午前一時頃辭去シタリ萱野等ハ孫ガ長ク日本ニ滯在スルハ日本政府ノ好マサルヲ知リ居ル模様ナルモ同人等ハ是非孫ヲ日本ノ或場所ニ密力ニ引止メタキ考ヲ有セルヤノ趣ニ有之尚ホ孫ハ在留支那人ニ面会スル事ヲ絶対ニ恐レ居ル模様アリ

右及申報候也

三六一 八月十一日 牧野外務大臣ヨリ
在中國山座公使宛(電報)
孫文黃興ノ本邦居住ヲ防グ為措置中ノ旨通報

ノ件

第三九〇号 政府ハ今回ノ支那騒乱ニ関係セル南方領袖連ガ此際本邦ニ

尚且下孫黃兩人共其消息ヲ秘密ニセンコトヲ欲シ地方官憲モ其方針ニテ取計ヒ居レル処新聞記者等消息ヲ突留メンガ為メ彼此レ風聞世説囂シク從テ色々ノ報道伝ハル次第ナリ右含迄ニ上海ヲ經テ漢口、南京、廣東、香港ニ転電アレ

三六二 八月十二日 南福岡県知事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

胡漢民アメリカ丸ニテ門司入港、下関上陸、

即日神戸ニ向フ旨報告ノ件

胡漢民外二名ハ今朝七時「アメリカ」丸ニテ無事門司入港多數ノ新聞記者押掛ケタルモ一切面会セス下ノ関上陸大吉

樓ニ入ル本夜六時神戸ニ向フ筈

三六三 八月十四日 在中國山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

伊集院公使帰朝ノ上ハ孫文黃興ヲ日本領土ヨ

リ退去セシムル様我政府當局者ニ伝言アリタ

キ旨袁世凱申越ノ件

第六三八号

伊集院公使八月十五日出發帰朝ニ決シタルニ付本使ハ坂西ヲシテ袁世凱ニ対シ何カ帝國政府ニ伝フヘキ「メツセー

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三六二 三六三

来住スルコトハ内外諸般ノ關係上我利益ニ非ズト認メ其方針ヲ以テ各地領事ニ電訓シ彼等ノ来住ハ我好マザル所ナル旨明確ニ伝ヘシムルコトニ取計ヒ置キタル処黃興ハ別ニ本邦ニ向ヘル孫逸仙ト共ニ渡米ノ意思ニテ孫ハ九日神戸ニ上陸黄ハ八日下関ニ上陸セリ政府ハ彼等ガ船待ノ間本邦滯在中ハ固ヨリ其一身ノ安全ニ対シ相當ノ保護ヲ与フベキモ此際彼等ガ本邦ニ居住スルコトハ我都合及彼等ノ利害何レヨリ見ルモ好マシカラザルニ付人言ニ耳ヲ籍サズ渡米ヲ決行スルノ得策ナルコトヲ地方官憲ラシテ適當ノ方法ニ依リ勧告慤懼セシメ彼等ラシテ我立場ヲ諒シ此際快ク本邦ヲ去ラシメンコトヲ圖リツツアリ地方官ハ目下此訓令ノ下ニ尽力中ニテ其結果未タ明カナラス若シ彼等ニ於テ勧告ヲ容レサル場合ニ強力ヲ以テ追放スルハ得策ニ非ザルヲ以テ或ハ万一本邦ニ留マルコトトナルヤモ图リ難ク其場合ニハ本邦ヲ以テ隣国動乱ノ策源地ト為サシメザル様嚴重取締ノ下ニ彼等一身ノ安全ニ対シ相當保護ヲ与フルハ已ムヲ得ザル所ニシテ斯ルコト相成ラバ黃興ノ一身ニハ予テ十万元ノ懸賞ノ附セラレ居ル關係モアリ旁北京政府へ何等カ話合ノ必要モアルベキニ付御含置アリタシ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三六九

四〇四

自分ハ本国ニ於テ大演劇ヲ試ミタルモ空シク失敗ニ終リタリ暫ク身ヲ安全ノ位置ニ置キ本国ノ情勢ヲ観望スペシ而シテ若シ風雲ノ乘ズベキ余地アラバ素志ヲ貫カソコトニ全力

ヲ尽スベキ決心ナルモ今日ノ処俄カニ其ノ望ミナキガ如シ故ニ当分亞米利加ニ逃レントス米国行旅券ハ上海香港等ニ

於テ之ヲ得ントセシモ容易ニ目的ヲ達シ難シ幸ヒ近來東京ニ赴任シタル本国公使ハ同情ヲ寄セ居レルニ付同公使ニ頼

ミ公使ヨリ日本外務省及ヒ在留米國大使ニ協議ヲ遂グ承諾

ヲ得バ今回ノ^(往)旅行券ヲ得北米ニ行ク予定ニテ近日其ノ結果判明スル筈ニ付之ヲ待チ居レリ我等ハ日本ニ来リ官憲ノ厚

キ保護ト諸氏ノ同情トニヨリ無事ナルヲ得実ニ感謝ニ堪ヘザル處ナリ余ガ從者ハ余ガ米國ニ向ケ出発セバ直チニ本国ニ帰ラシメ本国トノ氣脈ヲ通ゼシムル筈ニテ其ノ任務中々容易ナラスト思フ

註1 黃興ノ滯在地ハ山口具農浦郡長府町

2 「今回ノ旅行券」ハ八月十六日山口県知事発原内務大臣宛^(電報)

臣宛殆ト同文ノ電報ニ於テ「変名ノ旅行券」トナリ居レリ

三六九 八月十七日 在漢口芳沢總領事牧野外務大臣宛(電報)

(別電一)

八月十七日在漢口芳沢總領事發牧野外務大臣宛電報

南陽丸乗込ノ譚人鳳蔣翊武周震麟等取押ニ付

支那官憲ヨリ在九江八木書記生ニ申出アリタ

ル件

第二七三号

別電八木書記生來電

段芝貴ハ八月十六日午前六時秘書官及副官ヲ本官方ニ遣シ一時間後当地ニ入港スベキ南陽丸ニ譚人鳳(前川漢鉄道督弁)蔣翊武(武昌師團長)周震麟其他多數ノ人乗込ミ居ルニ付取押方黎副總統ノ電命ヲ受ケ船中ニ立入り拘留シタキ由ヲ以テ小官ノ承認ヲ求メタリ因テ小官ハ之ヲ拒絶シ本官自ラ捜索ヲ行ヒ彼等ノ立会ヲ許シ若シ電報ノ人物居ルトキハ一応本官ニ於テ預ルコトニ取極メ直ニ南陽丸ニ至リ取調ノ済ムマデ当地ニ留ランコトヲ求メ一応身柄ヲ本官ニ於テ

ペタル處譚人鳳、蔣翊武等ハ乗船シ居ラズ周震麟ハ公然乗船シ居リ本人ナルコトヲ答ヘタルニ依リ事情ヲ説得シ取調ノ済ムマデ当地ニ留ランコトヲ求メ一応身柄ヲ本官ニ於テ

引取り家屋及保護ノ都合上軍艦嵯峨ニ依頼シテ同艦ニ收容セリ

支那官憲ヨリ湖南獨立ノ首謀者譚人鳳等ヲ取押方依頼アリタル件

別電一 八月十七日芳沢總領事發牧野外務大臣宛第二

七三号

南陽丸乗込ノ譚人鳳蔣翊武周震麟等取押ニ付支那官憲ヨリ在九江八木書記生ニ申出アリタ

七四号

南陽丸乗込ノ周震麟捕縛ノ黎元洪電命取消勸告方ニ閑スル在九江八木書記生來電

第二七五号

八月十五日夜支那官憲ヨリ湖南獨立ノ首謀者タル譚人鳳其他數名ニ於テ同夜下江ノ筈ナル南陽丸ニ乗込マントスル趣ヲ以テ取押方依頼シ來リタルモ既ニ出帆時刻ヲ経過シタルニ付其趣ヲ返答シ置キタルニ右ニ付別電第二七三号及第二七四号ノ通リ八木ヨリ電報シ來リタルニ付當方ニ於テ一応取調ヘタル上支那側ニ引渡スヘキヤ否ヤ決定スル所存ニテ八木ニ対シ巡查一名ヲ附シ當地ニ護送方電訓シタリ尚譚人鳳ノ外一二名ノ者一両日中ニ當地ニ到着スル筈ノ趣ニ付是亦取押ヘ同様ノ措置ニ出ル所存ナリ

北京へ転電シタリ

(別電二)

八月十七日在漢口芳沢總領事發牧野外務大臣宛電報

南陽丸乗込ノ周震麟捕縛ノ黎元洪電命取消勸告方ニ閑スル在九江八木書記生來電

第二七四号

別電 八木來電

周震麟ハ長沙ノ人国民党ニ屬シ參議院議員ナリ今回ハ上海ヲ經テ北京ニ赴カントスル途中ニシテ同人ハ戦争ニハ反対シ湖南主戰派ヲ宥ムルコトニ尽力セルモノナル由ナリ段芝貴ニハ詳細ノ事情取調ヘ方請求セリ尚貴官ヨリ黎元洪ニ對シ同人ノ罪状取調ノ上可成捕縛ノ電命取消方御勧告アリ何分ノ義理回訓アリタシ本省へハ可然御電報ヲ請フ

三七〇 八月十七日 在漢口芳沢總領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

湖南獨立ノ首謀者譚人鳳蔣翊武等逮捕方支那

官憲ノ依頼ニ付請訓ノ件

第二七六号

往電第二七五号ニ關シ譚人鳳、蔣翊武等八月十七日夜入港ノ武陵丸ニテ当地ニ到着スル筈ナリトニテ支那官憲

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三七一 三七二

四〇六

ヨリ逮捕方依頼シ来リタルニ付テハ果シテ其通りナルニ於テハ已ムヲ得ス一応當館ニ引致シ取調ヘタル上支那側ニ引渡スカ又ハ我居留地外ニ連レ行キテ放ツ積リナルカ右本官

ノ処置振リニ対シ何等承知致シ置クコト無之ヤ周震麟ノ件モ有之大至急御返電ヲ乞フ

三七二 八月十八日 牧野外務大臣ヨリ
在漢口芳沢總領事宛(電報)

孫文大阪商船襟裳丸ニテ横浜港沖ニ到リ小蒸

汽船ニテ上陸入京ノ状況報告ノ件

秘号外 (八月二十日接受)

大正二年八月十八日

神奈川県知事 大島 久満次(印)

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

譚人鳳等ハ政治犯ナルニ付支那側ヘノ引渡二
同意シ難キ旨回答方回訓ノ件

第七六号

貴電二七六号ニ閑シ

譚人鳳等ハ犯罪人トセバ所謂政治犯ト目スベキモノニシテ既ニ一旦我船舶ニ遁レ入りタル以上之ヲ支那側請求ノ依引渡スハ適當ナラズ就テハ政治犯ニ閑シテハ我船舶ニ遁入りタルモノヲ我手ヨリ直ニ引渡スコトハ斯ル場合ニ於ケル通義慣例ニ顧ミ乍遺憾同意スル能ハザル旨支那側ニ回答セラレ当人共ハ何レモ予定ノ目的地迄乗船ヲ続行セシメ目的地ニテ任意上陸セシメラレタン尚右様取計済ノ上ハ直ニ上海総領事へ電報アレ

ハ東京市赤坂区靈南坂二十六番地海妻氏方ニシテ夜陰ニ乗ジ自動車ニテ同家附近迄送ラレンコトヲ懇請シタリ依テ本件ノ漏洩ヲ防止スル為メ小蒸汽船ハ水上警察署所屬ノ船トシ上陸地点ハ市外ヲ遙カ隔リタル富岡トシ自動車ハ故ラニ逗子湘南自動車会社ヨリ六人乗一輛ヲ準備シ各々任務ヲ分担セシメ万遗漏ナキヲ期シタリ

当日午後五時警察部長ハ水上警察署長ヲ随ヘ(何レモ私服)東京ヨリ出迎ノ前記前川虎造美和ノ両名ト共ニ水上署所屬小蒸汽船快進丸ニ乗込ミ午後六時目的地ニ向テ出航航程約三十分間計リニシテ横浜港界ニ接スル燈明浮標ヲ約一海里ヲ過ギタル沖合ニ到リテ停船仮泊シ襟裳丸ノ入港ヲ待受ケツツアリタリ然カルニ予定時刻ヲ後ル、コト約二時間即チ九時ニ到リ遙カニ觀音崎ノ方向ニ当リ幽カニ暗中汽船ノ檣燈ト推察セラル、燈火ヲ認メタルモ當夜ハ折柄曇天ニシテ雲翳月光ヲ蔽ヒ距離遠クシテ之レヲ確認スルコト能ハズ漸次接近スルニ及ゾ全ク汽船ノ燈火ナルコトヲ認知シ得ルヲ以テ試ミニ汽笛ヲ鳴ラシテ彼ノ注意ヲ喚起シタルニ直ニ彼ヨリモ汽笛ノ応答アリ依テ其船ニ向テ進航ヲ始メ音声ノ到達シ得ベキ距離ニ到リタルトキ彼ノ船名ヲ尋問シタルニ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三七一

四〇七

正ニ其船タルコトヲ知リタルヲ以テ横浜水上署汽艇ノ出迎居ルモノナルコトヲ告ゲ彼ニ停船ヲ命ジ其右舷ニ快進丸ヲ寄セ船長ヲ船梯ニ呼出シ其案内ニテ本船ニ移乗シ上甲板ノ船首ニテ孫逸仙ニ面会シ即時孫ヲ小蒸汽船ニ移シ統テ從僕タル二名ノ支那人并ニ手荷物大形柳行李一個鞄三個及手提小鞄一個ヲ快進丸ニ移シ神戸ヨリ保護ノ為メ附隨シ来リタル神戸警察署員等ト共ニ下船セリ此時恰モ午後十時ニシテ其位置ハ燈明浮標ヲ東南ニ距ル約半哩ノ本牧沖合ナリシ夫レヨリ上陸地点タル富岡ニ進航シ富岡海岸ヲ距ル約二丁計リノ沖合ニ達シ停船予テ用意ノ櫓舟ニテ一行ヲ武回ニ陸地ニ搬送シ同所海岸ニ接シ僅カニ三四十歩計リノ金沢街道ノ路傍ニ待タセアリタル自動車ニ孫逸仙、前川、美和、神戸警察署員本県ヨリハ警察部長横浜迄同乗シ警部一名合計六名同乗シ午後十時三十分出発上京セリ上陸地点ハ人家ニ遠ク且ツ深夜往来全ク絶エ四辺二人ナキヲ以テ人目ニ触ル、コトナク頗ル適好ノ場所ナリシ

斯クテ自動車ハ途中何等故障ナク隠レ家ナル東京市赤坂区靈南坂附近ニ着シタルヲ以テ坂上ニテ降車シ徒步ニテ二十六番地海妻氏邸内ニ入レリ此時十八日午前零時四十分ナリ

シ

次ニ支那人従僕二名ハ荷物ト共ニ快進丸ニ留マリ（手提鞄

二個ノミハ自動車ニ積ミ行ク）附添人菊池良一ト合シテ三
名ノ者ハ海路横浜ニ向フコト、シ快進丸ハ十八日午前零時

十分横浜ニ帰着セリ快進丸ノ帰着シタルトキ桟橋ニテ東京
朝日新聞社当地支局ノ記者一同ニテ水上署附近ヲ徘徊偵察

シ居レルコトヲ知リタルヲ以テ菊池良一及従僕二名ノ者ハ
成ルベク目立タサル様ニ快進丸ヨリ上陸セシメ窃カニ出發

上京ノ途ニ就カシメントセシモ深夜既ニ汽車及電車ノ便杜
絶セシヲ以テ止ムヲ得ズ當地ニ一泊スルコト、ナリ因テ市

内太田町六丁目旅館讃岐屋ニ電話ヲ以テ宿泊ノコトヲ申込
ムト同時ニ讃岐屋主人ヲ呼寄セ篤ト注意ヲ与ヘ一泊ノ上翌

十八日一番列車五時三十分横浜発ニテ出発セシメ尙ホ新聞
記者等ノ追跡ナキヲ保シ難キニ依リ直ニ目的地ニ向フ事ナ

ク一時他ノ家ニ入り追跡者ノ有無ヲ確認シタル後チニ於テ
行動スベキヲ注意シ一面右ノ趣ヲ前夜ノ内ニ頭山満方ニ電
話ヲ以テ注意シ置キタリ

右及報告候也

追テ本日発行ノ東京朝日新聞并ニ二六新報紙上ニ神戸特
記事等ノ追跡ナキヲ保シ難キニ依リ直ニ目的地ニ向フ事ナ

高秘第五一七五号

大正二年八月十九日

（八月二十一日接受）

馬渕山口県知事
牧野伸頭殿

外務大臣男爵 牧野伸頭殿

山口県知事 馬 渕 錄太郎（印）

黄興ハ近ク渡米ノ意向ナル旨三井物産社員談
話ノ件

三井物産会社カ黄興ニ同情ヲ表シ之ガ斡旋ヲナシツ、アル

往

電トシテ孫逸仙和田岬ヨリK.S.船ニ便乗十七日夜横浜ニ
向ヒタル趣并ニ横浜港到着検疫停船附近ニテ水上署ノ小

汽

蒸氣船ニ移乗シ警察保護ノ下ニ市内讃岐屋旅館ニ投宿翌
早朝入京シタル意味ノ記事アリシガ如ク各新聞社ハ競フ
テ其入京ノ径路ヲ知ラント焦慮シ前記讃岐屋旅館ニ投宿

セ

セルモノハ人相ニ於テ相違セルヨリ或ハ神戸ヨリ陸路入
京シ孫配下ノモノ等ノミ襟裳丸ニテ入京セシモノナラン
カト何レモ揣摩憶説ヲ掲ケ居リシガ本日ハ朝日新聞社員
ニ於テ櫓舟ヲ雇ヒ沿岸上陸地点等ヲ探リ居ル状況ニシテ
今日迄敵ニ秘密ヲ保タレ外間ニ漏洩シ居ラズ右申添候也

セ

三井物産会社カ黄興ニ同情ヲ表シ之ガ斡旋ヲナシツ、アル

往

電トシテ孫逸仙和田岬ヨリK.S.船ニ便乗十七日夜横浜ニ
向ヒタル趣并ニ横浜港到着検疫停船附近ニテ水上署ノ小

汽

蒸氣船ニ移乗シ警察保護ノ下ニ市内讃岐屋旅館ニ投宿翌
早朝入京シタル意味ノ記事アリシガ如ク各新聞社ハ競フ
テ其入京ノ径路ヲ知ラント焦慮シ前記讃岐屋旅館ニ投宿

セ

ハ既報ノ通りニ有之候處本社ハ北京政府ノ請負ヲモ為シ居
リ事五一發覺センカ本社ノ北京政府ニ對スル信用ニモ闊ス
ルノミナラス一面帝国ノ外交上ニモ支障アルヲ慮リ同社員
河原林禪一郎ハ己人ノ責任トシテ引受ケ本社ニ累ヲ及ボサ
ザルベク当初ニ於テ既ニ辭表ヲ提出シ亡命客ノ保護ニ當リ

居ル次第ニ有之河原林ハ黃興ノ動靜ニ對シ左ノ談話ヲナセ
リ

一、河原林ノ手ヲ經テ在支那ノ同志ト交通スルノ外孫ハ勿
論何人トモ交通ヲナサス全ク単獨行動ヲ取レリ從テ寺尾
博士、佐々木安五郎、頭山満其他亡命客救護云々ノ噂ア
ル内地ノ人々トモ全然何等ノ關係ヲ有セズ

右及報告候也

追テ黃興ハ鉄路小郡ニ出デ午後七時十分下関癡特急列車
ニ乗替東上ノ考アリシモ鉄路ニ由ルハ尤危險ノ虞アルヲ
以テ河原林ニ対シ注意ヲ与ヘタル結果海上ノ却テ安全ナ
ルベキヲ察シ海路東上ノ事ニ变更セリ

三七四 八月十九日 在漢口芳沢總領事ヨリ
武陵丸臨檢ノ結果譚、蔣ハ乗船シ居ラズ陳強

等五名及九江ヨリ護送ノ周震麟ヲ大利丸ニテ

下江セシムル旨報告ノ件

第二八三号

往電第二七六号ニ閔シ武陵丸ヲ臨檢シタルニ譚人鳳蔣翊武

又面会スルヲ得ザルヲ遺憾トスルモ既ニ渡米ノ決意ヲナ
シ又渡米ノ得策ナルヲ信スルヲ以テ近ク出発セントス

トノ意味ノ返電ヲ發シ宮崎ノ勧告ニ応セザリシ

ラスト認メラレ且貴電第七六号御電訓ニ接シタルニ付右三名及同行ノ婦人二名並ニ九江ヨリ護送シ来レル周震麟都合六名明二十日出帆ノ大利丸ニテ下江セシムルコトトセリ追テ同人等乗船ノ上ハ直ニ御電訓ノ通電報方取計フヘシ
北京へ転電シタリ

三七五 八月二十日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

周震麟等ヲ大利丸ニテ下江セシメ、政治犯ノ

引渡ヲ承諾シ難キ旨黎元洪ニ伝達方特派交渉

員ニ説示ノ件

第二八五号

往電第二八三号ニ関シ周震麟外四名ハ今二十日大利丸ニテ下航出发セシメタリ(他ノ一名ハ昨十九日湖南ニ帰リタリ)本件支那人等ノ拘留ニ付テハ過日來黎元洪ヨリ切ナル要求モアリタル為免ニ角本官ニ於テ之ニ応シ一應取調ヲ為サントシタルモノナル處貴電第七六号ノ御回訓ニ接シ彼等ヲ乗船セシムルニ付テハ黎元洪ニ對シテ説明ヲ与ヘ置クヲ必要ト認メ八月二十日特派交渉員ヲ招キ御訓示ノ趣旨ヲ詳説シ乍遺憾引渡要求ニ応スル能ハサルニ付此ノ儀篤ト黎元

テハ感情ニカケラルカ如キコト之レナカラント思考スルモ相当理由ヲ附シテ帝国政府ニ交渉シ来ルヘキコト或ハ可有之ヤモ計リ難シ御含迄

北京へ転電シタリ

三七六 八月二十二日 在漢口芳沢總領事ヨリ
周震麟ノ解放ハ日清通商航海條約ノ規定ニ違

反ストノ黎元洪ノ主張ニ付本省ノ解釈問合ノ

件

第二九一号

往電第二八五号ニ關シ周震麟外四名ヲ解放スルト同時ニ其理由ヲ詳細明瞭ニ黎元洪ニ通知シ置キタル処八月二十二日黎元洪ヨリ凡ソ交渉事件ハ條約ヲ以テ根拠ト為スモノナルカ日清通商航海條約中ニ政治犯ハ之ヲ引渡ササルヲ得ヘキ旨ノ明文ナシ且周震麟ハ公金ヲ著服スルコト數百万ノ多キニ達シ現ニ中央政府ヨリ嚴重ナル命令ヲ發シテ逮捕ニ努力シツツアル者ナル旨電信ニテ照覆シ来レルニ付本官ハ不取敢右ニ対シ周震麟ヲ一時拘留セルハ匪徒ノ領袖トシテ逮捕引渡方貴方ノ要求アリタルニ基キタルモノナルカ政治上ノ

北京へ転電シタリ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三七六

洪ニ伝達方依頼シタル処特派交渉員ハ本件人物中政治犯以外ニ常事犯嫌疑者アルノミナラス國際法上ノ慣例ナルモノハ曖昧ナルモノナルガ故本件ニ付テハ普通ノ場合ト同様条約ノ趣旨ニ依リ引渡方希望スル旨申出タルニ付本官ハ常事犯嫌疑者アルコトハ始メテ承知シタル次第ナルガ貴方最初ノ要求ハ政治犯ニ基クモノト解釈セラレタルヲ以テ其趣旨ヲ以テ政府ニモ請訓シタル次第ニテ我方ニテハ手続上遺漏ナキ積ナリ政治犯ハ常事犯ト異リ從テ普通ノ場合ト同様ニ取扱ヒ難キ旨ヲ説明シタル処然ラハ貴我双方交渉中ハ彼等ノ解放ヲ見合ハサレタキ旨述ヘタルニ付是又應諾シ難キ旨説明シタル処特派交渉員ハ種々ノ議論ヲ吐キ結局詳細黎元洪ニ復命スヘク其結果或ハ日本国政府ト交渉スルコトトナルヘキモ本日ハ特派交渉員トシテ本件ニ關スル貴官ノ説ニ承服シ難キコトヲ貴官ニ告ケタルニ止ムヘシト述ヘタルニ付本来ナラハ單ニ一片ノ通告ニテ可ナルモノナルモ貴方ニ於テ誤解ナキ様特ニ好意ヲ以テ親シク詳細説明ニ及ヒタルモノナル旨答ヘ置キタリ右ノ次第ニテ黎元洪ニ對シテハ本件支那人等ノ引渡シ難キコトヲ書面ヲ以テ通告スル外特派交渉員ヲ経テ其理由ヲ詳細説明シ置キタルニ付黎元洪ニ於テ犯人ハ一旦他國ノ船舶ニ遁レタル場合ハ引渡ササルヲ以テ慣例トナスカ故之ヲ放免スルハ理ノ方ニ然ルヘキ所ナリ之等ノ事情ハ詳細既ニ之ヲ交渉員ニ説明シ置キタリ又公金着服ノコトハ周震麟等ヲ其乗船ヨリ上陸セシメタル際貴方ヨリ要求ノ理由トナリ居ラサリシ所ナリ然ルニ解放ノ間際ニ至リテ更ニ常事犯ヲ附加スルカ如キハ(脱字?)ト返電シ置キタリ查スルニ黎元洪ノ主張ハ日清通商航海條約第二十一条第一項ノ明文ニ基キタルモノニシテ議論ノ根拠確乎タルモノアリト認メラルモ本省ニ於テハ政治犯人カ他國ノ船舶ニ遁レタル場合之ヲ引渡サザル國際法上ノ慣例カ右条約ノ明文ヨリモ一層有力ナリトセラル御解釈ナリヤ將又マサルモノトノ御趣旨ナリヤ追テ更ニ黎元洪ヨリ此点ニ付照会ニ接スルコトアルヘキニ付其際ニ於ケル復答ノ参考上本官ノ疑義ニ關シ何分ノ御意見御電示相成タシ尚往電第二八五号中五人ノ内一人ハ人達ヒニテ一人ハ特ニ大總統ヨリ赦免セラレタル趣武昌政府ヨリ通知シ来リ二人ハ婦人ナルカ故結局問題ノ人物ハ周震麟一人トナリタル訳ナリ北京へ転電シタリ

三七七 八月二十二日 在中国山座公使（牧野外務大臣宛）
孫文黃興胡漢民等ニ対スル日本政府ノ措置二

関シ外交部ヨリ覚書提出ノ件

第六六六号

本国今回ノ内乱ハ孫文黃興胡漢民等ノ煽動ニ基キ之レカ為メ本國商民ノ產業ノ損失甚大ナリ長江流域ノ外國商業モ亦頗フル影響ヲ受ケ本國人民ハ該亂党ニ切歎セサルモノナシ聞ク所ニ拠レハ孫黃胡等既ニ貴國ニ赴キ留寓セル由本國ト極メテ近距離ナルニ付藉リテ根拠トナシ再ヒ擾乱ヲ計ラサルハ保シ難シ貴國ハ邦交ヲ重ンセラルニ由リ自ラ防止ノ方法ヲ講セラレンモ本國人民必ス憂慮猜疑シ誤解ヲ生センコトヲ恐ル依テ右貴國政府ヘ転達セラレ東洋平和ノ為メ正當切実ニ便法ヲ計ラレ禍乱ヲ止メ猜疑ヲ除カルレハ啻ニ本國人民ノ幸ヒノミニアラス貴答ヲ請フ

右ニ對シ回答方御電訓アリタシ
三七八 八月二十三日 在漢口芳沢總領事（牧野外務大臣宛）
國人民ノ幸ヒノミニアラス貴答ヲ請フ
方法ヲ講セラレンモ本國人民必ス憂慮猜疑シ誤解ヲ生センコトヲ恐ル依テ右貴國政府ヘ転達セラレ東洋平和ノ為メ正當切実ニ便法ヲ計ラレ禍乱ヲ止メ猜疑ヲ除カルレハ啻ニ本國人民ノ幸ヒノミニアラス貴答ヲ請フ
右ニ對シ回答方御電訓アリタシ

三七八 八月二十三日

在漢口芳沢總領事（牧野外務大臣宛）

第八〇号

至急

三七九 八月廿五日 在漢口芳沢總領事（牧野外務大臣宛）
日本政府ハ中國内亂關係者ノ亡命ニ援助ヲ與

フル意思無キ旨訓示ノ件

北京ヘ転電シタリ
方ニ関シ可成便宜ヲ与ヘ度本官ノ援助ヲモ得タキ旨申出タルニ付本官ハ右ニ対シ李等ノ逃走ハ最モ秘密ヲ要シ從テ隨行ノ本邦人等ハ可成離レシメ而シテ出来得ヘクンハ黃興ノ例ニ依リ軍艦ニ依頼スルコト可然旨ヲ述ヘタルニ軍艦ニハ只今一応相談シタルモ或ハ六ヶ敷キヤモ知レサル旨ヲ答ヘタリ李等果シテ當地ヲ通過スルニ於テハ本官ハ臨機應變可然措置スヘキニ付右御含置ヲ請フ

貴電第一九二号ニ關シ
今回ノ支那内亂ニ對スル政府ノ方針ハ予テ御承知ノ通ニテ政府ハ内亂關係者ノ亡命ヲ容易ナラシメンガ為援助ヲ与フルノ意思毫モ之ナシト雖偶々出先官憲ニ於テ訓令ヲ仰グノ暇ナク急遽取計ヒタルカ又ハ窮鳥懷ニ入リタルガ為メ我方ニ於テ亡命者ト關係ヲ生ジタル場合アルニ外ナラズ又我方ハ彼等ノ來住ヲ希望セザル義ナリ就テハ貴官ハ右御舍ノ上決シテ率等ノ逃走上援助ヲ與フルコトナク彼等ガ自ラ其方法ヲ講ズルニ委シ置カレタシ

三八〇 八月二十五日 在漢口芳沢總領事（牧野外務大臣宛）
政治犯ノ引渡拒否ト日清通商航海條約ノ規定
トノ關係ニ付回訓ノ件
第八一号

貴電第二九一号ニ關シ

條約第二十四条第二項ノ存在ハ當方ニ於テ始ヨリ考量シタ

ルガ該条文ハ一般普通ノ場合ニ付テ規定シタルモノニシテ如何ナル政治犯ト雖絶対ニ引渡スノ精神トハ解セラレズ殊ニ革命以来ノ如キ支那ノ狀態ニテ政治上ノ勝敗及敵味方ノ

李烈鈞林虎等ノ逃走方ニ關シ援助ヲ得度キ旨
中清派遣隊參謀ヨリ申出アリタル件

第二九二号（至急極秘）

三七七 八月二十二日 在中国山座公使（牧野外務大臣宛）
孫文黃興胡漢民等ニ対スル日本政府ノ措置二

関シ外交部ヨリ覺書提出ノ件

第六六六号

八月二十一日外交部ヨリ部員ヲ本館ニ遣ハシ左ノ意味ノ覺書ヲ交付シタリ

本國今回ノ内亂ハ孫文黃興胡漢民等ノ煽動ニ基キ之レカ為メ本國商民ノ產業ノ損失甚大ナリ長江流域ノ外國商業モ亦頗フル影響ヲ受ケ本國人民ハ該亂党ニ切歎セサルモノナシ聞ク所ニ拠レハ孫黃胡等既ニ貴國ニ赴キ留寓セル由本國ト極メテ近距離ナルニ付藉リテ根拠トナシ再ヒ擾乱ヲ計ラサルハ保シ難シ貴國ハ邦交ヲ重ンセラルニ由リ自ラ防止ノ

方法ヲ講セラレンモ本國人民必ス憂慮猜疑シ誤解ヲ生センコトヲ恐ル依テ右貴國政府ヘ転達セラレ東洋平和ノ為メ正當切実ニ便法ヲ計ラレ禍乱ヲ止メ猜疑ヲ除カルレハ啻ニ本國人民ノ幸ヒノミニアラス貴答ヲ請フ

右ニ對シ回答方御電訓アリタシ

三七八 八月二十三日

在漢口芳沢總領事（牧野外務大臣宛）

第八〇号

至急

三七九 八月廿五日 在漢口芳沢總領事（牧野外務大臣宛）
日本政府ハ中國内亂關係者ノ亡命ニ援助ヲ與

フル意思無キ旨訓示ノ件

區別定マリナキノ時所謂窮鳥懷ニ入リタル場合ニ之ヲ引渡セバ支那ノ常トシテ必ズ殺サル、コト眼前ニ見エ居ルニ当リ先方ノ言フガ假我手ヨリ引渡スコトハ苟モ政治犯ト目スベキ場合ニハ如何ニモ忍ビ難キ所ナリ支那ニテハ我商船ニハ支那ノ管轄權及バズ又政治犯ハ從來党派ノ如何ヲ問ハズ我船舶ニテ逃レタル例少カラサルガ所謂通義慣例トハ必ずシモ商船ニ關スル國際法上ノ慣例トイフ意味ニ非ズ政治犯ヲ酌量スル一般ノ通義慣例ヲ指スノ意ナリ就テハ先方ヨリ條約ノ規定ニ付更ニ論ジ來ラバ貴官ハ之ニ對シ條約上ノ規定ニ付テハ貴官限リ断定的ニ概言スルヲ得ザルガ其何レノ党派ニ屬スルヲ問ハズ政治犯ト看做サルルモノニシテ所謂窮鳥懷ニ入リタル場合ニハ敢テ之ヲ庇護スルニハ非ザルモ之ヲ引渡スコトハ情誼上忍ビザル所ニシテ此事ハ人情皆之ヲ諒トスペク又決シテ條約ノ精神ニ戾ルモノニ非ズト認ムル旨答ヘラレタシ

三八一 八月二十五日 在中国山座公使（牧野外務大臣宛）
孫文黃興胡漢民等ニ対スル日本政府ノ措置二

関スル外交部覺書写進達ノ件
三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八〇 三八一

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八二

四一四

附屬書 外交部ヨリ在中国山座公使宛右覺書写

亂而息猜疑固不徒本國人民之幸也并乞見復爲荷

機密第三〇九号

(九月一日接受)

大正二年八月二十五日

在支那

特命全権公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸頤殿

去ル八月廿一日外交部ヨリ部員ヲ當館ニ派遣シ本件ニ關ス

ル覺書ヲ提出シタル次第ハ同二十二日附往電第六六六号ヲ以テ不取敢報告ニ及ヒ置キ候處為確認右覺書写別紙茲ニ及進達候條御查閱相成度此段申進候也

(附屬書)

外交部ヨリ在中国山座公使宛覺書写

節略

本國此次内亂實由孫文黃興胡漢民等煽惑主使以致本國民商損失產業甚鉅即各國商務在長江流域者亦頗受影響本國人民莫不痛心切齒於該亂黨等現聞孫文黃興胡漢民等已赴貴國境內留寓距本國一葦可航難保不藉爲根據再圖倡亂在貴國黨念邦交自當有防範之法但本國人民必多憂慮猜疑恐生誤會應請貴大臣轉達貴政府以東亞和平爲急務籌正當切實辦法以弭禍

外交部啓

三八二 八月二十五日 在南京船津領事ヨリ

牧野外務大臣宛(電報)

南方派ノ柏文蔚來館保護方依頼ノ件

極秘(番号ナシ)

八月二十五日午前二時柏文蔚幕僚三名同道來館保護方ヲ依頼ス同人等ハ帝国軍艦ニ逃げ込ムコトヲ希望セルガ同人ノ說ニ依レハ當地ハ今後尚ホ二三日ヲ支ヘ得ヘキ見込アル由ニ付本官ハ日清汽船ニテ出発スルコトヲ勸告シ市川書記生ヲシテ直チニ日清汽船ノ「ハルク」迄同行セシメタリ副官トシテ常ニ同人ニ附添居ル本邦人高梨伸弥其ノ旅費ヲ携帶シテ昨夜既ニ日清汽船ノ「ハルク」ニ赴キ居ルニ付一旦大治ニ赴キ同地ヨリ三菱鉄鉱船ニテ本邦ヘ直航スルカ(之ハ与倉大佐ノ注意ナル由)或ハ直チニ上海ニ赴クカ今朝「ハルク」ヘ到著(脱カ)鈕ノ都合ニ依リ右高梨ト相談決定スル審尚ホ柏ハ安川寿一ノ仮名ヲ用ユル筈ナリ右在支公使及在上海總領事ヘ転電セリ

註 鈎永建

三八三 八月二十七日 在中國山座公使宛(電報)

日本政府ハ孫文黃興等在日亡命者ヲ切実ニ取

第四一六号

貴電第六六六号ニ關シ

帝国政府ハ今回ノ支那内亂ニ關シ亡命者ノ本邦ニ来住スルヲ自ラ希望スルモノニ非ズト雖其既ニ來シテ去ル能ハザル者ニ対シテハ嚴重ニ注意ヲ払ヒ苟モ我領土ヲ根拠トシテ隣邦ニ動乱ヲ企ツルガ如キコトアルヲ許サズ再ビ支那ニ動乱ヲ見ルガ如キハ帝国政府ノ最モ好マザル所ナルヲ以テ我國権ノ保護ノ下ニ在ル地域ニ於テハ官憲ヲシテ特ニ亡命者ニ對スル取締ヲ十分切実ナラシムベキニ付此点ニ關シテハ支那官民共ニ意ヲ安ンジテ可ナル旨回答セラレタシ尚貴官ノ含迄ニ彼等亡命者ノ取扱方ニ付テハ目下講究中ノ次第モアルコトヲ承知シ置カレタシ

三八四 八月二十八日 大島神奈川県知事ヨリ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八三 三八四

当日ハ午後ヨリ天候俄カニ変ジ暴風雨トナリシヲ以テ港務

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八五

四一六

官監督ノ許ニ伝馬船及ビ小蒸氣船ニハ熟練ノ船夫ヲシテ之
レニ当ラシメ二十七日午前一時窃カニ船側ヨリ伝馬船ニ移
シ防波堤外ニ於テ小蒸氣船ニ移乗セシメ（富岡海岸ヨリ上

陸ノ予定ナリシモ劇浪ノ為メ上陸困難ナルヲ以テ長浜検疫
所ニ変更ス）長浜検疫所ヘ向ケ進航シ午前二時着上陸後金
沢街道ニ通スル山路ヲ徒步シ同所ニ待タセアリタル自動車
ニ黃興、三井物産社員石田秀二、本県ヨリ警部一名計三名同
乗シ午前二時四十分出發上京セリ斯クテ自動車ハ途中何等
故障ナク隠レ家ナル東京市芝区琴平町拾三番地信濃屋方ニ
着シタルヲ以テ附近ニ降車シ徒步ニテ同屋ニ入レリ此時午
前四時四十分ナリシ

右及報告候也

追テ静岡丸ノ入港ニ先チ東京各新聞通信員等ハ水上警
察署附近ハ勿論沿岸ニ出張所員ヲ派シ黃興ノ來着上陸
ノ有無等ノ探査ニ努メ何レモ揣摩憶測ノ記事ヲ掲載シ
居レルガ上陸及ビ入京ノ経路等ハ嚴ニ秘密ヲ保タレ今
日迄決シテ他ニ漏洩シ居ラズ右申添候也

申報先、内相

三八五 九月八日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

李烈鈞及唐蟠ノ二人日野大佐外邦人二三名附添ヒ
最モ秘密ナル方法ニテ武陵丸ニ搭乗シ九月八日長沙ヨリ當
地着九月九日軍艦伏見ニテ大治ニ赴キ同地ニテ多分三菱ノ
汽船ニ転乗本邦ニ赴クコトナルヘシ貴電第八〇号御訓示
ノ次第モ有之本官ハ何等關係セス伏見ヘハ与倉司令官ヨリ
交渉シタルモ艦長ハ李ノ便乗ヲ承諾シタルニアラス
在支公使ヘ転電セリ

（欄外註記）

「加納陸軍大臣秘書官ヨリ与倉司令官ガ李烈鈞ヲ助ケ
テ下江セシメタリトノ電報外務省ニ來リ居ル旨内閣書
記官長及海軍側ヨリ聞込タルガ事実ナリヤト電話問合
アリタルニ付絶対ニ右ノ如キ電報ナク夫レハ何カノ間
違ナラント簽置キ為急森山海軍省副官ニ本電並ニ芳沢
來電第三一九号ハ總理及海相ノミニ送リタルモノ故他
ヘ示サ、ル様注意方電話セリ（九月十一日）（徳川捺

印）

漢口ヘ電報シタリ
タシ

三八六

九月九日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

漢口著ニ李烈鈞一行軍艦伏見ニ乗込ノ件
第三一九号（極秘）

李烈鈞一行九月八日午後九時陸軍小蒸氣ニテ伏見ニ乗込ミ
タリ只今迄ハ支那官憲等一切氣付カサルモノノ如シ
右在支公使ニ転電シタリ

三八七 九月十日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

袁世凱ヨリ李烈鈞ノ引渡方依頼アリタル件

第七二三号（至急）

芳沢往電第三一九号ニ關シ李烈鈞ハ銀四十箱携帶日本武官
二名附添岳陽丸ニテ下江セントスル旨ノ電報袁世凱ニ達シ
袁ハ九月十日坂西ヲ通シ決シテ李ヲ殺サ、ルニ付引渡サレ
タキ旨依頼アリタリ引渡ノコトハ無論拒絶スヘキモ李カ此
際日本國ヘ行クコトハ甚タ好マシカラサルニ付商船ヲ以テ
上海ニ赴キ更ニ外國ニ免レシムル方可然ト思料ス卑見御採
用アルニ於テハ至急在漢口總領事及軍艦伏見ヘ御訓令アリ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八六 三八七 三八八

三八六 九月六号 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

李烈鈞及唐蟠長沙ヨリ漢口ニ到着本邦ニ赴ク
ベキ旨報告ノ件

第三一六号

李烈鈞及唐蟠ノ二人日野大佐外邦人二三名附添ヒ
最モ秘密ナル方法ニテ武陵丸ニ搭乗シ九月八日長沙ヨリ當
地着九月九日軍艦伏見ニテ大治ニ赴キ同地ニテ多分三菱ノ
汽船ニ転乗本邦ニ赴クコトナルヘシ貴電第八〇号御訓示
ノ次第モ有之本官ハ何等關係セス伏見ヘハ与倉司令官ヨリ
交渉シタルモ艦長ハ李ノ便乗ヲ承諾シタルニアラス
在支公使ヘ転電セリ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八九

四一八

ハ与倉司令官ニ対シ李ノ本邦渡來ハ帝國政府ノ好マザル所ナルニ付此目的ノ為一切ノ便宜ヲ与フベカラザル旨電訓セリ就テハ貴官ニ於テモ本邦商船ニテ李ヲ下江セシメ又ハ本邦ニ渡來セシムルカ如キコト無之様關係汽船会社又ハ船長ニ示達方至急御取計相成タン

(漢口ヘハ)右直接八木ニ電訓済

註 本件電報ノ次第ハ山座公使ニ対シ九月十一日發第四四九号電報ニテ通報セリ

三八九 九月十三日 在南京船津領事ヨリ
牧野外務大臣宛

李烈鈞逮捕ニ関スル安徽都督ノ依頼拒絶ノ件

附屬書一 九月八日倪嗣冲安徽都督宛船津領事宛電報

李烈鈞逮捕ニ關シ依頼ノ件

二 九月十日船津領事發倪嗣冲安徽都督宛電報

右依頼拒絶ノ件

機密第六七号

(九月二十一日接受)
大正二年九月十三日

在南京

貴国人両名ヲ隨ヘ今晚岳陽丸ニテ下江セント敝国外務部ノ來文ニ拠レバ貴國公使ノ咨函ニハ敝國ノ亂事平定ヲ贊助スルノ意ヲ極称セルヲ以テ篤ク邦交ヲ念フノ意ヲ微スルニ足リ感謝スル所ナリ李烈鈞ハ倡乱ノ首領ナリ岳陽丸ハ貴國商船ニシテ軍艦ノ治外法權ヲ有シ他人ノ検査ヲ許サルトハ迥カニ異ナルヲ以テ岳陽丸カ安慶蕪湖ニ到着スルヲ俟チテ員ヲ派シ兵士ヲ帶同シテ該船ニ赴キ捜索逮捕セシメントス萬一李烈鈞カ該船内ニ在ラザルトキハ以後貴國商船入港スルヲ待チ受ケ捜索逮捕ヲ繼續執行セントス此ニ貴領事ニ懇請シ両国ノ陸誼ヲ顧ミ返電承諾セラレタシ想フニ貴領事モ亦タ之ヲ諒トシ必ス贊助スルヲ樂シムナラン

九月十一日御電訓ニ接シタルヲ以テ小官ハ直ニ当地日清汽船会社ヘ右趣嚴重申渡置候右併セテ及報告候 敬具
本信写在北京公使ヘ送付致置候
註 別紙甲号及乙号ノ和訳文ハ共ニ在南京日本領事館ノ作成
(附屬書一)
別紙甲号写
倪嗣冲安徽都督來電
大日本國領事鑒據探敵國匪首李烈鈞携帶生銀四十箱隨貴國人兩名擬於今晚乘岳陽丸下駛等因查敵國外務部來文極稱接貴國公使咨函贊助敝國平亂之意足徵篤念邦交至爲感謝李烈鈞係倡亂首領岳陽丸係貴國商船廻與兵艦之有治外法權禁人查視者不同擬於岳陽丸到安慶蕪湖停泊時派員帶數兵往該船搜查逮捕如此次李烈鈞不在該船下如貴商船到時再繼續執行奉懇領事顧兩陸誼覆電認可以便實行想貴領事諒必樂於贊助也

安徽都督兼民政長 倪嗣冲 八日

(右和訳文)

大日本國領事殿

探知スル所ニ依レバ敝國ノ匪首李烈鈞現銀四十箱ヲ携帶シ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三八九

領事 船津辰一郎(印)
外務大臣男爵 牧野伸顕殿

安徽都督兼民政長倪嗣冲ハ九月八日附ヲ以テ元江西都督李烈鈞ガ現銀四十箱ヲ携帶シ邦人二名附添ヒ同夜我日清汽船会社岳陽丸ニ搭乗シ下江セルニ付キ同船カ安慶蕪湖等ニ寄港ノ際ヲ以テ人ヲ派シテ捜索逮捕セシメ度ク尚ホ万一同人ガ岳陽丸ニ搭乗シ居ラザル節ハ以後本邦船舶ニ向テ捜索逮捕ヲ繼續執行スベキ旨電報シ来り候ニ就テハ(別紙甲号参照)不取敢九月十日附ヲ以テ我商船ハ其性質軍艦ト同一視スヘキニ非ネトモ條約ノ規定ニ拠レバ同シク治外法權ヲ有シ他國ノ軍人警官ト雖モ本国領事官ノ承諾ヲ経ルニ非ズンバ任意ニ船内ニ立入り犯人ヲ捜索逮捕スルコト能ハズ而シテ前記安慶蕪湖ノ両地ニ於テハ本国領事官ノ設置無之ニ由リ遺憾乍ラ照会ノ趣ニ適フ能ハズ唯該船舶埠頭到着ノ際犯人ノ上陸スルヲ待チテ嚴重警戒逮捕スルヨリ他ニ良法ナカルペント婉曲ニ打電拒絶致置候(別紙乙号参照)

尚李烈鈞ニ關シテ其後彼ノ渡來ハ帝國政府ノ好マザル所ナルヲ以テ万一該人ヲ本邦商船ニテ下江セシメ又ハ本邦へ渡來セシムルコトナキ様關係汽船会社又ハ船長ニ通達可致旨

(附屬書二)
別紙乙号写
復安徽都督倪嗣冲電
安徽都督兼民政長 倪嗣冲

安慶倪都督鑒齊電敬悉貴國亂事速平敝國官商均極盼望惟敝國商輪與兵輪雖稍不同然船隻範圍以内固有治外法權凡他國軍警不能任意上船搜查如有逮捕事宜祇可由地方官先行照會就近敝國領事官允許派員捕拿引渡否則不能聽其自由行動此

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九〇

四一〇

載明約章詳諸公法至貴地無領事官駐紮手續難辦祇可在該商

輪埠頭從嚴防範毋令匪徒登岸或俟登岸嚴密逮捕乃是正辦如

照來電辦法一則有違條約一則違背公法本領事碍難認可尚乞

原之特電復

十日

(右和訳文)

安慶倪都督殿

九月八日附貴電ノ趣敬承、貴國亂事速平ノコトハ敝國官民ノ均シク希望スル所ナリ惟フニ敝國商船ハ其性質軍艦ト同シカラザレトモ我船舶内ニアリテハ同シク治外法權アリ他國軍人警官ノ任意上船捜索スルヲ許サス若シ逮捕ヲ行ハントスルトキハ予メ地方官ヨリ附近ノ領事官ニ照会シ允許ヲ得其逮捕引渡ヲ受クベシ然ラズシテ其自由行動ニ任スル能ハス是レ条約ニ明記スル所ナリ貴地ハ領事官ノ駐紮ナキヲ以テ其手続ヲ採ル能ハス抵タ該船舶ノ到着ヲ俟チテ嚴重ニ警戒シ匪徒ヲ上陸スルコトナカラシムルカ或ハ其上陸ヲ俟チテ逮捕スル方法アルノミ御来電ノ辦法ハ一ハ条約ニ差支ヘ一ハ公法ニ違背スルヲ以テ本領事ハ承諾シ難シ請フ之ヲ諒セヨ

ト存セラレ候右不取敢御参考迄此段申進候也
(附屬書)

九月十三日在漢口与倉司令官発陸軍大臣宛電報写

極秘

去ル八日李烈鈞唐麟等長沙ヨリ日清汽船ニテ当地着爾後同船ニテ上海方面ニ逃ルル計画ナリシモ乗船ヲ拒絶セラレ且ツ汽船ノ附近ニハ武昌側ノ探偵船アリ追害窮追頗ル急ニシテ援助ヲ求メラレ他ニ手段ナク夫レ等ヲ見殺シスル訣ニ行カス其内探偵船ニ追ハレ止ムナク大治行ノ軍艦伏見ニ飛ヒ込マシメ同地ヨリ磁石船神明丸ニテ十二日日本ニ向ケ亡命セリ尤モ探偵船ハ速力逞ク更ニ発見セラルルコトナカリシ、當時同人ニ關スル訓令未着而カモ四團ノ状勢止ムヲ得サリシ為メ遂ニ右ノ如キ処置ヲ執ルニ至レリ

三九一 九月十七日 南福岡県知事ヨリ
原内務大臣宛(電報)

李烈鈞若松着姫島丸ニ乗換へ大阪へ向フ件

支那亡命者李烈鈞一行ハ本日正午若松ニ到着シ三菱所有姫島丸ニ乗換ヘ午後六時門司出帆大阪ニ向フ

註 本電報写九月十八日外務省接受

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九一 三九二

十日 船津領事

三九〇 九月十六日 攝野外務大臣ヨリ
在中國山座公使宛

李烈鈞大治ヨリ日本ニ直航スルニ至リタル件

附屬書 九月十三日在漢口与倉司令官発楠瀬陸軍大臣宛電報写

李烈鈞日本ニ向ケ亡命ノ件

政機密送第二六〇〇号

李烈鈞ヲ本邦ヘ亡命セシメザル様取計方ニ関スル貴電第七二三号ハ本月十日午後八時三十分接到致候ニ付即刻陸海軍両大臣ト協議ヲ遂ゲ其結果同夜深更往電第四四九号ヲ以テ貴官ヘ電報スルト同時ニ在上海、南京、九江及漢口各領事ヘモ夫々必要ノ電訓ヲ発シ尚前記両大臣ヨリモ同様必要ノ向々電訓ヲ発シタル次第ニ有之候處右様ノ手続ヲ為シタルニ拘ハラス李烈鈞ハ往電第四五九号ヲ以テ及電報候通二日大治ヨリ本邦ヘ直航スルニ至リタルハ甚タ遺憾トスル處ニ有之候而シテ右ノ始末ニ付在漢口与倉司令官ヨリ陸軍大臣ヘ別紙写ノ通電報アリタル趣ヲ以テ同大臣ヨリ内示ニ接シ候處同電報ノ末尾ニ所謂「同人ニ關スル訓令」トハ本大臣ト協議ノ結果陸軍大臣ヨリ発シタル電訓ヲ意味スル義

三九二 九月十八日 福井外務次官宛
附屬書 右記事

關都參謀第一七八号 (九月二十五日接受)
滿洲ニ於ケル第二革命党ニ就テノ記事送付ノ件
大正二年九月十八日

外務次官 松井慶四郎殿

別冊滿洲ニ於ケル第二革命党ニ就テノ記事一部御参考迄及進達候也
(附屬書)

滿洲ニ於ケル第二革命党ニ就テ復州管内ニ於ケル暴動後南方ノ擾乱ニ伴ヒ注意人物トシテ大連ニ亡命スルモノ俄ニ増加シ七月中旬ニ到リ同地ニ在主ナル人物ハ孫佐之、周況等以下十数名ニ達セリ彼等ハ大連ヲ根拠トシ奉天省内各地ニ於テ南北戰乱ヲ機トシ竊ニ自称宗社黨員ト聯絡シテ暴挙ヲ画策セントセシモ我力官憲ノ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九二

四二二

取締嚴重ナル為何等成ス所ナク昨今殆ト跡ヲ没スルニ至レ
リ茲ニ諸情況ヲ綜合シ其ノ顛末ヲ揭ク

七月二十日頃自称宗社黨員張潤三ナルモノ大連在住ノ黨員
ヲ代表シ恭親王及胡子忠ニ宛テ過般來復州方面ニ於ケル我
カ党ノ企図ハ宗社黨員ノ援助ナクシテ瓦解ニ帰シタリト雖
今ヤ南北戰乱ノ勃発ハ正ニ袁世凱ヲ討伐スヘキ恰適ノ時機
タルヘキヲ述ヘ其ノ回答ニヨリ活動セント企図シタルカ如
シ

然ルニ第一次革命當時黃興ノ密偵トシテ顏興旺ト氣脈ヲ通
セル周況ハ二十三日上海ヨリ來連シ黃興ノ使命ト号シ顏興
旺及張潤三ト會見シ同志ノ糾合ヲ勸誘ス當時宗社黨ヲ以テ
自認セル張潤三ハ素ヨリ挙事ノ意アリシカ如シト雖久シク
日本ノ治下ニ庇護ヲ受ケタルヲ名トシ進ノテ立シニ到ラス
一方顏興旺ハ大言壯語周ニ誇ルニ若シ武器タニアラハ一二
万ノ兵ハ立所ニ集マルヘキヲ以テシ一時周況ヲ瞞着シ得タ
リト雖幾何モナクシテ顏ノ定見ナク万般ノ言動ハ名ヲ革命
ニ藉リテ專ラ私服ヲ肥スニアルコト周ノ看破スル所トナリ
今ヤ周ト顏トハ相絶シニ到レリ
斯クシテ周ハ最早顏ト相絶チシカ如シト雖尙ホ奉天瓦房店

上海芝罘方面ノ同志ト連絡シ或ハ軍資調達ノ為一時復州塩
務局ノ襲撃ヲ企ツルト称シ又大連大山通ニ事務所ヲ設ケテ

平民社ト号シ役員ヲ選ヒ南方黃興東北方同志トノ間ニ連絡
シ機ヲ見テ奉天ニ事ヲ挙ケンコトヲ謀レリ當時北方ニ於テ
ハ徐麟瑞其ノ他軍隊將校中ノ有力者尠カラサリシト言フ今
平民社役員ト号スルモノヲ挙クレハ左ノ如シ

部長劉石蓀 党員勝徳武

副部長甯夢岩 同孫佐之

外交係于蔭週 同李仲剛

通信係劉臣 同莊蘆生

同劉相廷

同吳慎之

爾來七月末ニ到ル迄大連ニ於テハ或ハ恭親王派ト称シ或ハ
革命派ト号スル金漢章、北京稽勦局員劉成一、劉耀臣、孫
祥福、元閨外革命軍營長孫孟九等相次テ亡命シ來リ何レモ
同地革命黨員トシテ日々凝議シツツアリ

又上海ヨリ渡セル沈懋昭ハ自ラ国民党ト称シ劉石蓀ノ一
派ト合同シ泰東日報社長金子平吉外數名ヲ招キテ滿洲有力

者ヲ懷柔シ同時ニ日本ノ後援ニヨリ事ヲ挙ケンコトヲ謀レ
リ又八月上旬ニ到リテハ安徽都督府軍事顧問タリシ澹台樹
人及吳毓崑等ノ亡命者ハ顏興旺、張潤三ト相結フ等有名無
実ノ結社團結ハ相次テ現実シ革命ニ関スル流言蜚語又絶ユ
ルコトナカリキ特ニ革命党一味ノ首領ト目セラレタル甯孟
言、孫佐之ハ八月十三日ニ到リ大連及旅順ニ於テ日本軍隊
拠下ノ兵器彈薬被服等ヲ購入シ奉天在住ノ徐可良、遼陽在
住ノ金誠一及鳳凰城ノ各黨員ニ輸送セント画策中ノ處同十
六日民政署ノ知ル処トナリ大連ニ於テ革命戦ノ画策ラナス
カ如キハ外交上ノ關係許スヘカラストシテ解散退去ヲ命セ
ラレ一時名声誇大ナリシ平民社ハ解散ノ上其ノ黨員ノ一部
ハ北方ニ残余ハ市内各所ニ離散スルニ到レリ然レトモ甯孟
言、孫佐之ハ絶エス北方各地ニ來往シアリシカ如シ當時奉
天ニ於テハ李明鑑、伍在伍、涂開祺、陳廣仁（日本人同行
セリト云フ）等アリテ大連鐵嶺長春遼陽等ニ往復シ特ニ李
明鑑ハ第二革命党ノ計画失敗ハ秘密漏洩ニ帰スルモノトナ
シ一層隱密ニ黨員ノ結束ニ努メ尚馬賊ト連絡ヲ図リツシア
リト言ヒ鐵嶺ニ於テハ商人ト自称シ伝海山金有山等アリテ
又前記奉天ノ党員ト通シ遼陽ニ於テモ平民社解散員石巨蔚

要之滿洲ニ於ケル第二革命党ナルモノハ素ヨリ同志一体ノ
事ヲ挙クルコト能ハサルニ至レリ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九三

四一四

モノニアラス而モ其ノ党员タル多クハ定見ナク軍資ナク唯

名ヲ宗社或ハ革命ニ藉ルノ不逞ノ徒タルニ過キス此烏合ノ衆ヲ以テ尚已倒ノ頽勢ヲ挽回シ袁政府ヲ聳動セシメントスルカ如キハアリ得ヘカラサルコトト信ス

三九三 九月十八日

南福岡県知事ヨリ
牧野外務大臣宛

李烈鈞一行若松及門司二入港シ小蒸汽船ニ移

乗シ大阪ニ向ヒタル件

高秘第三五六五号

大正二年九月十八日

(九月二十二日接受)

福岡県知事 南 弘(印)

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

李烈鈞一行来朝ニ閑スル件

(一) 李一行ノ入港

李一行ハ昨十七日正午十二時無事六連島着李烈鈞及九江鎮守使取鶴生并ニ日野大佐ノ三名ハ神明丸ニアリ湖南獨立師団長唐麟及豊岡特務曹長(日野大佐ノ隨行)ハ歐羅巴丸ニアリ六連島ニ於テ密カニ検疫ヲ受ケ欧羅巴丸ハ門司港ニ神明丸ハ若松港ニ入港セリ

(二) 本件ニ閑スル新聞記者ノ動靜

本月十六日正午十二時頃大阪朝日新聞門司支局ニ対シ上海ヨリ入電アリ曰李烈鈞一行ハ十七日頃門司到着ノ予定ナリト電文簡ニシテ判明セサルモ門司入港ノ汽船又ハ長崎ヨリ汽車ニテ來門スルカ又ハ既ニ來門通過シタルモノ

ナルベシトテ終日終夜門司若松間ヲ物色シツ、アリ十七日ハ早朝ヨリ在門司各新聞記者ニ於テ門司港ハ勿論停車場電車停留場ニ至ル迄警戒線ヲ張リ居リタルガ午後一時

頃福岡日々新聞及大阪朝日新聞、門司支局ニ対シ大阪ヨリ入電アリ曰李烈鈞、取鶴生、日野大佐ハ神明丸ニテ唐麟及豊岡某ハ欧羅巴丸ニ分乗シ支那大治発亡命セリ李ハ吉

田清風ト変名シ居ル筈ニ付右汽船入港ノ際注意スヘシ云々トテ頗ル緻密ナル通信アリタルヲ以テ大阪朝日及福岡日々新聞記者ハ直ニ若松港ニ急行シ碇泊中ナル神明丸ヲ

訪ヒ日野大佐ニ面会ヲ求メタルヲ以テ大佐ハ記者ヲ船長室ニ引見シ支那ノ現状及其ノ他ノ雑談ニ時ヲ移シ居ル隙

ニ乗シ李烈鈞、取鶴生ノ両名ヲ姫島丸ニ移シ門司白木崎ニ急行シタルヲ以テ記者等ハ李ノ一行ノ所在ヲ知ル能ハズ日野大佐ハ後小蒸汽船ニ移乗シ本夜門司川卯旅館ニ投宿スルヲ以テ來訪スペシト告ケ門司港ニ入り白木崎沖ニ

在ル姫島丸ニ移リ一行ト共ニ大阪ニ向ケ出発シタルヲ以テ記者等ハ神明丸及欧羅巴丸ニ支那人ガ乗込ミ居ラス只日野大佐ノミ神明丸ニアルヲ以テ大阪通信ノ誤リナルカ又ハ既ニ何レカニ隠レタルモノナルベシトテ又々關門若

(イ) 保護ノ概要

欧羅巴丸神明丸ハ何レモ予定ノ通り入港セシヲ以テ両船

共人目ヲ避ケ他船ト交通ナキ場所ニ仮泊シ三菱ニ於テ準

備シ置ケル小蒸汽船姫島丸ニテ欧羅巴丸ニ潜メル唐麟及

豊岡特務曹長ヲ之レニ移乗セシメ次テ若松港ニ廻航シタ

ル神明丸ニ在ル日野大佐及李烈鈞、取鶴生ノ三名ヲ移シ急遽港外ニ出テ門司白木崎ノ沖合ニ於テ糧食寝具ヲ積込

ミ保護ノ為メ巡査二名ヲ平服ニテ乗込マシメ午後六時無事大阪ニ向ケ出帆シタルヲ以テ夫々電報通報ヲナシ置キ

タルガ昨夜保護巡査ノ電報ニ依レバ李ノ從者三名ハ本夜

山口県三田尻港ヨリ上陸鉄路東上ニ变更シタルヲ以テ保

護方三田尻警察署ヘ引繼ヲ了シタル趣ニテ其姓名ハ唐麟

取鶴生及豊岡特務曹長ノ三名ナリ右ノ事情ハ本朝夫々電報シ置キタリ

(三) 本件ニ閑スル新聞記者ノ動靜

松等ヲ物色シツ、アリ要スルニ記者等ハ李一行ノ日本ニ亡命シタルハ確信アルガ如キモ其所在ニ付テハ未ダ知ルモノナシ

申(通)報先 内、外相 大阪府知事

三九四 九月二十三日 松井政務局長ヨリ
岡警察監視局長監(註)
安樂警視監(註)
一宛

日本ニ亡命ノ中国第二革命関係者ニ閑スル調

査書送付ノ件

附屬書 右調査書

機密扱半公信

拝啓陳者支那亡命者ニ閑スル調査書曩ニ及御送付置候処今般更ニ別紙ノ通増補ノ上茲ニ及御送付候也

註 松井外務次官ハ當時政務局長ヲ兼務セリ

(附屬書) 日本ヘノ亡命中国人ニ閑スル調査書

(大正二年九月二十二日調)

(斬獲懸賞十万元)

黄興

(八月四日香港発八日馬闊)

岡本義一ト偽名ス

(同居)

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九四

四二五

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九五

四二八

(黄興ノ秘書) 張鴻仁 八月二十三日神戸ニ来レリトノ報アリ

唐月地

陸惠生

者) 八月二十三日張鴻仁等ト共ニ神戸ニ来レリトノ報アリシカ日下黄興ト同居

在京(徐宝山暗殺関係嫌疑)

貴大臣督照備案為荷順頌

希

外務大臣男爵牧野伸顯閣下

中華民國臨時代理公使 馬廷亮(印)

中華民國二年十月二十一日

(右和訳文) (註 日本外務省作成)

(張瑞ト偽名ス) (鉢永建ノ副官) 陳僕 周奎孫 同
シテ鉢永建ヲ内助セセルモノ

上海ヨリ八月二十七日神戸着(神戸市栄町一丁目)
田中旅館九月一日東京着(麻布新網町一、宮下サダ方)

(嘉錄何富豪ニ)

徐振生

八月二十三日神戸ニ来レリトノ報アリ

同

馬臨時代代理公使

以書翰致啓上候陳者昨日外交部ヨリ左ノ電報ヲ接手致候

密カニ探聞スル所ニ拠レハ孫文黃興李烈鈞胡瑛等ハ日本

ニ逃竄シ秘密ニ聚会シ且ツ現在日本商人ニ運動シ中國實業ヲ合併セントスルノ事実アリト誠ニ恐クハ外人其愚ニ

スル所トナリ枝節ヲ生スルヲ致サン即チ貴官ヨリ日本政府ニ対シ凡ソ中國亂党ガ日本實業家ニ運動シ中國内地ノ

實業ヲ合併セントスルモ政府ハ一切承認セサル旨ヲ声明スヘシ

右ニ依リ茲ニ書翰ヲ以テ声明致候間御了知相成度此段申進

候 敬具

中華民国二年十月二十一日

三九五 十月二十一日 在本邦中國臨時代理公使ヨリ
牧野外務大臣宛
ニ長崎上陸鐵路東上ス
孫文黃興等ガ日中實業合辦ヲ運動中ノ由ナル
王中国政府ハ之ヲ承認セザル旨声明ノ件
外癸字第十八号
(十月二十一日接受)

敬啓者昨接外交部電開密探聞孫文黃興李烈鈞胡瑛等逃竄東洋秘密聚會且現在運動日商合辦中國實業情事誠恐外人受其所愚致生枝節應由該代辦向日政府聲明凡中國亂黨運動日本實業家合辦中國内地實業政府概不承認等語爲此備函聲明即

他黃興初メ南方派ノ重立者中實業家ト交通シタル事実ヲ認メズ

三九六 十月二十四日 警視庁ヨリ
外務省宛
孫文ノ我實業家ト接觸ノ模様報告ノ件

(十月二十五日接受)

三九七 十一月二十一日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

何海鳴其他革命黨員ノ所謂陰謀ニ闘シ中國政

府ヨリ外交団ニ要請アリタル件

機密第四〇四号

大正二年十一月二十一日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

十月六日在天津日本租界佐伯洋行ニ在シテ支那探偵ノ一人

カ胡俠魂ナル革命黨員ノ一人カ車ヲ雇ヒ之ニ漬物籠及手提鞆一個ヲ積ミ新停車場ニ先行セシメ自ラハ又佐伯洋行ニ帰

リタルヲ見該探偵ハ人力車ヲ追蹤シ支那街ニ入りテ之ヲ逮捕シ警察厅ニ引致シタルニ右物品中爆弾四個及何海鳴ノ親

筆書翰三通ヲ発見セリ該書翰ニ依レハ何海鳴一派ハ密カニ刺客ヲ北京ニ送リ現政府顛覆ノ策ヲ廻ラシ剥ヘ政府軍隊ノ名義ヲ詐用シテ外國ニ募ラ挑ムノ意図アルコト明ナル処右

三九六 十月二十四日 警視庁ヨリ
外務省宛
孫文ノ我實業家ト接觸ノ模様報告ノ件

支那亡命者ニ闘スル件
孫文ガ本年八月十八日入京後實業家ト会セルハ僅ニ三回ニシテ其第一回ハ八月二十九日午後七時二十分三井物産会社森格ノ案内ニテ御殿山ニ益田孝ヲ訪ヒ同人及三井物産会社取締役山本条太郎ト会談十一時十五分帰宿

第二回ハ九月十八日午後六時五十分渋沢男ヲ王子ノ別邸ニ訪ヒ先着ノ中野武當外兩三名ノ邦人ト会シ十一時十分帰宿

第三回ハ十月六日再び前記ノ渋沢男ヲ往訪セルモノニシテ第一回第二回共会談ノ内容ハ不明ナルモ第三回ハ既報ノ如ク孫ヨリ男ニ對シ吾等同志ハ臥薪嘗胆ノ思ヲ為シ軍資金ノ如キモ漸ク調達ノ途ヲ得タレバ茲ニ再び討袁軍ノ再挙ノ企画シツ、アリ依テ貴下ノ力ヲ借リ貴國ノ政府殊ニ陸海軍省ヲ説キ後援ヲ与ヘラレタシト求メタルニ男ハ之レニ反対シ切ニ其再挙ヲ諫止シタル事實アレバ吾ガ實業家等ガ孫文等ニ再挙ノ資金ヲ与フルガ如キコトハ差向キナカルベキカ其

ヲ説キ後援ヲ与ヘラレタシト求メタルニ男ハ之レニ反対シ切ニ其再挙ヲ諫止シタル事實アレバ吾ガ實業家等ガ孫文等ニ再挙ノ資金ヲ与フルガ如キコトハ差向キナカルベキカ其

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九六 三九七

ハ啻ニ支那ノ治安ニ害アルノミナラス外人ノ生命財産ニモ

関係アルヲ以テ嚴重懲罰ヲ加ヘサルヘカラサルニ付外交団ヨリ各地領事団ニ転筋シテ該犯ノ逮捕引渡ヲナサシムル様

取計アリ度旨別紙甲号写ノ通十月十六日附書翰ヲ以テ何海鳴信書写真相添首席公使ニ照会致來リ候處首席公使ハ右何

キヲ以テ其ノ外国居留地ニ在ルニ於テハ既定ノ手続ニ從ヒ之方逮捕及ヒ支那官憲ニ引渡方領事団ニ訓令スルト同時ニ

其旨外交部ニ回答スルコト、致度旨十月二十一日附外交団回章第二百十七号ヲ以テ提議致候

右回章ハ英、墨、葡三公使館ヲ除ク他ノ各国公使館ノ回覧ヲ經テ當館ニ回送シ來リ本使以前ニ閱覽ヲ了シタル各國公使ハ何レモ首席公使ノ提案ニ賛成致シ居リ候處本使ニ於テモ何海鳴ノ書翰ニシテ彼ノ親筆ナリトセハ其九月十五日附鼎某ニ送リタル密書中ニ見ルカ如ク政府軍隊ノ名義ヲ詐称シ英露両国人ニ危害ヲ加ヘ日本ヲシテ仲介セシメ以テ國際紛争ヲ惹起セシメントスルカ如キハ言語道断ノ義ニ付他公使ト同シク首席公使ノ提案ニ同意ノ旨同回章ニ附記シ置候處其後全公使ノ回覧ヲ了シタル回章ニ依レハ各國公使共一

同首席公使ノ提案ニ同意ヲ表シタル由ニ候

右各國公使ノ同意ニ基キ首席公使ハ別紙乙号写ノ通十一月五日附ヲ以テ外交部ニ對シ同部ノ申出ニ同意シ別紙丙号写

ノ通必要ナル訓令ヲ在上海領事団ニ發送セル旨外交部ニ回致候趣ノ處外交部ハ右接到後直チニ十一月七日附ヲ以テ

各國公使ニ對シ別紙丁号同文照會ヲ以テ先ツ何海鳴事件ニ關スル各國公使ノ措置ニ對シ謝意ヲ表シタル後次ニ同部ノ入手シタル密報ニ依レハ李烈鈞及ヒ林虎ハ爆裂弾ヲ携ヘテ

上海ニ來リ豊陽館（日本人旅館）ニ宿泊シ居ルニ付何海鳴ノ場合ト均シク逮捕引渡方上海領事団ニ電飭セラレ度旨申

越シ又曹外交次長ヨリモ本使ニ對シ同様ノ依頼並ニ何海鳴カ終始日本ト上海トノ間ヲ往復シ居ル旨内話有之候仍而本

使ハ電報ヲ以テ在上海總領事ニ事実ノ真相ヲ問合セタルニ右ハ全ク無根ノ風説タルコトヲ確カメ候（十一月七日在上

海總領事宛電第一四〇号及十一月八日同總領事發本使宛電報第一一五号參照）ニ付不取敢右有吉總領事來電ノ内容ヲ漢訳シ曹外交次長ニ送附致シ置キ候

然ルニ一方天津ニ於ケル何海鳴陰謀暴露事件ニ關シテハ十月三十日附機密第四二号信ヲ以テ在天津窪田總領事ヨリ本

省へ報告ノ次第有之タル如ク今回ノ胡俠魂爆弾運搬事件ノ裏面ニハ頗ル疑ハシキ点少ナカラスト認メラレ從而此際同様事項ニ關スル要求ニ對シテハ慎重ニ事實ノ調査ヲナス必要アリ容易ニ外交部ノ言フ所ヲ信シテ之ニ同意スルハ将来ニ害ヲ貽ス虞有之殊ニ事日本ニ關スル以上此際外交部ニ対シテハ勿論外交団ニ對シテモ一応ノ警告ヲ与ヘ置ク必要可有之ト思料候ニ付本使ハ先ツ外交部ニ對シ別紙戊号ノ通天津爆弾発見事件ニ關スル外交部書翰中ニ記載セル事項中日本租界佐伯洋行ニ關スル部分ハ在天津帝國總領事ノ詳細ニ取調ヘタル結果ニ徵スルニ全然事實無根ノコトナル旨指摘致置候

之レト前後シ外交部ハ又タ上海会審衙門ニ拘留中ナル熊仁ノ引渡方ヲ外交団ニ要求シ來リタルニ付筆頭公使ハ此等諸件ヲ議スル為メ十月八日公使會議ヲ召集致候

同會議ニ於テ先ツ熊仁事件ヲ議シタルニ付筆頭公使ハ本件ノ内容ニシテ何海鳴ノ如ク普通ノ重罪ヲ構成スルモノナルニ於テハ外交部ノ要求通逮捕引渡ヲ行フヘシトノ意味ニテ回答セントテ其案ヲ提示シタルニ付本使ハ何海鳴事件ニ關シテハ外交団回章第二一七号ヲ以テ首席公使カ提案セラレタ

三 第二革命ト亡命政客渡日ノ件 三九八 三九九

四三二

テ外交部ニ回答致シ候

次ニ李烈鈞及林虎ノ逮捕引渡要求ニ關シ本使ハ前掲有吉総領事來電ノ内容ヲ語リ支那側ノ言フ處誤謬多ク到底一々取上クルコト能ハサル旨ヲ告ケ各國公使ノ考量ニ附シタルニ結局首席公使ハ熊仁事件ニ於ケルト同様ノ意味ニ於テ同文回答ヲ發スヘシト提議シタルカ本使ハ本件ニ所謂關係地點カ日本旅館タルニ鑑ミ本使ハ外交部ニ對シ特ニ説明ヲ加ヘサルヘカラサルヲ以テ各國公使ト共ニ同文回答ノ形式ヲ用ユル能ハスト陳ヘタル為メ結局前掲熊仁ニ關スル首席公使ノ回答ト略ホ同様ノ意味ニ於テ各公使館ヨリ別々ニ外交部ニ回答ヲ發スルコト、相成リ候

右關係書類相添此段報告申進候也

本信寄送付先 在天津總領事及在上海總領事

註 附屬書省略

三九八 十一月二十七日

牧野外務大臣ヨリ
在中國山座公使宛(電報)

何海鳴一派ノ拳兵計画ニ關スル情報ヲ中國當局者ニ内報方ノ件

第六三四号

三九九 十一月二十八日

牧野外務大臣ヨリ
在中國山座公使宛(電報)

何海鳴等ノ拳兵計画ニ關スル情報ヲ中國當局者ニ内報ノ儀ハ此際見合可然旨稟申ノ件

第一〇四六号

貴電第六三四号ニ關シ李ノコトハ近着日本新聞(例ヘバ十一月二十一日時事新報)ニ掲載サレ居ル處之ヲ全然間接ノ方法ヲ以テ支那側ニ内通スルモ何等恩ラ壳ルノ意味ナク却テ支那新聞等ニ掲載サレ喧ヶ間敷問題ト相成ルヘキハ必定

ニシテ結局彼等カ日本ヲ策源地トナシ居ル事実ヲ暴露サレ我予テノ声明ニ反スルコトトナルヘク殊ニ南京ニ於テ事ヲ起スカ如キ情報伝ハラバ張歎处分ノ如キハ全然不可能トナルヘシ就テハ御申越ノ措置ハ此際見合ス方可然李一派ノ活動ニ対シテハ嚴ニ取締法ヲ講シ尚聞カザルニ於テハ国外ニ放逐セラルル方可然カト思考ス

情報ニ依レバ亡命中ノ何海鳴一派ハ孫文及李烈鈞(李ハ目下長崎ニ在リ柏文蔚ト往来シツアリ)援助ノ下ニ蒙古軍、白狼軍及各省軍隊ト連絡ヲ取リ事ヲ起スノ方略ニテ何等カノ画策ヲナシ居ルモノ、如シ右資金ハ本邦ニ於テ調達絶望ト認メ已ニ南洋ノ同志ニ向テ援助ヲ申込ミ最低額五万円調達次第先シ南京及山東ニ於テ拳兵ノ筈ナリト云フ右情報ハ確実トハ断言シ難キモ支那側ノ参考ニモ相成ルベシト被存ニ付御見込次第ニ依リテハ貴官ヨリ当方ヨリノ通報トナサズ全然間接ノ方法ヲ以テ當局者ニ内通シ置カルル様致タシ